

# 世界の山旅

## 初夏の旅

「一人では行けない、でも、行きたい。」  
それにお応えするのが  
実体験に基づいた  
アルパインツアーの旅づくりです。

総合ツアーカタログをご請求ください。

雄偉な山の上ホテルに延べ3泊し3大アルプスを巡る 牧野的な高原、連なる大岩峰、実証アルプス最大の水洞 3ヵ国をトレッキングで巡るツール・ド・モンブラン

### スイス・アルプス・ハイキング 8日間

出発地 大阪・名古屋・東京  
●5/24発……………¥458,000  
●7/8●7/15●8/19発……………¥466,000  
●7/22●7/29発……………¥478,000

現地に精通したツアーリーダーが同行ご案内

### 初夏のカナディアン・ロッキー 満喫ハイキング 8日間

出発地 大阪・東京  
●8/8●8/19●8/26発……………¥362,000  
●8/9●8/16発……………¥375,000

週末の3日間を利用して韓国最高峰に登頂

### “ツツジ咲く” 韓国最高峰 漢拿山登頂 3日間

出発地 大阪  
●5/25●5/8発……………¥132,000

カナダの湖東端に浮かぶ、大自然の宝庫を歩く!

### ニューファンドランド島 大自然満喫 9日間

出発地 大阪  
●6/11発……………¥598,000

### チロル、ドロミテ、オーストリア 3つの最高峰展望と絶景の谷 9日間

出発地 大阪・名古屋・東京  
●7/3発……………¥492,000  
●7/10●9/4発……………¥498,000  
●8/1発……………¥548,000

日帰りハイイクと登山ハイイクを楽しむ、やや難関向き

### ロッキー縦断 ベスト・ハイキング 10日間

出発地 大阪・東京  
●5/27発……………¥488,000  
●7/12発……………¥518,000  
●8/12発……………¥598,000

南海に聳える最も手近な4,000m峰に登る

### マレーシア最高峰 Mt.キナバル登頂 6日間

出発地 大阪  
●5/19●6/9●6/30発……………¥174,000  
●7/21発……………¥205,000  
●8/25発……………¥224,000

シルクロードの歴史、天山山脈で花と氷河と雪山を満喫

### 天山山脈核心部ヘリ・フライトと フラワーハイキング 10日間

出発地 大阪・東京  
●7/18●8/1●8/15発……………¥412,000

### モンブラン山群一周 トレッキング 9日間

出発地 大阪・名古屋・東京  
●7/15●8/26発……………¥466,000  
●7/29発……………¥498,000  
●8/18発……………¥480,000

ロッキー屈指の人気ロッジで思い出に落ちる山旅も!

### アシニボイン・ロッジと レイクルイズ 8・9日間

出発地 大阪・東京  
●8/14●8/21発……………¥486,000  
●8/28発……………¥488,000  
●7/1●7/10発……………¥480,000

アフリカ最高峰に挑む! KLMオランダ航空利用

### [山麓乗り入れ] キリマンジャロ ゆったり登頂とサファリ 11日間

出発地 大阪・東京  
●6/24●7/8●7/17●7/25発……………¥612,000  
●8/11●8/23発……………¥618,000  
●8/9●8/14●8/27発……………¥628,000

高山植物の生舞へ、好客家の4,000m峰にも登頂!

### 九寨溝、黄龍と四姑娘山 4,000m峰登頂ハイキング 9日間

出発地 大阪  
●5/26発……………¥278,000  
●8/30発……………¥288,000  
●7/14●8/18発……………¥298,000

アルパインツアーのホームページをご覧ください。 <http://www.alpine-tour.com>

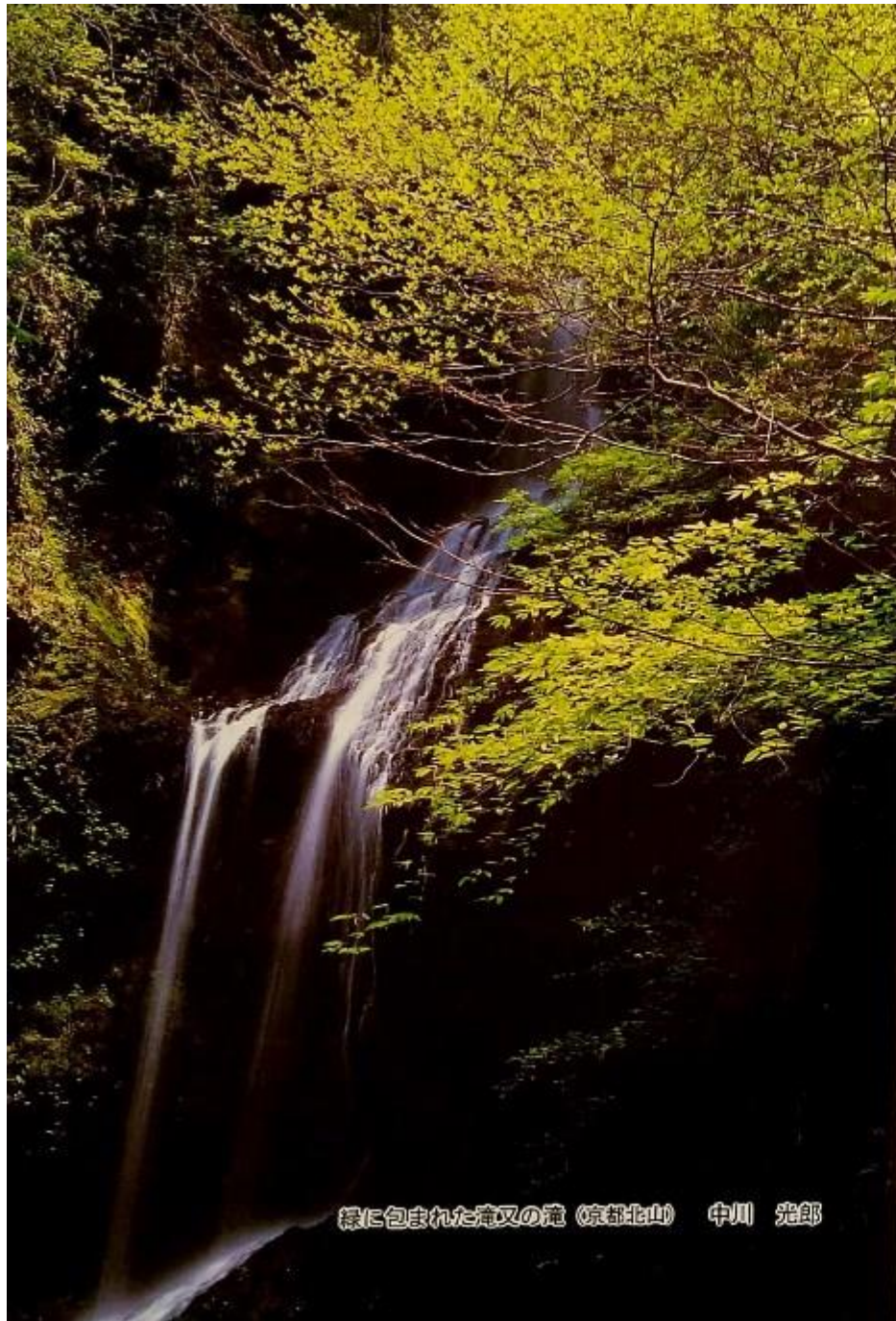
## アルパインツアー サービス株式会社

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-4-3 TCF穂後橋ビル2F  
東京/☎03(3503)1911 大阪/☎06(6444)3033  
名古屋/☎052(581)3211 福岡/☎092(715)1557  
札幌/☎011(711)7105 仙台/☎022(265)4611(転送)  
(麻りんゆう観光) 広島/☎082(542)1669(転送)  
e-mail:osaka@alpine-tour.com

### 山仲間オリジナルツアーを企画してみませんか。

山岳会、ハイキングクラブで企画  
ツアーリーダーも同行し、安心の山旅  
山岳会、ハイキングクラブなどで海外トレッキングやハイキングを企画したい。いつもの山仲間と海外の山歩きをしてみたい、というような場合には、アルパインツアーからツアーリーダーが同行し、ご案内をいたします。旅行プランについては、経験豊富なスタッフにご相談下さい。

出張説明会 山の仲間がお集まりのときに、当社社員が海外トレッキングのスライドを上映します。



緑に包まれた滝又の滝 (京都北山) 中川 光郎



Photo essay

# 杜若



題字 中田 蘭石  
撮影 由井 収一  
文 松 永 恵一

紫陽花（岩船寺）



花菖蒲（平安神宮）

平安神宮神苑 社殿を取り囲む庭  
西神苑の白虎池 中神苑の蒼龍池  
水面に彩りを添える睡蓮と河骨  
自然で素朴な紫一色の杜若  
白地に紫の模様が入った一群  
光格天皇ご遺愛の「折鶴」  
在原業平のカキツバタの歌  
唐衣着つつ馴れにし妻しあれば  
はるばるきぬる旅をしぞ思ふ  
池の辺に群生している花菖蒲  
ショウブは「尚武」に通じる  
好まれ多くの品種が生まれた  
五月五日の端午の節句  
軒にヨモギと剣に似た菖蒲を挿し  
邪気を祓う風習が生まれた

睡蓮（平安神宮）







双樹運し

# 季節の



新緑

溪流爽やか



# 実景

河内風穴界限

初夏

撮影 武市通治



風穴内部

緑流







近江坂のブナ林（湖西・大御影山～大日間） 一芝 義雄

大田の沢の杜若（京都・上賀茂） 山中 茂



光射すテント村（北アルプス・鷲岳） 武田 誠司

穂高連峰（北アルプス・上高地田代池より） 高岡 富美子





# 御嶽を仰ぐ山旅 - 開田高原にて -

奥田 英一郎



春たけなわ



萌えいずるカラマツ林

白樺の疎林より継子岳



## ● グラビア

杜若……………撮影 由井 収 文 松永 恵一  
 (口絵) 季節の実景(初夏)「河内風穴界隈」 武市 通治  
 中川光郎 武田誠司 高岡富美子 一芝義雄 山中 茂 奥田英一郎 4 2  
 松明峠の由来……………山形 明  
 大峰山連嶺の由来……………山形 明  
 人形山のこと……………山形 明

## ● 紀行

回想の開田高原(未付)……………奥田英一郎  
 白砂山(上信濃公園)……………伊藤 守康  
 高取山ふれあい公園(南庄)……………山形 明  
 参謀本部と参謀本部山(静岡)……………山形 明  
 運遊 標高による山の紹介シリーズ 34 △△94の山  
 水井山・修験堂山・鐘岳・屏風山……………松田 敏男  
 長池から澤菜山(比叡)……………小山 誠次  
 大嵐山(白鷺)……………木村 太郎  
 遠足尾根と丸尾尾根(鈴鹿)……………川島 勝美  
 白神岳(白鷺)……………川島 勝美  
 運遊 三角点を訪ねて⑥……………純  
 登りやすくなった左門岳(奥美濃)……………純

## ● エリヤ別巻研究 京都北山を歩く・ミニガイド(第3回)

①品谷山・灰村八丁 ②周山城跡・黒尾山 村田 智俊  
 ③シャクナゲ尾根・焼杉山 ④鎌倉山・峰床山 松永 恵一  
 ⑤滝谷山・大見西尾根……………山形 明  
 ●文学歴史探訪ハイイク⑥……………近江八幡を訪ねて(須惠)  
 ●(山のレポート)山の地名を歩く③「吾妻山」……………西尾 寿一  
 ●(山のレポート)白山のこと……………山形 明

## ● ガイド

①砥石山から三峠山へ(京丹波)……………長宗 清司  
 ②観音岳と日川富士(中野)……………野木 伸人  
 ③梅谷右岸尾根道から比叡山頂へ(比叡)……………松尾 一郎  
 ④十勝横尻岳とヒセナイ山(北海道)……………金谷 昭  
 沿線ハイキングガイド……………92 86 82 80  
 新ハイサイビステーション……………112 111 108  
 新ハイ関西山行計画……………編集後記・広告案内……………

## ● 目次

表紙：松田敏男「梅雨晴れのセキノコバ」(鈴鹿)

●作者プロフィール●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版画、山岳画の発展多岐開拓。(京都宇治画壇、南アルプス山水小展、東京キャラリー百号、他)山の版画集「光る山山」刊行(東京新聞出版局)。京秩山と野に殺し七会代表、日本山岳会会員

新刊作 別冊 関西の山  
 '07 5・6月 初夏 第94号

## ● 巻頭言

「地球は青かった」1961年、旧ソ連の人工衛星ヴォストークで地球を一周した、人類初の宇宙飛行士ガガーリンの言葉。

地球を初めて宇宙から見、地球を表現した言葉として印象的で、私たちはよく覚えている。大半が海、山や陸は植物が繁茂し、上空は大気で覆われている地球は、青く見える神秘の星として、他の惑星とは全く違う色に見えるたようだ。この美しい地球にズーム・アップしてみると、海や陸地には多くの生命が宿り、多様な動物が活動しているのである。

今、その中において人類は、優れた頭脳と身体能力で、わがもの顔で地球を支配している。人類の都合で、地球上の生態系や環境を破壊し始めているのである。便利さを追い求め飛行機や車で移動し、ものを生産するため、豊かな生活を求めて大量のエネルギーを消費し、大気汚染を拡大している。一方、生命の遺伝子にも手を加えようとしている。

私たちは、少々不便でも繁栄を我慢し、自分の足腰で移動する、歩くということを大事にしたい。ゆっくりと生き、青い地球をいつまでも見ていたいから。

新ハイキング関西(代志) 村田 智俊





## 松明峠の由来

柴田 昭彦

愛知県豊橋市、JR東海道本線一川駅の北北東1・1キロのピーク（標高258メートル）を松明峠（別名は東山・松明山）と呼んでいる。4等三角点「二川」（標高250・3メートル）の南西約150メートルに位置している。

静岡県湖西市との境界をなす湖西連絡道を縦走する豊橋自然歩道の南西端、弓張山地ハイキングコースにあり、松明峠付近は東山自然歩道といひ、二川自然歩道とも呼ばれている。豊橋市は、平成18年に市制百周年を記念して「健康の道二川里山・森林浴コース」を松明峠まで整備して利用しやすくなっている。

さて、松明峠の呼称の由来は何であろうか。筆者は、HP「小屋番の山日記」（西山秀夫）

で拙著「旗振り山」が紹介されたことをきっかけにして、コメントのやりとりを行った。その中で、松明峠で相場通信が行われたかどうかに興味を持つようになり、愛知県図書館で郷土資料を調べてみた。

「歴史の町ふたがわ」（豊橋市教育委員会、平成3年）の図版には「二川村地図」（二川宿本陣資料館所蔵）があり、「松明山」と記入されている。豊橋市中央図書館の教示によれば、この図には文化7年（1810）建立の秋葉山常夜灯が描かれていることから、同年以降に作成された図であることがわかる。

豊橋市立二川小学校「ふたがわ」編集委員会編「ふたがわ小学校 中・高学年用」（昭和39年初版、昭和62年第4版）には「たいまつ山」とあるが、由来にはふれていない。ただし、岩屋観音の東方、チャンチャカ山（標高107・3メートル）の由来にはふれ

ており、疫病を追い払う柏子木の音からだといふ。

この副読本の巻末に載せてある五つの紀行文のうち、「たいまつ山」が出てくるのは、次に掲げる「改元紀行」（太田南政著、享和元年、1801）だけである。「右に面白き山あり。怪しき石、所々にありて、小松生い茂り、つつじの花咲ける標葉山の庭の如し。たい松山といふ。」

豊橋市中央図書館に、松明峠について問い合わせたところ、「道中記にみる吉田・二川の名所」（二川宿本陣資料館、平成12年）の17頁に、松明峠の由来に関連する次のような記述があることを教示いただいた。

「松明峠の名の由縁について、林花翁は宝永4年（1707）の『三河雀』で「昔、高足の庄司という盗人がこの山に住んでいたが、高足の文覚が兵衛の佐（源頼朝）に妾を勧め、白川法皇の院宣を乞いに京へ上った時、

とがわかる。

「近世文学資料類従 古本地誌編13 三河雀・身延鑑・身延のうちの記」（勉誠社、昭和53年）の『三河雀』の原文の該当箇所は次の通りである（41頁）。序文には、「室水四丁亥 林鐘日 三州御油駅 花翁」とある。

「二川駅竝堂世像本尊観音高足の庄司と云盗人此山に住高足の文覚兵衛の佐妾をす、め白川ノ法皇の院宣を乞にのほりし時此所にて文覚をはぎ取と云物見火燃峠と云う」

高力種信（高力種徳）編・画『東街便覧図略』（天明6年＝1786年頃成立、寛政7年＝1795年11月序）の原文は「東街便覧図略 巻一」（名古屋博物館、2001年）にあり、松明峠に関する箇所は次の通りである（101頁）。

「たひまつ峠は、観音山に向ふ（此山、観音山よりは少し先きあり）。妾をたひまつ峠と呼ぶ事

## 随想 (山のエッセイ)



ここで文覚を剥ぎ取ったという物見火燃峠ともいう」という伝説を載せているが、これに対し『東街便覧図略』は「ここを松明峠というのは、昔追はぎがいて、飯村辺りの松林にも同類の者がいたので、互いに出る時刻を知らせるため、峠で松明を振って合図をしたことよって、このように名付けたと里人は語っている」というように異説を挙げています。

他の文献（江戸期の紀行文など）には、松明峠の名のみで、由縁は載せられていないが、たいまつ峠、たいまつ山（松明山）などの表記が見られる。土御門泰邦『東行話説』（宝暦10年、1760）には「火把峠」とある。公家の土御門泰邦は、安倍晴明の後裔といふ。

以上の通り、『三河雀』と『東街便覧図略』から、松明峠の呼称は、盗人が夜間に松明の火をともしたことに由来するこ

は、昔此山に追はぎ有て、いむれなどいふ辺の松林にも同類の者有しかば、たがひに出る時刻を知らん為、此山の峠にて松明をふりて相図をせし故に、斯名づけしとかや。里人の物語なり。」文中の観音山は、岩屋観音のある岩屋山のことである。

結局のところ、『三河雀』（1707年）には「松明峠」の名は見えず、当時の呼び名は「物見火燃峠」であったことがわかる。松明峠の語源にふれた文献は『東街便覧図略』のみということになる。

千葉奥安房郡沼南町には人骨山があり、もとは火ともし山（火とほし山）で、戦国時代に物見が合図として狼火を上げたところという。火とほしが説いて人骨になったのだという。日本各地には、火燈山（ひともしやま・ひとほしやま）があり、同じように、かつて、狼火を上げた場所である可能性が考えられる。





# 随想 (山のエッセイ)

克

克

インターネットで、松明峠の由来を調べてみたところ、「東海道・二川宿の巨石群」には次のような記述が見つかった。

「松明峠のある東山は、『松明嶺』『大岩山』とも呼ばれ、二子山にかけて山紅葉の名所でした。松明嶺とは、山頂でのろしをあげたことによる命名で、この山の南斜面の2本の川が『二川』の語源です。」

松明峠の由来がのろしであるという情報は、インターネットでは、他には見つからないが、物見が松明の火ともしをして合図をしたという意味では正しいといえるだろう。ただし、これは米相場通信ではなかったのである。

## 大峰山連嶺の由来

綱本 逸雄

その① 吉野山

吉野山は大峰山脈の北端に位置し、主峰の青根ヶ峰(858)から西北に連なる一支脈の総称である。また、山名のほか古くから奈良県南部の吉野川流域を中心とした河川名、郡名、町名(吉野村が昭和三年町制施行)でもある。芳野山ともいう。

「吉野の名は古く『古事記』神武東征の段に「吉野河之河尻」「日本書紀」神武即位前記条に「吉野の地」などとみえる。「記紀」の後に成立した『万葉集』には「美与之努」(巻二八・四〇九八)とも書かれ、エシノあるいはヨシノといった。

「美」は美称接頭語、エシ・ヨシ(吉)は「よい野」の意味である。「万葉集」で尊称「み」が付される地名は吉野と熊野(巻四・四九六)だけである。

さて、「吉」の字訓(エシ・ヨシ)について、本居宣長『古事記伝』は「吉野は、延斯怒と訓べし。朝倉宮段の大御歌に美延

斯怒能とよませ給ひ、書紀天智巻の童謡にも、美曳之努能曳之努とあり、即此童謡に、余伎を曳岐と云れば、吉をも延斯とも云て、古は此地名をも然ぞ呼けむ。鹿持雅澄『万葉集古義』は「よしぬ(吉野)(芳野)(熊野)(与之努)(余思努)など書り、和名抄に与之乃とあり、努を乃と云るは後なり。又書紀天智天皇巻の歌には曳之努ともあれど、この集(『万葉集』)の頃に至りては、余思努とのみいへり。」

飯田武輝『日本書紀通釈』は本居の「古事記伝」を踏襲。

『万葉集』は平安遷都直前の759年に成立したが、平安期に入ると住吉・日吉がスミヨシ・ヒヨシに転音しているように、エシノもヨシノ(与之乃、「和名抄」と称した)。

松岡静雄『日本古語大辞典・語誌』は「古名はエシヌであるが、万葉時代にはヨシヌと発音せられた」、尾畑喜一郎『古事

記事典』は、「吉」がすべてエシの読み。白川静「字訓」は「えし(吉)」「よし」の古形。「吉野」を(紀)に「吉野」とよみ、「万葉」の東歌に、「吉し」の例が五例みえる。おそろく古語が方言に残ったものであろう」という。岡田精司「神社の古代史」は「吉をヨシと読む例は『古今集』が一番古い」と指摘している。

もともと、「吉野」という地名発祥の場所は、『万葉集』に「み吉野の清き河内の激つ白波」(巻六・九〇八)、「この山のいや高知らず水激つ(みなそそく)滝の宮子」(巻一・一三六)などあり、清き河内、滝の都で、現在の宮滝付近の野とするのが有力である。というのも「記紀」『万葉集』に応神天皇以来、しばしば行幸記事があり、同地に吉野離宮(外つ宮)があったからである。

『万葉集古義』に「清河内

跡(巻一・三三六)は、山と川の清くてめぐる地なれば、よき地なりとの意なり」、「河内」というのは、宮ほめ、土地ほめの詞章にしばしば用いられる語句で、まわりを川にかまれたその内なる地である」(中西進『万葉の歌4 人と風土』)といひ、宮滝説を補強している。

主峰の青根ヶ峰は、『万葉集』に「神さびる磐根こしきみ吉野の水分山」(巻七・一三〇)と詠まれ、神々しくて険しい円錐形の岩峰は山麓に豊かな水をもたらす分水嶺として崇められた。「続日本紀」文武天皇二年(698)四月条に「馬を芳野水分嶺神に奉りて、雨を折ふ」とあり、古来、国家規模の祈雨祭が行われた山だった。

青根ヶ峰を含む吉野山から山上ヶ岳にいたる連山を、古来金峰山あるいは「耳我の嶺」「御金の高(岳)」などと称した。

吉野山奥千本に金峰神社(祭神

金山(耳我神)がある。金峰は、『延喜式』神名帳ではカネノミネと読む。

耳我の嶺は、『万葉集』の元暦校本・神宮文庫本・細川本などではミカノミネ、寛永本はミカノミネと読む。名乗でも耳はミと読む。名乗とは、通常の漢字の読みとは別に人の名前に用いる訓である。

嶺は名乗でネである。ノは助詞だから、『万葉集』など漢字表記の古典ではいちいち表記しない。したがって、「耳我嶺」はミカネと読み、つまり、御金(岳)と同山異名である。御金の岳はまた、岳(嶽)をミネと読む(圖書寮本『類聚名義抄』)ので、ミカネノミネ、御は美称なので、(ミ)カネノミネ(金峰)となり、金峰山の異名でもある。

青根ヶ峰の「青(アオ)」は「大(オオ)」に転訛(例えば金剛山中の「大崩」→「青崩」、蒼空を古訓でオホゾラ(蒼登





克



克

## 随想 (山のエッセイ)

て登ればよいのではないかと思っている。そのほうが感動が大きいし、現場で山に教えられることのほうが多い。

東赤石山に登ったときのことだが、山頂直下にお花畑があり、誰もいないそのお花畑で一人の年配の男性が熱心に写真を撮っている。話しかけると、「血圧が高いので医者に山登りを止められているが、百歩登って息を整えまた百歩と登って来た。花が見たくて来たので、山頂へ行くつもりはない」と言われ、その顔は満足げであった。

このような人もいるのだ。山が高かろうが、低かろうが、それはあくまでも個人の問題ではないのか。この新百名山の中にはアルプス級の標高のある山もあり、富士山もある。この本の解説に「高度を下れば……」と書いておきながらである。中高年の体力を心配するのであれば、なぜこのような酸欠の薄い

山を選ぶのであろうか。老若を問わず山を問わず事故は起きているのだ。これもまた個人の問題ではないのか。

この「新日本百名山」には52の日本百名山が入っていると書いてある。52の日本百名山を塗り替え、新しい山を付け加えた日本百名山の改訂版なのか。そうだとすれば日本百名山は、旧日本百名山と呼ぶことになる。見たところ52山の他にも、ほとんどが「二百名山」「三百名山」とネームバリエーションのある山ばかりが採用されているのである、なぜそのことを書かないのであろうか。これはやはりいろいろな名山をかき混ぜて並び変えただけのことではないのか。日本百名山があり、二百名山・三百名山があり、各地域にはご当地百名山・百選の山があるなかで、この新百名山は殊更にとりかかると、この書の冒頭の趣旨からすれば、「中高年のための百山」にすべ

きであろう。しかし、そのような書物はすでに出版されており、日本百低山もあるのだ。

人形山は新日本百名山の看板が立つ前からよく登られる山である。天候の良い休日には大勢が登り、長い尾根筋を登りつめた所は展望が開け、休憩地点になっている。そこからは人形山が谷を隔てて大きく見える。山頂はなおも高く遠いと見え、眺望に満足して引き返す人もいれば、何度も地べたにへたり込んで山頂まで行く人もいられる。山に登り方もいろいろで、これもまた個人の問題ではないのか。

私が雨の日に登った山頂には誰もおらず、あの大きな看板は、風に吹かれて倒れたのであろうか、地に落ちて雨に打たれ、泥に汚れていた。

せっかくなので看板を新しくしたのに、ちよつと風が吹いただけで地に落ちたんだね、と思っ

「万葉用字格」と読むようにし。「根」は「峰・嶺」の意。つまり、大峰ヶ嶽で「大峰山」と同義の名であった。

## 人形山のこと

山形 明

人形山(1726m)は平村合衆集落の南奥にある山で、庄川を挟んで県境主稜線と対峙する独立峰だ。大きな堂々とした山容は立派で、その姿はどこからでもよく見える。人形の雪形が出ることから、人形山の名が付く。私の好きな山でもあり、毎年登っている。

ある日、雑誌を見てみると、この山が「新日本百名山」になったとの記事が掲載されているのだ。ナンダナンダ、どうしたのだ、「新」とは何だ、人形山がリニューアルでもしたのか、とわけのわからぬ衝撃が走った。

そこに載っている写真には、山頂に一枚ほどの看板が立ち、「新日本百名山 人形山」と大書されている。選者の名も書き込まれ、看板の横には当人がニコニコして立っているのだ。この写真は「リニューアル・グラウンドオープン、いらっしやいらっしやい」の感じなのだ。

現状はどうか、と早速登ってみた。その日は雨が降っていたこともあり、蛇と蛙が多くいて、ササユリがたくさん咲いていた。今までの人形山と何も変わっていないのではっとした。変わったのは山頂の看板だけだ。

書店に行ったとき「新日本百名山」の本が目にとまったので立ち読みしてみると、「……中高年登山者の事故が目立つようになってきた。……体力が低下しているにもかかわらず、目標とする山は相も変わらぬネームバリエーションのある山ばかり。山を低くすれば、トラブルも減少す

るのではないかと、新百名山を思いついた」とある。即ち「中高年の人は、ぼくの決めた山に登りなさいよ、その選りすぐりの山の内訳はこの本に書いてあるけんね」と言うことなのだ。

その内訳を見ると、一山毎のコースに説明を付けたガイドブックなのだ、一山毎に簡単なコメントが付けてあり、その最初には選者の顔写真が出ているのだから、この本には百の同一人物の顔写真が載っていることになる。顔写真入りの名刺を百枚渡されたような気分だ。この本を見た友人は、「選挙目当ての出版物ではないのか」と言い、「中高年の登山人口が増えるからねえ、狙いはいいかもな」と話がそれてしまうのだ。

私は山登りに関しては全くの素人であり、しかも「高」のほうだが、氏が執筆している「登山学」は読んでいないし読むつもりもない。山は自分で工夫し



残雪の御嶽を仰ぎながら飛騨街道を歩く

## 回想の開田高原

木曾

奥田 英一郎

芽吹いたばかりの明黄色のなか、白い流れが二段になって落ちる唐沢の流を見上げてから間もなく地蔵峠に着いた。標高13355呎の飛騨街道の峠、開田高原への入口である。末川へくだる山道の脇に新しい地蔵が安置されている。享保年間(1720頃)に建てられた地蔵は盗難に遭い、昭和47年(1972)に開田村の有志によって再建されたものである(開田村役場)。以前、ここを訪れた折にはたしか地蔵は無かった。

錫杖を右手に薄目を開け、耳たぶが大きくてふくよかな頬は、いかにも慈悲深そうな温顔である。村人が懸けたであろうよだれかけが愛らしく、足もとに供

えられた花が新しかった。はるか北の方向に雪の乗鞍岳が望まれ、御嶽は林道を少しくだつた所から見えた。この日、雲がやや多くて懐かしい山の姿はすつきりとはしなかった。が久しぶりのおやまとの対面である。

今はこの峠を越える路線バスは走っていない。北の折橋峠の近くに出来た新しいトンネルを経て末川沿いに開田に入っている。川辺をぎっしりと埋めるように、ワスレナグサの群生が見られた。開田村は近年、木曾福島市に編入された。

「ふもとや」とかいいう、懐かしい宿のそばのれんをやり過ぎた辺りで、タクシの運転手君に「昼食がまだだ」と言

城山よりの御嶽



うと、「まっば」という店に寄ってくれた。「色は黒いが味はよい」のが開田のそばだと言う。霧開きのいい店で、そばも出汁も口に合う久しぶりの味だった。御嶽の展望所だという九歳峠に廻ってもらった。城山の中腹を捲いている中程にある峠は、あまり峠らしくない所だが、御嶽を真正面に見る好展望所であった。横広がりには豊かな雪をいただいたおやまは大きな裾野に支えられ、さすがに堂々たる姿だった。ただ厚い雲におおわれ、空と山との接線がくっきりしないのが惜

しまれた。

高原中央の恩田原に入るのに池ノ沢まで戻り、西野川へくだるのだが、脇道があったらもう一つの御嶽が眺められた。

昔の話であるが、下り道の途中で西野川を見下ろすと、格好のいい吊橋が架かっていて、川向こうには屋根に石を置いて人家数軒が、いかにも寄り添うように沈んで見えた。それを前景にして背景に御嶽が居座っているのである。今はもう石



置き人家も変わり、立派なコンクリートの橋と舗装道路が高原のあちこちへ伸びている。

タクシは開拓村のKさん宅の側を通り過ぎた。昔、Kさんには、お茶をいただきますながら、開拓当時の苦労話をあれこれ聞かせてもらったことがある。熊の被害が大変だったとか……。飛騨の秋神から乗鞍岳と御嶽がきれいに見える峠を越えて開田に入る途中、無造作に採ってきたキノコを老婆に見てもらったところ、食用にできるのは三分の一くらいだった。こんなことも思い出したが、今回寄らなかったのが悔やまれた。

赤松の林や白樺の疎林を通り抜け、地道をしばらく走って小さな空地に着いた。どこからともなく地鳴りが聞こえてくる。御嶽開田登山道の二合目になる尾ノ島滝への下り道である。下方の冷川へは階段状の急坂をくだる。地響きが次第に大きくなってきて、轟音がとどろくようになつたかと思うと川床だった。大きな滝が飛沫を上げていた。周りが馬蹄形の壁の中央に堂々と水が落ちていて、高さは30呎はあるだろう。雪解けの水を集めて音も量もすごかった。滝壺には黒々と

した溶岩塊が折り重なって、しばらく周りの霧開きに吞まれて立ちすくんでしまつた。

御嶽山の開祖だと伝えられる覚明行者は、天明年間(1781-1788)にこの幽玄な姿に感応して御嶽山に志したと伝えられている(開田村役場)。御嶽行者は今もこの滝で水行をするそうである。かつて山頂三ノ池から一人、誰にも会わずに原生林の礎を残すこの開田道を下りてきて、滝の前に立った時の深い感銘を思い起こした。

「やまか旅館」で運転手君とは別れた。寡黙でいい方だった。西野の集落は以前の面影はなくなり、どこか霧開きが変わっていた。本瓦の上に石を並べた切妻造りの人家は必ず牧欄で囲まれていたのだが、そんな牧歌的な風景は見られない。宿の奥さんにそのことを話すと「もうそれは30年も、もっと昔のことだわ……」と笑われた。ちよびり寂しかった。

開田高原は、いわゆる美ヶ原とか霧ヶ峰のような平坦なハイランドとは違う。御嶽の東北に広がる大きな裾野の丘陵台地であって、緑の森があり、赤松の林に混じって白樺や落葉松林が散在している。



御嶽から流れ落ちる清流が幾筋もあり、そのかたわらには集落があり、純朴な人達の生活がある。集落と集落を結んで可愛い峠がある。これが開田高原なのである。

かつてこの高原を道<sup>ミズ</sup>遊<sup>シ</sup>した英国の婦人が「白樺の林と美しい芝生と屋根に石を置いた家など、ここは日本のスコットランドだ。」と語り、さらに「村の人達は、小さい子供まで温かい心を持っている。見知らぬ人にも挨拶をして、ファミリーのように隔てがない。」と、新井清さんが書いておられる(『御嶽とその周辺』明文堂昭和34年刊)。今は高原を縦横に農道が貫き、別荘が出来、かつての切妻造りの人家はほとんど姿を消した。

高原の一隅にミズバシヨウの群落地があると聞いて出かけた。宿でもらったイラスト地図は距離感がわからずとまどっ



湿原のミズバシヨウ

んが迎えてくれ、「今朝の温度はマイナスイ一度、晩秋の頃の寒さです。」と言われた。秋の冷たい朝、関谷峠、長峰峠を越えて、上ヶ洞まで歩いたこと、林道の無かった頃に野麦峠も歩いて越えた話をすると、目を丸くしてただ頷ずきながらニコニコと聞いてくれた。当時、娘さんはまだ生まれていなかった。

朝食にもたくさんの惣菜をいただいた。予定通り8時過ぎに宿を発った。西野川を渡り二軒ばかりの人家をやり過ごす、もう山道になる。雑木のなかに白樺や落葉松が混じるゆるい上り坂であった。秋に落ちた落葉松の葉が柔らかな道だった。時々白樺の疎林の枝越しから見るとおやまが良かった。カッコウが鳴き、合間にツツドリが竹筒を打つように軽いリズムで鳴いていた。何百年も昔から人と馬が越えた西野峠への道は優しかった。古い飛騨街道の道を味わいながら歩いた。

静かな峠にザックを置いて、小さな尾根を城山に向かった。快い道だった。落葉松林の淡い新緑が5月の光に映えて美しかった。こんなにいい道が、ひっそりとあるのがよかった。階段状の急坂を上り切ると、小広い台地に出た。古い石碑

ていたら、ちょうど畑仕事をしている夫婦に会って道を教えられ、山裾の湿原にたどり着いた。枯れたカヤだろうか、おい茂ったなかの、あちこちにミズバシヨウが点在していた。白い苞に包まれた黄緑の花は可愛かったが、鬼無里奥の裾花や白馬の桐池などの残雪豊かな大きな湿原のミズバシヨウの大群落を見た目にはもの足りなかった。

宿に帰ると娘さんが「マキの木の湯槽はどうですか」と勧めてくれたが遠慮した。一般客用の風呂でゆっくりくつろいだあと、夕食に案内してもらった。「やまか」は山家か? 山の料理が次々と並べられた。食前酒に前菜は蜂蜜ノ子、わさびの酢漬、ぎょうじやんにくの酢味噌和え、蕎麦の実にこごりなど。飛騨名物の朴葉焼きには馬肉が付き、霜ふりの馬刺し、姿のいい岩魚の塩焼き。もちろんコゴミ・タラの芽その他の山菜の天麩羅。さらに、ワラビのおひたし、蕎麦の災のころ、それに蕎麦の災の雑炊が出てくる。さすがに開田は蕎麦どころ、木曾の地酒をいただき手打ちのそばをいただき、そのうえ季節の竹の子ご飯が出てくると、もう食べ切れなかった。

と石仏が三体ばかり松林のなかに佇んでいる。台地の西側が明るく開けて、そこにおやまが光り輝いていた。それは息をのむ瞬間だった。おやまは豊かな残雪をいただき、雲一つない大空を一人占めにしていた。広い視野一帯を睥睨するかのようにならびえている。フィルムを惜しげもなく、カメラのシャッターを押し続けた。

松の切株に坐ってオレンジを食べながら、あらためておやまを眺めた。いくつかのピークが横並びに並びながらも独立峰であるのは、個性的な姿である。しかし何のてらにもなく、こんなに露に見せつけられると、富士山を見て恥ずかしくなったという(『富嶽百景』の)太宰治でなくても、こちらがおもはしくなってくる。うっとりとする眺めであった。

離れがたい景色に心を残しながら城山の展望所を後にした。満ち足りた足どりで峠に向かいながら、御嶽とその周辺を歩き続けてきたことを思い出していた。

冬の激しい風雪のなかでのテント生活、春の飛騨山頂では強い照り返しに目をやられて辛い経験もした。濃霧の賽の河原でさまよったこと。夜行の登山では、山

酒をいただいたせいも星空を見ずに休んでしまった。朝、目を覚ましたのは窓の外が明るくなった頃だった。一瞬、しまったと思いついて窓辺に立つと、雲一つない真青な空の下におやまが白く輝いている。夜明けのバラ色からオレンジ色に映える姿を撮りたかったのに……。ともあれ、きれいなおやまに文句はない、と早々に部屋を出る。

いつかの冬、岳友と2人で夜明けの御嶽を撮ろうと、凍てつく朝、宿を飛び出して城山に登ったことがある。その冬は雪が無かった。が山道に入ってヘッドランプを頼りに歩き出すと、サラサラと音がした。踏んだのは霜柱だった。手に取ると10センチからそれ以上もある霜柱が土を押し上げていたのだ。

今回、西野川に沿って歩けば必ず撮影スポットがあるに違いないと、左岸の道を流れて平行してくだる。おやまの姿は歩くにしたがってその形を変えていく。ファインダーを覗いてはシャッターを押した。朝食前の散歩は2時間ばかり、その間、畑では早ばやと作業をしている農夫がいた。カッコウがいきりに鳴いている。爽やかな朝だった。宿に帰ると娘さん

頂で奇しくも焼岳の噴火音を聞き、白い噴煙を遠望したこと、錦織の開田道を一人でくだったことなど。それらは全て若い日の山であった。また、おやまの周辺を鉱泉に泊まりながら、峠を巡るワンデリングも楽しかった。そんなことを思い返しながら峠に降り着いた。

把之沢への下りはやや急な所もあったが、すぐ美な道になった。小さな流れに沿って歩く。柔らかな山並の裾野に人家が散在する眺めに、心が和んだ。あずまや風のバス停でバスを待つ間、近くの無人販売所を覗いてみた。ギョウジャニンニクほか、何種類かの山菜が並べられている中からコシアブラを土産に買った。町の病院へ行くという婦人と戯れ合った。農婦が語り合う中に入れてもらい、山の生活の話聞いた。農婦は別れ際に「こうして話を交わすともう友達だね」と言ってくれた。高原の村は姿を変えてしまったが、おやまと人の心は昔のままだった。(平成18年5月中旬に歩く)

(問い合わせ先)

開田高原観光案内所

〒20264 (42) 33550



## 新ハイ自然観察山行

# 白砂山

しらすな(しろすな) やま

## 鷺見守康

### 上信越国境

白砂山は、群馬・長野・新潟の三県にまたがっている。かつては秘峰として知られていたというが、登山口にあたる野反湖がキャンプや釣りなどの拠点として開発されてから、登山道も整備された。深田クラブの二百名山リストに、この白砂山を見つけたときから、山名の響きの優雅さゆえに記憶に残る山であった。

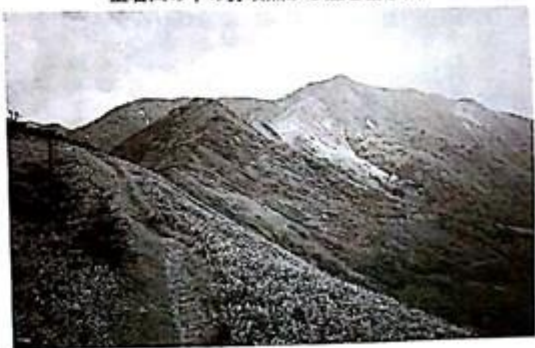
群馬県の六合村に到着したのは、4時前であった。夜行バスではいつもほとんど眠れないのに、めずらしく寝入ったか道中の記憶がない。運転手の声に起こされたときは、宿泊の予約をしていた徳温泉の宿「花まめ」の前であった。

「花まめ」は、最近改築された。古民家を移築したもので、田舎を思わせる懐かしさに満ちた外観ではあるが、内部は清潔でモダンな雰囲気である。

総二階造りで建坪が広く、二階の梁が表の方へ三尺(約90cm)ほど張り出しており、この構造を「セガイ造り」とか「デバイ造り」と呼ぶらしい。

平成18年度から公共施設の運営方法などが変わったことから、この「花まめ」も民間会社が運営している。運営を始めたばかりのためか不慣れな点もあり、翌日の朝食がこちらの希望時間に出来ず、そのため朝食抜きで出発するというアクシデントがあったものの、飲用の水を1

堂岩山の下の分岐点から望む白砂山



人ひとりがポットに詰めるに十分な量を、嫌な顔もせず気軽に用意してくれるなど、全体に親切な対応であった。

六合村は明治時代に、草津村の六つの大字が合わさって一つの村になったので、「六合」と名付けられたという。「六合」は国(くに)を意味するそうで、そのことから六合を「くに」と読むのだそうだ。六合村というと群馬県とのあたりに

位置するの、知らない人の方が多いと思う。北は新潟県、西は長野県に接する村だ。

軽井沢・志賀高原・草津温泉などの著名な観光地に囲まれている、と言ったほうがわかりやすいのかもしれない。

ひとまず宿で仮眠し、朝食後、7時過ぎに出発した。国道405号線は蛇行の続く道で、車に弱い人は車酔いしてしま

うだろう。

宿から1時間程で富士見峠に至ると、空が大きく開放的で、森と丘と湖という取り合せの、どこか北歐的な情景が目の前に広がった。

山裾から湖畔に、レンゲツツジの群落がすばらしく、鮮やかに周囲を朱色に染めている。湖を取り巻く山々の姿も優美である。

峠から、白砂山登山口のある路線バスの停留所までくたいていく間、バス車内では繰り返す歓声があがった。

野反湖は、2000級の山岳に囲まれており、上信越国立公園の特別地域に指定されている。気候は、日本海側と太平洋側の中間にあたるため変化が激しく、雨も雪も多くて厳しい環境にある。周囲12kmのダム湖



白砂山付近略図

であるが、くっきりとした湖岸線と山肌の曲線、緑の山裾に点在するロッジなどの建物、そして樹木や草花の色彩、それらが見事に溶け合って、絵巻画を思わせる独特な美しさである。

バス停のある広場は、駐車場とトイレが完備しており、売店もある。本日の所要時間は、9〜10時間ほどを想定しており、身仕度を整えて8時、広場奥の登山口から出発した。

登山口から少し登り、いったん沢(ハシノキ沢)までくだり、丸木橋を渡る。そこから樹林のなかの坂道を登った所で秋山郷への道を分けた。

秋山郷への道は、8月の鳥甲山山行の折、秋山郷にて野反湖への道として確認した。全長20数kmに及ぶというこの道をいくつか歩いてみたいと思った。





八間山への縦走路から望む白砂山

化していく。行く先に八間山の稜線が見えてくると登りとなり、八間山に到着した。白砂山から3時間程である。

八間山も展望はいいものの、白砂山のような情趣に満ちた雰囲気はない。ガスが湧いて四隅の見晴らしもきかなくなつたので、休憩を短くして出発。

八間山からは、レンゲツツジなどツツジ科の樹木の花を観察しながら、よく踏

み込まれた急な道をくだった。途中、花の季節には早いコマクサの群落地を過ぎ、16時半、富士見峠に下り立った。

峠の八間山登山口付近には、シラネアオイの群落があると聞いていた。登山口から少し北の樹林帯に入ると、なるほど、花期はとうに過ぎてはいたものの、株数はかなりの群落である。案内板によると、地元の中学生在が保護活動に当たっているとのことである。

峠には休憩舎「花の駅」があり、トイレが完備され売店もある。売店にはオリジナルグッズともいえる「コマクサハンカチ」「ニッコウキスゲハンカチ」が並んでいる。レンゲツツジの花見なのか、駐車場には観光客の姿もある。

野反湖周辺は、レンゲツツジに続き、7月中旬にはゼンテイカ(ニッコウキスゲも群落をつくるようだ。このあたりでは、ゼンテイカを「ノゾリキスゲ」と呼んでいる。さらに、8月に入れば、マツムシソウも群落をつくるだろう。

そんな花たちと、野反湖のもつおおらかで美しい景観を求め、多くのハイカーや観光客が訪れるようだ。

野反湖から白砂山までアップダウンを

だ。

私は今日のコースタイムの目安として地蔵峠までのタイムを気にかけていた。ところが、地蔵峠を見落としてしまい、そのためルート上の現在地もつかめなくなっていた。

こうなると、私の歩きが速くなる。すぐ後に着いていたOさんは、不機嫌そうに速く歩く私をなだめずかすかのように歩きながら地図を取り出し、懸命に現在地を探っている。Oさんの地図読みは確かなので、ともすれば山助で歩きがちな私は、Oさんが参加する例会では、彼女を水先案内人として頼ることが多い。

堂岩山の手前の水場に到着し、やっと現在地が判明した。コースタイムもほぼ順調だった。どうやら、秋山郷への道を分けた地点が地蔵峠だったようだ。

堂岩山に至ると、白砂山が姿を見せる。いちだん下がった所が八間山との分岐で展望が開け、白砂山の山肌が高山的な優美さを見せ、山頂へと続く稜線も美しい。このあたりからハイマツが出現し、シャクナゲが混生したハイマツ帯のなかの一本道を歩く。低木のオオカメノキが白い花を残している。ハイマツのなかには、

コイワカガミやハクサンチドリの花も見える。

11時半過ぎ白砂山山頂に到着。登山口から3時間40分余りを要した。山頂は小さな広場で360度の展望台だ。

あいにく雲が多いが、すぐ北に佐武流山が見え、その左奥は鳥甲山だ。右奥には苗場山が見えるはずだが、雲に隠されている。南西には志賀の横手山や岩菅山を望んだ。

Mさんと、佐武流山を越えて苗場山までの縦走が可能かどうか話題となった。佐武流と苗場の間は、現地の役場により道が開かれたとの情報はあるが、白砂から佐武流への縦走は困難と見た(注)。

山頂には皇太子殿下の登頂記念碑がある。山行は平成4年8月のことで、ご成婚の前年にあたるようだ。皇太子殿下の登山の趣味は広く知られているが、南アルプスの甲斐駒ヶ岳を黒尻尾根から登るなど、かなりの健脚である。

1時間ほどの昼食休憩後、再出発。分岐点から八間山へのコースをとった。

このコースはゆるやかな下り坂で、展望もすてきであり、プロムナード気分となる。振り返ると白砂山の姿が秀麗に変

△参考タイム▽

〔23日 雨のちくもり〕(集合) JR 鞍馬駅 22:00 (貸切バス)

〔24日 晴れのちくもり〕(バス) 六合村 3:45 (飯・朝食) 7:10 (バス) 白砂山登山口 7:50 8:00 地蔵峠 堂岩山手前水場 9:40 50 堂岩山 10:20 30 白砂山 11:35 (昼食) 12:30 八間山 15:25 35 富士見峠 16:30 35 (バス) 六合村 17:15 (泊)

△地形図▽ 2万5千 岩菅山

(注) 後に得た情報によれば、白砂山から佐武流山間も、数百坪のやぶを突破すれば、それから先は道が出来ているという。白砂山から佐武流山を越え、苗場山までの縦走が可能となったのかもしれない。

(平成17年6月24日歩く)

人気商品紹介

◆ウォーキング W◆

2気室切替式短期縦走モデル

☆32/☆

- ・カラー ミントグリーン×モノクロ
- ・マゼンタ×モノクロ
- ・ネイビー×モノクロ
- ・レッド×モノクロ

●価格 1550円

●素材 高密度ナイロン

●価格 ¥15,750

☆28/☆

- ・カラー ミントグリーン×モノクロ
- ・マゼンタ×モノクロ
- ・ネイビー×モノクロ
- ・レッド×モノクロ

●価格 1400円

●素材 高密度ナイロン

●価格 ¥13,550

オリジナルグッズ & 登山用品専門店

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

- ・前面ジッパー付き小ポケット
- ・P&Aフレーム内蔵により体型に合わせて形状を覚えることが出来る。ザックの膨くずれを防ぎます。
- ・左右サイドファスナー付片側は内ポケット、もう一方は内部へのアクセス用
- ・フロントポケットはメッシュとゴムコード付
- ・内部の仕切りフラップの開閉により1~2気室に切り替えて使い分けを可能に。
- ・立体裁断により体にフィットし疲労感を軽減します。

イモック山行くらぶ

春夏秋冬、季節を共にせよ 登山・登山・名山を駆けまわす。

—会員募集中—

**IMOCK.**  
KOBÉ

〒653-0328 神戸市東灘区日高町1丁目1番30号 カナジビル2F

TEL (078) 621-5851  
FAX (078) 621-3528

営業時間/10:00-20:00 土日曜日不可



遊びが楽しい

# 高取山ふれあい公園

湖東

伊澤 康夫

山歩きが好きになった孫(5歳と3歳)と妻の4人で出かける。行先は滋賀県多賀町藤瀬の高取山ふれあい公園。

現地に着くとアスレチック、高取山ハイキングコースがある。駐車場入口に入山料200円の看板。受付に行くところ、今日はイベントがあるので無料です」と、パンフレットをもらい高取山(611・616m)を目指す。「せせらぎのこみち」「どんぐりの道」「きのみの道」など、どの道を進こうかと悩んでしまう。

受付正面の舗装された広い道を少し進むと、右に休憩所・トイレがあり、その前にオガクズがたくさん積んである。近づいて見るとカブト虫の幼虫を育てる場

所だ。なるほど、うまく再利用されている。ここから山道に入り少し登ると、テントサイトかな?と思ったが、段々状のグラウンドゴルフ場。お年寄りがこま

で来てゴルフをするだろうか? 周囲を見ると利用された形跡はない。3歳の孫は少しぐずっている。「あれ何やろう!」いろいろなあやしなから登って来る妻と下の孫。ベンチがあり、お茶を飲みながらひと休み。

ここからは0・3歳の「くすりの道」。キハダ・ニワトコ・メグスリノキ、「えっ?」「目薬の木で、あんのー」。漢方薬や民間薬として利用されている木が八種類、それぞれに説明書きされている。

二十段程登った所に休憩所があった。ポッキーを食べたり、しばらく休憩する。ここからは「たかとの道」と名付けられた本格的な山道。所どころで紅葉している。(きつい登り道が展望台、山頂へとつづきます。展望台からは琵琶湖が一望でき、絶景です。また、風がとて心地よいです(十歳コース)とパンフレットに書かれている。いよいよ孫達の遊び場だ。

「バードコール持って来たら良かったなあ!」「樹木用の聴診器もなあ」これ

からはザックに入れておこう。しかし、何もなくても自然がいっぱい。「何をして遊んでやろうかなあ」いろいろ考えながら登る。下の孫は、おばあちゃんと手をつなぎ甘えながら歩いている。上の孫は「じいちゃん待って!」とすぐ後ろを登って

くる。私達の子供が小さかった時とおんなじだ。樹林帯のなか、階段・砂地など急坂を切り切ると視界が広がり、お爺さんもお爺さん当てる暖かい場所に出た。伊吹山も見える。先に着いた上の孫と、小枝で砂地に絵を描いて遊ぶ。「○描くやろ、

一つ一つ読みながらゆっくりと登る。パンフレットにはA高取の自然の中をてくてくお散歩♪と記されている。大人も子供もけっこう楽しめる道だ。再び舗装路に出てなだらかな登り道を進む。

「おじいちゃん、休憩しような!」上の孫がせがむが、「もう少し歩こう、クネッと曲がったら休憩所があるしな」。少し登ると舗装路から右に階段道があり、

湖東平野・琵琶湖の眺めが良い山頂



「ウントコショ」と声をかけると、孫が「ドッコイショ」。「ウントコショ」「ドッコイショ」……「ウントコショ」、孫は「ん?」「なんやソレ!」「じいちゃんウントコしたいんか」「ちがうやろ」「ウントコショ」「ドッコイショ」……。「あれ、山頂ちがうか?」白い標識が見えてきた。道端に標識があり、木立の間から琵琶湖が見える。しばらくして妻と下の孫も到着。少し甘えたが山頂まで頑張った下の孫。「それでは、これからご褒美を!」。美味しいサンドイッチとオニギリを仲良く分けて食べた。お尻も冷えてくるのでくだることに。タンク(お座)が満タンになり馬力アップの孫達。下り坂を走るので危ない危な





「オバケダゾウ〜」

い。「走ったら、ア・カ・ン〜」何回言っても止めない。コロコロと転がるように走る下の孫。「ウワァ〜ン」やっばりこけた。10分程くだると展望台。親子連れが休憩していた。通り過ぎてくた。」「こんどは何して遊ばかな、ホウバの葉に似た大きな葉っぱがたくさん落ちてい。落ち葉の上を小刻みに歩くと「ガサガサ」と音がして楽しい。孫達も一生懸命落ち葉を踏みつける。「何んて聞こえる？」妻が孫達に問いかける。「カシカシヤ、聞こえるわ」「なんて表

現したらええねやろかな。今度は葉っぱを帽子に挿して「ロボの耳だぞう」。」「明生も！」「俯生も！」。自然って楽しいなよ！ 工夫次第で何でも遊べる。孫達にすれば保育園の延長なんだろう。」「あっ！ きれいな葉っぱ見つけ」「おばあちゃん、持って帰ろう」「お母さんのお土産にしよう」。展望台を過ぎてしばらくくだるとベンチがあり、少し休憩。」「この葉っぱも持って帰ろう！」なだらかな下り道。道端にいろんな落ち葉がある。下の孫はあまり関心なさそうだが、上の孫は葉っぱに視線が止まる。」「しばらくくだると、また、ホウバの葉に似た葉っぱがたくさん落ちてい。今度は何をして遊ばかな？ 大きな葉っぱを拾い、目・鼻・口の穴を空けて顔に当てる。振り返り「オバケダゾウ〜」「怖い〜」と言いながら孫達「明生もする」「俯生もする」。葉っぱに穴を空けてやる」と「ガオー」「オバケダゾウ〜」「おばあちゃん怖い？」「怖い・怖い」「おばあちゃん逃げよ」と「待って〜」。遊んでばかりで進まないが、これが山歩きを楽しむ。山歩きというより我が家の「いちにの山ぼ(散歩)」。

伊澤康夫著  
山ぼにの  
悪い出た  
伊澤康夫著  
文芸社ビジュアルアート  
定価 (900円+税)

●家族で歩いた山登りが本になりました。  
（問い合わせ）伊澤まで  
090 (3942) 4540

ほとんど下山した頃、ウラジロが群生している。「明生（上の孫）、もうじきお正月やろ、お餅の下に置いてある葉っぱやで」「裏を見てみ」「みんな白いなよ」「ウ・ラ・ジ・ロという名前。覚えときや」。駐車場近くに人工ゲレンデがあり、スノーボードで子供達が遊んでいる。始め尻込みしていたが、妻と孫達の3人が滑ったら「それ、私が借りたものですが、使ってください」。他人が借りたものを使ったらしい。タダで三回遊べた。駐車場に戻りジュースを飲む。いっぱい遊んだ孫達。車を走らせしばらくすると可愛い寝息が聞こえてきた。  
(平成18年11月3日歩く)

## 興津川と安倍川上流の二つの山

### 参謀本部と参謀本部山

山形 明

静岡

駿河湾に河口をもつ興津川と安倍川上流に参謀本部といういかめしい名の山がある。明治時代、測量の管轄が陸軍参謀本部にあったことから、単にそのような名前になったのだ。以前から気になっていたこの山に登り、富士山を見てみたいと出かけた。

#### 参謀本部

(興津川上流 804m、2等三角点)  
山梨・静岡の県境にそびえる山で、この山稜には田代峠・徳間峠・樽峠・穴原峠・中沢峠が、峠越えの山道として開かれています。山間に暮らす人びとの交易道として、また武田信玄の駿河侵攻の軍事

道としても、かつては重要な峠道であったようだ。

国道52号線を北上し、興津川に沿って左折して中河内で支流中河内川沿いの道に入る。さらにその奥の分岐で松尾原林道に入る。この林道は舗装道で終点は広場になっていて車が数台置ける。「中沢峠穴原峠登山口」の小さな木札があり、そこから沢沿いに入る。

沢の分岐に着くと、「右穴原峠 左中沢峠」の表示板がある。右を登って左に下りてくることにし、穴原峠を目指す。10分程で、左から流れ込む美しい10坪のナメ滝を見て先へ進むと、やがて沢の水は無くなり、穴原峠に着いた。峠には地

参謀本部の頂上



蔵尊が祀られている。

峠から稜線を30分程急登すれば参謀本部山頂、樹林のなかに三角点が埋まり、展望は無い。稜線をさらに先へ進み、次のピークに出ると、カヤトになっていて展望が開け、ゆったりと裾野を広げた富士山が現れた。

家を出るとき「富士山を見に行ってくる」と言ったら、「富士山なら橋の上か





安倍の山々



参謀本部山の頂上

山頂からは北尾根をくだるのだが、この北尾根はピークの少し下の方から派生していたようで、これを見落とし稜線通しに歩いてしまった。二つ目のピークを越えたとき、北尾根にはピークが一つしかなかったはずだが、と間違いに気がつく。地図を持たずに歩くという悪い癖の結果がもろに出てしまった。この山は独立峰に見えたので、この稜線を歩いても下りられるだろうと先へ進むが、鉄砲の大きな音が聞こえてきて、流れダマが飛んでこないかと心配だった。

途中、富士山や大無間三山が見える所もある。ピークを六つ越えてから下り一方の斜面をくだる、くだるほどに斜面は急になり、立っていられなくなり、両手でササをつかみ尻滑りでくだると、山裾を取り捲く岩棚の上に出て下りられない。岩棚の上を横にへっつって行くと沢に出た。黒光りのするいやらしい沢だがここをくだるしかない。川の流れの見える所までくだると、先は10分程の滝になっている。沢に引っかけかかっている倒木を落としてみたが届かない。20分川下に木に絡みついてる藪があったので根の所を切り離し、ぶら下がり川底へ下りた。

▲コースタイム▼

栗駒駐車場(20分) 登山口(30分) 鉄塔(1時間) 樫七峠(20分) 参謀本部山(1時間40分) 林道(2時間) 栗駒駐車場

▲地形図▼2万5千11鞍河落合・湯の森



「から見れるでしょ」と娘に言われたが、私の住む所から見える富士山は、下半分が秩父の山に欠られ、上半分の富士山なのだ。ここで見る富士山は箱根の山々に囲まれ、駿河湾まで届けとばかり裾野を広げている。中腹に雲の帯を引き、真っ白な雪を冠った姿は神々しく、橋の上の富士山とはわけが違ふのだ。

さらに二つのピークを越えると中沢峠にくだり着いた。ここから山の斜面をくだるのだがまた間違えてしまった。斜面をくだると沢治いになった。水量が多いので登った沢ではないことに気づいたが、もう遅い。倒木ややぶの所は高巻きをしながらくだると、茶畑の広がる赤石林道に出た。林道分岐までくだり、そこから車を置いた林道終点まで登り返さなければならず、1時間30分の無駄歩きをする

参謀本部山

(安倍川上流 9521、2等三角点)

安倍川の支流中河内川の上流へ道をたどると、栗駒集落に着く。ここからこの山を見ると東と北へ二本の尾根が流れていて、その尾根上に鉄塔が立っている。この巡視路を使って東尾根を登り、山頂から北尾根をくだって鉄塔の先の巡視路へつなげば、やぶがあっても何とかなるだろうと計画した。

栗駒バス停前に栗駒入口の看板がある。それに従い山道に入り20分登ると、茶畑の広がるなかに集落があり、のどかな所だ。道の最後のカーブの所に「樫七峠」の小さな木札があり、そこから茶畑の中を歩いて山道に入る。鉄塔を過ぎて道



はあり、急登してピークの上に出る。そこから稜線上を右にくだると樫七峠で、西河内と中河内流域の集落を結ぶ峠だが、今では通る人も無く地蔵も祠も無い、静かな寂しい峠だ。

峠から薄いササやぶを登れば参謀本部山で、三角点を中心に切り開きがあり、小さな山名板があるだけで展望は無い。



標高による山の紹介シリーズ 34 松田敏男

新ハイ関西94号	
標高△△94mの山	
水井山 (794)	京都北山
修験業山 (1094)	台高山脈
鎧岳 (894)	室生火山群
屏風山 (794)	東濃

水井山

京都市内から比叡山を見ると、その左に小さな二つのコブがある。左が水井山、右が横高山だ。どちらの山も特徴として挙げられるような印象は残っていないが、これらの山に登る手前であった玉体杉からの展望は実に強烈だった。目を疑うような光景に接することができたのだ。

大原へ行く途中の登山口という名のバス停から一人で歩き出した時は、今にも雨が降り出しそうな曇り空で、植林ばかりが目につく景色に登る意欲がしぼんでしまっていた。稜線にたどり着いて

も特に天気が回復するという程ではなかった。

滋賀県との境界の稜線の道を少し北上すると、周りの木々が低くなって玉体杉に着いた。大きく展望が開けたそのなかに、雪を頂いた真っ白な白山が浮かんでいた。足元の琵琶湖は輪郭がわずかに見えるくらいで厚くて暗い雲が乗り、その雲の上のかなたの青空のなかに白山が光っていたのだ。

山に通い続けると、こんな特異な気象条件の光景にも巡り会うことがあるのだなあと感激した。

(平成元年1月18日歩く)  
Aコースタイム

修験業山

修験業山から栗ノ木岳までのミニ縦走を、若宮神社を起点に周遊した山行で最も印象深く残っていることは、若宮神社の境内の朝だった。野鳥の声がたいそうすばらしかった。今以上に野鳥の種類の間き分けができない頃だったから、何という鳥の声なのかさっぱり思い出せないのだが、きわめて幸せな気分を味わえたという思い出だけは鮮烈だ。

10年近く経った今では稜線に立派なブナの大木があったこと、若宮神社に戻って来ると朝の静寂とは打って変わって境内が多くの人で賑わっていたことや、買いためたお餅がともおいしかったことなどが思い出されるが、朝の鳥の鳴き声にそれらの思い出はかき消されてしまいうぐらいのものだ。

またいつか、今度は野鳥の声を聞くことを第一の目的に行きたいと思っている。  
(平成11年5月16日歩く)



鎧岳

鎧岳はきわめて特異な山容をしている。関西の里山では抜きんでた存在だ。特に薄暗い時間帯に登山橋から宮瀬村役場あたりで不意に視界に入ってきた時などは、

Aコースタイム  
若宮八幡宮(2時間30分)修験業山(3時間)栗ノ木岳・与原峠を経て若宮八幡宮

不気味なくらいだ。  
2、3、下流の伊賀見大橋あたりから見ると、象の頭のような形で稜線が張り出して鎧のような形の岩壁ですっぱりと切れ落ちているとおり、実際に登ってみると頂上部はなだらかであった。山道は大平が植林帯で極めて平凡であったし、頂上部にしても少し自然の木を残すもののほば植林のなかで、里に迫り出した岩壁の上という感覚はもてなかった。

鎧岳は見て値打ちのある山の最たる存在である。(平成4年10月18日歩く)  
Aコースタイム  
新宅本店前バス停(8時間)鎧岳・兜岳・クマタワを経て宇野川橋バス停  
△地図  
昭文社「赤目・俱利伽羅高原」(旧版)

屏風山

時高さんが800山目に登る山ということで、八百山という名の山に行く計画を立てた。初めて聞く山名の山は東濃の屏風山の近所にあるという。中央自動車道の屏風山PA(パーキングエリア)は以前からその名は知っていたが、肝心の命

名の由来の屏風山らしき形の山をそのPAからは見つけることができなかった。PAは丘陵地形の長閑な田舎にある。この山行をきっかけに気を入れて探すと、PAから相当離れた東南方向に屏風山があった。

会山行で6人で行った。大草の奥の林道の標高470m付近に車を置き、767の少し北から派生している尾根道を登って屏風山を周遊することにした。植林の多い平凡な山のようにだが、標識が完備していて、多くの人に登られている道がついていた。瑞浪市と田山岡町の恵那市との境の稜線に出て、北東方向へ登った地点が最高点の八百山だった。

三角点はもう少し先の植林のなかにあった。昼食を済ませた頃、15人程のパーティが登って来られた。京都から来たか話すと、一様に驚いておられた。

(平成18年9月24日歩く)  
Aコースタイム

大草の奥の林道、標高470m付近の登山道が二本の合流地点(1時間30分)屏風山(1時間)車止  
△地形図V2万5千1環濃



# なが いけ ほんらい さん 長池から蓬萊山

比良

小山 誠次

昭文社「比良山系」地図上、1000  
 峰を超える表示は武奈ヶ岳(1214峰)  
 から摺鉢山(1006峰)までの13座の  
 ほか、小女郎峰すぐ北のピーク1101  
 と、白滝山から蓬萊山に至る尾根上のピー  
 ク1080である。このうち、ピーク1  
 080は一般登山コースから全く外れて  
 いるため、踏み込む人ははるかに少ない。  
 実は以前から、表題の山行をぜひ実現  
 したいと、心中秘するものがあった。今  
 夏こそはその思念のもと、平成18年8月  
 20日、いよいよ実行に移すことになった。  
 しかしながら、ここで大きな問題に直  
 面する。出発点は長池としても、そこま  
 でどのルートを使って到達するかという

選択である。というのは、一般の日帰り  
 登山計画にとって、安曇川側からにして  
 も琵琶湖側からにしても、長池はその日  
 の目的地の一つとして位置づけられるか  
 らである。従って、一般の目的地から出  
 発するためには、可及的早期に長池に到  
 達しておかなければならない。いわば時  
 間的制約が課せられることになる。

おそらく最短到達ルートはJR志賀駅  
 からバス、ゴンドラ、リフトを使い、汁  
 谷を経ての巡視路ルートか、ニシヤ谷経  
 由ルートであろう。しかし、それは筆者  
 の矜持が許さない。そこで、本誌72号の  
 山行案内で、筆者も参加した秦康夫氏リ  
 ーダーの「比良を歩く25 葛川中村から蓬

出町棚7時45分発朽木学校行きの京都  
 バスは定刻に発車した。あと2人でちょ  
 うど満席になるところだった。大原は26  
 度で、キツネノカミソリを沿道や畦道で  
 散見した。坂下トンネルを過ぎて右手は  
 るか上方を眺めていると、一基の送電線  
 用鉄塔が立っている。八番目の鉄塔か。  
 8時44分、葛川学校前から中村橋を渡っ  
 ただけの葛川中村で降車した。このバス  
 停を利用するのは全く初めてである。料  
 金は前者も後者も出町棚から940円と  
 変わらない。

さて、高度計を330峰にセットし、  
 準備を整えて6分後に出発した。コンク  
 リート製の幅広い道を南方向に登ってす  
 く、東向きに民家の南側に沿う狭い舗装  
 路となるが、民家を通り過ぎた所で道に通  
 行止めの竹の柵が設置されている。柵の  
 周囲に張り寄って通り抜けると、間もな  
 く右手に金網で囲まれた坊村・中村簡易  
 水道施設に到り、道はここから地道とな  
 る。地面は湿気っていてヒルが潜んでいそ  
 うだ。

最初はおシロ谷右岸に沿う急登をたど



(写真1) こんもりとしたピーク1080



萊山」ルートを経て、長池まで到達する  
 ことにした。  
 前日の滋賀県の降水確率は南北共、午  
 前0%・午後10%で、京都府では午前・  
 午後共に全域で10%であった。最高気温  
 予報は滋賀県で33度、京都府では35度で  
 ある。当日朝になると、降水確率は滋賀  
 県全域と京都府南部では、午前・午後を  
 通して20%と少し悪化している。

るが、道はいったんおシロ谷を離れた後、  
 間もなく再びおシロ谷に近づいて一番目  
 の鉄塔横に達した。鉄塔の写真撮って  
 さらに道をたどるが、この登りの山道か  
 らは、二番目と三番目の鉄塔が杉木立の  
 間からかなり上方に垣間見える。まだま  
 だ緒についたばかりだ。

水の濡れたおシロ谷支谷を横切ると、  
 すぐに本流に出合う。道はここから全く  
 不明瞭となった。以前の秦リーダーによ  
 る例会のときの渡溪地点がどこか、忘れ  
 てしまった。しかし、基本的にはおシロ  
 谷南方尾根を登高するのだと考えれば、  
 そのうちに巡視路に出合うはずであると  
 腹をくくった。しばらくは道の無い急斜  
 面を登高することにした。

おシロ谷左岸から不即不離のジグザグ  
 登高をしていった、NHKのケーブル埋  
 設施設に出合った。一方、上空に送電線  
 を探すが、見当たらない。この辺りはお  
 なり湿度も高く、全くの無風状態。ちょっ  
 と気分が悪くなった。軽度の熱疲労によ  
 る起立性低血圧を発症したものと判断し  
 た。熱中症対策のため、平坦な石の上に  
 腰を下ろし、スポーツ飲料を口にすると  
 共に、閉居で癒いだ。持参して来た冷凍



ペトホルルが何とも気持ちいい。

7分後、元気を回復したので、さらに上方を目指す。目前の岩に左手を掛けて、ヨイショと体を持ち上げたとき、何と左手から約20mの距離にマムシが鎮座しているではないか。凝視する筆者の顔までの距離は50m程！一般的には毒牙の充分届く範囲だが、比良山のマムシはおとなしいと、以前に中井一郎著『比良山の自然譜』で読んだことがある。確かに襲ってくる気配は無く、むしろ反対向きに動き出した。が、相手の気が変わらないうちに、ストックで押って遠くに飛んで行ってもらった。岩の端をつかむのも考えないといけない。

尾根を直登していると、直角に交叉する巡視路らしき道を発見したのでそれをたどると、黒いプラスチック製の階段に出合った。もう間違いはない。間もなく二番目の鉄塔に達し、それからさらに階段をたどると、左手少し離れた所に三番目の鉄塔を確認した。

この辺りになると、巡視路は杉の植林のなかの頂稜上に続いているが、先程熱中症対策で休憩した時ほどの湿度はなく、また風も少し出てきた。ただしその反面、水面いっぱいには浮草がおおい、周囲の鮮緑色の草木とよく調和し、幻想的で美しい。(写真2)。

その後もいくつかの小ピークを経てピーク1050に達し、ここで初めてピーク1080の全景を目の当たりにする(写真1)。外観は特別なこともなく、こんもりとしたピークである。直登コースを選ぶが、細かく観察するだけでも道の頂



(写真2) こぢんまりとした幻想的な無名池

所どころで直射日光が差し込むようにもなってきた。10時41分、四番目の鉄塔下に達した。標高740m。ここで足周りをチェックする。ロングスバツツの外側に一匹、内側にも一匹のヒルが付着していたが、今回は実害はなかった。

その後、五番目を通過した頃よりブナ科樹木の自然林となり、六番目、七番目と順調に鉄塔を通過した。いよいよ長池のすぐ西方の八番目の鉄塔が目前である。実は本日の計画当初、11時30分までに八番目の鉄塔に達しないと、ピーク1080を経由しての蓬萊山登高は中止するつもりだった。歩き出して何らかの不測事態を生じた場合、対策に充分時間的余裕を残しておきたいからである。

しかし、八番目の鉄塔下に到着したのは11時31分だった。この際1分の遅刻は無視することとした。ここは西側が開けているので、安曇川を挟んで峰床山と中村乗越を正面に眺めながらおにぎりを一個食べる。本日は本格的な昼食タイムは予定していない。

11時47分に出発し、水草で岸辺をおおわれた長池を左下方に眺めながら、九番目の鉄塔に達した。何か動く物を感じて

上に向かっていている。所どころに鹿の糞が落ちていた。なるほど、これをたどったほうが楽である。

12時58分、ついにピーク1080に到達した。南方約1kmに蓬萊山の山上構造物が望まれる(写真3)。また、南東約1.3kmに打見山の山上構造物もよく眺められる。この景色を目にしたいとの長い間の願望が、ようやく本日ここに実現した。感激である。頂上の比較的坐りやすい場所にシートを敷き、おにぎりをまた一個食べる。ここまでは事前に地図上で検討したピークを忠実にたどって来るだけで達成した。

13時15分、後半のコースにとりかかると、蓬萊山を遠方に眺め、尾根を忠実にたどるが、飲水のため、ジャガ谷の源頭の一つの谷まで下降した。小さな流れに出合い、湧出したばかりの水を飲んで再び尾根に戻った。ここからは地図上では一本道の尾根をたどることになる。歩いていくと、頂稜上に細い踏み跡と、時には溝状の古道跡に出合い、一箇所だけ赤テープのマーキングを発見した。この辺りではクマザサのやぶ清さとはいっても、まだまだ疎らである。

目をやると、子鹿が南の方に飛び跳ねて行くのが見えた。さらに巡視路をたどる。実は九番目の鉄塔から7分後、一つの小ピークを挟んだピーク970が本日の道なき道の出发点である。11時58分着。どういうわけか、木に古びた藁草履が吊しである。

12時2分、本日のメインイベントのための第一歩を南向きに踏み出す。ここから蓬萊山までは直線距離で約2km、ピーク1080までは約1kmである。まず、南西方向のピーク980を目指す。クマザサは疎らに生えていて胸元までの高さ、多くは穂先が鹿に齧り取られている。樹木も疎らで、コースさえ間違えなければうまくいきそうだ。

歩行開始時、派手な音楽が南の方向より聞こえてきた。まさかピーク1080で演奏会をしているわけでもないし、どこからか考えたが、やはり蓬萊山が音源であったことが徐々にわかってくる。あたかも進行方向を教えてくれているようだ。

ピーク980をくぐると、右手にひっそりと静かな暗緑色の水を湛えた無名池に出合った。こぢんまりとしたこの池は、

だが、突然踏み跡が消失すると共に、目前に胸元の高さの青々とした濃密なクマザサ帯が出現した。捲り上げていた長袖シャツを下ろし、やぶのなかに突入した。まだ視界がきくだけましとくと思いついて、ゴールを目指す。もうすぐ頂上だと信じながら、文字通り一歩一歩前進する。

やがて、クマザサはいっそう濃密になり、筆者の背丈を超えてしまった。難苦の一步が踏み出せない。やぶの上へたどり込んで水分補給しながら、高度計をチェックすると1150mを指している。あとわずかのはずである。しかし、この時が一番しんどかった。方向だけは間違わないようにと、コンパスで方位を確認しながら、もう一度挑戦する。ここまで来て引き返すわけにはいかない。

もう少しとの確信のもと、元気を奮い起たせてさらにやぶを清く。幸いなことに、クマザサは首筋のレベルにまで低くなり、多少歩きやすくなってきた。そしてついに、蓬萊山四号リフトの頂上構造物が目に入った。これを確認すれば元氣百倍。そのまま勢いをつけ、ついにやぶを抜け出した。満足感に浸るひとときである。



# 山歩き

2007年4月  
2008年3月

## 山歩き&ウォーキング 総合カタログ 完成しました!

見ごたえたっぷり国内・海外・自然観察の旅500コース以上を掲載した総合カタログ。これから登山やハイキングを始める方、初心者の方のための、山歩き教室カタログ。お気軽にお問い合わせください。



お電話  
おはがき  
FAX・HP  
にて!

**送料・本体無料  
ご請求ください!**

大好きな山の中で働いてみませんか!  
**山岳添乗員・山岳ガイド募集**

ご興味のある方は下記までご連絡ください。

**AMUSE** アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1365号  
日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員  
〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階  
ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>  
E-mail: [amoss@amuse-travel.co.jp](mailto:amoss@amuse-travel.co.jp)  
**06-6456-3366** FAX 06-6456-3377



(写真3) ピーク1080から蓬萊山を望む

蓬萊山の山頂は家族連れとカップルで賑わっている。話し声と派手な音楽の喧嘩のなか、離俗の心境と言えよう。ゆっくりと残ったスポーツ飲料に口を付け、琵琶湖大橋を眺めながら、気持ちの昂揚を鎮めた。17分間の休憩だった。

14時45分、蓬萊山を後にした。本日は一歩も進めない程のやぶを漕いで来たので、帰路は長い舗装路を歩いてみようかと、

キンミズヒキとシモツケソウの咲く金毘羅道を下山路に選んだ。このルートはもう長い間歩いていない。おそらく多くの登山家は高度差約550mもある舗装路歩きを嫌うはずだが、本日は事情が特別だ。

金毘羅峠手前の崩壊跡へは、親切な通行止めの柵が設けられているのは以前と変わらない。金毘羅峠で右に折れ、久し振りの道思い出すように下山する。途中、大きな岩を根っこに抱えたブナの大木の横を通ると、間もなく水音が聞こえてきた。野離子川の源流に発する沢声だ。

15時38分、金毘羅道のコンクリート製の道路に合流した。ここで標高650m以下である。ここからは路面が濡れていたり若むしている箇所が転倒しないように、急がず小歩で歩くように心掛けた。20分後、金毘羅神社の名水でたっぷり咽を潤し顔を洗い、タオルを濯いだ。その3分後、立派に改修された金毘羅大権現に参拝する。以前は斜面の中腹に赤い細い木の鳥居があったのだが、どなたか奇特な方がいらっしやるのであろう。

後は残りの一本道だが、途中で送電線下を通ったとき、左手の鉄塔を見て、

思わず「あれは何番目かな」と考える習慣が残っていた。16時54分、JR蓬萊駅に到着し、17時4分発の京都市行き普通電車で帰途についた。

本日は軽度の熱疲労とマムシへの大接近を経て、無事ピーク1080に到達した。そこからの蓬萊山と打見山の風景は、念願が叶って感激的だった。しかし、その後の一歩も進めない程の猛然たるクマザサのやぶは、達成後の満足感をいっそう昂揚させるものであった。

(平成18年8月20日歩く)

▲コースタイム▼  
萬川中村バス停(5分) 簡易水道施設(8分) 一番目の鉄塔(26分) オシロ谷本流(52分) 四番目の鉄塔(31分) 八番目の鉄塔(11分) ピーク970の道なき道の出発点(9分) 無名池(27分) ピーク1050(15分) ピーク1080(1時間13分) 蓬萊山(4分) 金毘羅道分岐(19分) 金毘羅峠(30分) コンクリート道(20分) 金毘羅神社の名水(3分) 金毘羅大権現(43分) JR蓬萊駅  
△地図▼  
昭文社「比良山系」



# 大嵐山

## 白峰

木村太郎

その年の寒暖によって、山に降る雪に違いがあり、花の咲く時期にずれが生じる。あるガイド本によれば、越前取立山のミズバシヨウの見頃は5月初旬として

いる。取立山のミズバシヨウを求め、5月初めに山友の信田さんと出かけた。その年は残雪が多く、ミズバシヨウの群生地は一面雪に埋もれていた。美しい雪化粧の白山連峰の姿は眺めたが、花に出会えなくてがっかりして帰った。

明るる年、「ファミリィハイク」で取立山の山行を計画したので、山友をもう一度、取立山に誘ってみた。山友は休みが限られた現役の会社員で、2年続けて

同じ山に登りに行くのは気乗りがしな

いと断わった。

単独行で北陸路まで遠出するので、大阪を早朝に出発した。加賀大嵐山を先に歩いたあとで、帰り道に取立山へ廻ることにした。取立山と同じように、大嵐山は白山山系で指折りのミズバシヨウ群生地があり、マイカーを使えば入山しやすい山である。

帰りに転進する取立山の入口「東山いこいの森」を過ぎて、谷峠のトンネルを抜け、手取湖にかかる白峰村の桑島大橋を渡る。上流は手取川で、九頭竜川・長良川と共に、白山を水源とする神の坐す川と信仰されている。川は下白山四社

大嵐山の山頂



の門前町鶴米町を通過して、美川町の日本海に注ぐ。

雪深い年には道が荒れて入れないが、整備を済ませたカーブが多い百合谷林道を上る。砂御前山と鳴谷山登山口に通じる砂御前林道を右手に見送り、大嵐山園地の駐車場に乗り入れる。

奥にキャンプ場がある。広い駐車場の山寄りの片隅に、「森は海の恋人」と題

した、熊谷龍子の短歌を緑色ペンキで書いた看板が立ててある。

森は海を海は森を恋いながら  
悠久よりの愛訪きゆく

看板をよく見ると、金沢の地域学習サークル「森は海の恋人」が立てたものらしい。「生命を育む豊かな森を守るために、

ブナの苗木を植え育てています」と説明されている。

熊谷龍子は、宮城県北陸前の手長野に住む歌人であり、「森は海の恋人」という歌集を1996年に出している。東北の手長山麓に住む歌人の作を、北陸の大嵐山中腹で目にしたことに、ある共感を覚えた。

熊谷龍子の祖父は熊谷武雄という田園歌人で、大正から昭和にかけて、結社誌「詩歌」で詠み続けた。雑木を切り払い、商売になるスギに植え替える林業が主流になるなかで、雑木林をこよなく愛した武雄は、広葉樹を題材にした歌を多く作っている。

手長野に木々はあれどたらちねの

ははそのかげは換るにしたしき

ははそ(コナラやクスギの総称)の森の山を守り続けた武雄は、林業家としての主体性をもちながら、広葉樹の森を愛して短歌に詠んでいた。その祖父武雄の遺伝子を受け継いだ龍子は、「森は海の恋人」という言葉を用いて、ははその森を育てていく大切さを歌で呼びかけたのである。

気仙沼の漁民で、「牡蠣の森を慕う会」

の鼻山重篤は、その昔「私たち漁民は森の恵みで生活していた。船は木造船であり、海で使う道具類も木や竹で造られていた」と、森と海の結びつきを説いている。森から川に、川から海に続く生態系のなかでしか、海を糧にする漁民も生きられないと気づき、森を慕って山に木も植え始めたのだという。

手長野の熊谷龍子の短歌、気仙沼の鼻山重篤たちの運動に連帯するグループが、遠く離れた金沢にもあり、学習サークルを結成し、大嵐山にブナの苗木を植えている。彼らの活動が持続され、彼らの子供たちの時代になった時の、山々に緑が満ちあふれる様子を想像して、僕は共感したのである。

森は海の恋人だと信じ合う人たちが育てる樹木がどこかにあり、絆を感じさせる森に向かう。駐車場の登山道に入り、新緑の生命力に染まる百合谷峠まで一気に登って、ミズバシヨウの群生地へくだる。

雪解けでぬかるんだ道は少し歩きにくい。陽のあたるミズバシヨウの群生地は道が乾いていた。ベンチが置かれ木道を通して花園に、もっと大勢が入山







ミズバシヨウの群生

頂への到達感が満たされる眺めといえた。白山の前面に壁となつている山が見え、おそろしく砂御前山と鳴谷山だとあたりをつけた。

山端から谷間を見下ろせば、白い花をつけた木々が大密集している。コブシなのか、タムシバナなのか、遠すぎてわからない。コブシであれば農事暦と深いつながりがあり、田仕事を始める目安とされ

ており、花が多い年は豊作と信じられてきた。

百合谷峠へくだり、十字路をまっすぐ進んで展望コースに入る。ブナに混じってムシカリやタムシバナの木々が見られる。林床にも花が見られ、僕の目の前を、子供を連れだした男性が話し合いながら歩いている。

尾根をゆるやかに登っている途中で、急に親子は道を折れ曲がった。大嵐山園地へ帰り着く道らしい。僕は後を追いかけて、親子を追い抜いた。小学校低学年位の男の子は、道端の花を指差し、父親に名を告げていたように見えた。

僕の知らない花の名前を、わけなく父親に知らせる男の子に感心させられた。森は海の恋人であるならば、小さな子は森に育てられた愛児であり、森の草花と同胞に違いない。僕が大嵐山に登っている間に、親子はミズバシヨウ園から帰ってきたようだ。

満身を大地にあずけ早春の陽のなかに子は駆けいだしてゆく季節が移り変わる歌びを、全身で表現する子供の姿を、熊谷龍子は詠んだ。子供が純真な心で見つめる時、花は山にた

みずみずしい若葉だからであろう。ブナ林のなかに立ち尽くしていれば、あらゆるものから心が解き放たれていく。自然界の樹木は樹木で、ただ唯一自由になる大空に向いて、無言のままに立ち続けている。

ひとつ処に何百年も立ちている樹なるがゆえに樹なるがゆえに道のT字路を右にとれば、朝に出合った砂御前林道の終点に通じている。左に進めば崖地の道で、すぐに急勾配となり、大嵐山が近づいた。ブナの巨木やスギの古木が点在する道を登り切れば、やがて山の高みにたどり着き、サンカンスギが林立している大嵐山(1204m)の山頂である。

シャクナゲが花をつけた小高い台地上に上ってみたが、三角点は無かった。雪で倒木したり、根元から曲がったスギの木の間には「大嵐山の標柱」を見つけた。低いとはいえず白山の前衛峰、太古の恐竜が暴れまわったような、荒れて厳しい山頂風景であった。

狭い山頂の東面の雑木類が切り払われ、おどり、白山が望めた。取立山からの大展望とはいかないが、ささやかながら山

だあるだけではない、自然界の生命につながり合うことを知らせている。

いま僕が子供に連れられたら、早くから山を歩いていたら、もっと別の僕の人生があったのだろうか。山に向き合う時間に長い短いがあるにしろ、山は永遠のものであり、山の存在の尺度にくらべた時、あまりにも人の一生は短かすぎ、比較するべきもない。変わりようのない小さな自分がいるだけなのである。

一本一本の草木で覆われた途方もない土の一塊をわれら山と呼ぶ

とはいえず、山の存在をあまり過大に考え過ぎてはいけない。熊谷龍子の言葉によれば、たった一本の草木が寄せ集まっただけの、土の一塊も山なのだという。

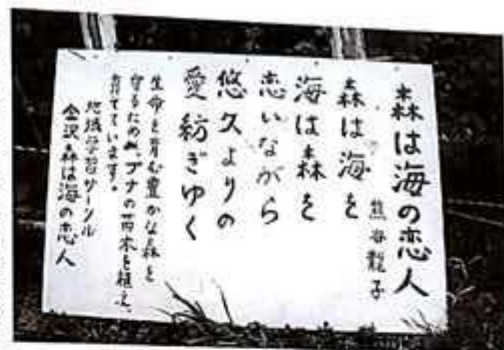
山について、考えごとをしているうちに、大嵐山園地に帰り着いた。

(平成17年5月21日歩く)

▲コースタイム▼

大嵐山園地登山口(20分) 百合谷峠(10分) ミズバシヨウ園(15分) 百合谷峠(15分) 森林浴の森(25分) 大嵐山(30分) 百合谷峠(35分) 大嵐山園地

▲地形図▼2万5千1:1白峰



「森は海の恋人」の看板

しているかと思つて来たが、時間が早すぎるのか、休日なのに来訪者はそれほど多くない。

目当てのミズバシヨウは、湿原に所狭しと咲き誇っている。すっかり開き切った様子の白い仏焰花をもつ円柱状の花穂はまだまだまだきれいだ、見頃のピークはそれほど長くはなさそうである。水辺が微温んで森林が緑立つにつれ、花を終

える。やがて芭蕉に似た大きな葉を広げるのだろう。

いつまでもミズバシヨウ園において、朝まだきの景色を満らしている花々に、僕は好意を寄せ見守りつづけた。この日の僕は、大嵐山のとこに、取立山のミズバシヨウにも会いに行かねばならなかった。未練を残して百合谷峠へ引き返した。

ミズバシヨウ園へ急いでいて、見過ごしていた仲間外れのミズバシヨウを帰り道で見つけた。木陰にはハート形の葉をつけた薄紫色のスミレサイシンが咲いていた。峠から大嵐山目指して、やせ尾根を登り始める。

標高960mの峠からの道、大嵐山の尾根には残雪があった。解け始めた雪に、山靴の跡を刻みつけて、標高差を確かめていく。足下にはイワウチワが、頭上にはユキグニミツバツツジが彩りを添えている。

ミズナラやブナの木々を通して、明るい光が差しこく。気分よく登って行けば、森林浴の森と呼ばれる「百虎谷ブナ林」の道標が立つT字路に出た。森のブナが美しいのは、まだ何ひとつ傷の無い

標高960mの峠からの道、大嵐山の尾根には残雪があった。解け始めた雪に、山靴の跡を刻みつけて、標高差を確かめていく。足下にはイワウチワが、頭上にはユキグニミツバツツジが彩りを添えている。

ミズナラやブナの木々を通して、明るい光が差しこく。気分よく登って行けば、森林浴の森と呼ばれる「百虎谷ブナ林」の道標が立つT字路に出た。森のブナが美しいのは、まだ何ひとつ傷の無い



# 遠足尾根と丸尾尾根

鈴鹿

長谷川 雅 俊

遠足尾根の日の出



を52度に合わせ右へ曲がる。人のトレースは全く無く、あるのはウサギや鹿などの動物の足跡だけ。次の分岐に2時30分着、34.8度へ進路を變える。しばらくするとあたりの雰囲気は何となくおかしい。コンパスをチェックするとずれているので、左へ90度曲がる。やはりキチンとチェックしなければ……。初めての所は頻りにチェックするのでよいのだが、

遠足尾根へリベンジ！  
半月前にあまりの雪の多さに敗退した遠足尾根に再挑戦することにした。しかし先週、御池岳奥ノ平行きで痛めた左膝（あまりに痛くて涙がこぼれました）がパンクしないか心配であった。  
今冬は暖冬と予想されていたが、実際は数十年振りの大雪となり、うれしい大誤算であったが、とても一人でラッセルして登れる半端な雪ではなかった。  
ところが最近暖かくなって、道路にも全く雪が無く、宇賀溪の無料駐車場に車を乗り入れることができ、オリオン座を背に歩いて落合橋下の遠足尾根末端に取り付く。一昨年は3時、昨年は2時出発で

日の出に十分間に合ったのだが、前回は2時15分出発で日の出に間に合わなかった。したがって今回はもう少し早目の1時17分に出発する。  
植林用の階段を登り、やぶをかき分けて入ると尾根斜面にもほとんど雪は着いていなかった。この前は、月と雪で明るかった斜面はヘッドライトを点ける必要もなく、また鹿が小生のライトに驚いて鳴き出したので、消して登ったのだが、今日は月も雪も無く灯りを消すと、全く漆黒の世界だった。34.0度へまっすぐ登り、42.0度で雪に覆われるようになり、2時17分台地にのる。高度計は4800だったのですは正確。コンパス

が、ここも肝を冷やす所。両側は当然ナイフエッジになっていて、恐くてビビってしまい、カンジキを履いた足を引っ掛けて取り廻すのに苦勞する。それに暗闇のなかで転倒しないようバランスをとらなければ……。

二度三度と慣れてくると、前倒くさいのでコンパスの確認を怠ってしまう。記憶というのには案外いい加減なもの、毎週通っていても間違えるし、方向感覚も全く当てにはならない。

そういう事は頭ではわかっているのだが、どうしても自分の方向感覚が正しく、コンパスが壊れているのだと思ひ込んで何度もミスが犯してしまう。コンパスが正しく自分が間違っているのだと、冷静に理解するまでには、かなりの歳月を要した。

3時29分、高度7000封で雪が深くなってきた、そろそろ膝の内側が痛くなっ

きた。もうこのあたりでは、鹿の足跡も見られなくなった。  
3時31分、カンジキをアイゼンの上に戻き、大日向（前回同様、三角点が雪に埋まっていた）を通過する。到着。高度計は7450だった。そのまま31.0度へ一度くだって進む。4時12分、尾根芯にのり、35.8度へ進路を變える。  
4時20分、青川の梨ヶ平分岐（7900封）に出合う。高度計は8000封なので気圧は安定しているようだ。例年、尾根芯にのると突風が吹きつけるのだが、今日は風も無く音も無い、無の世界を単独で黙々と歩く。このあたり、左手は雪庇になっているので気をつけねば……。今回もやぶを滑るのに気を取られて、落ちそうになってしまった。北アルプスのように、落ちたら死ぬわけではないが、登り返すのは確実に体力を消耗する。  
4時51分、地形図でも明瞭なキレット（ガレのマーキングのある所）を通過する

が、ここも肝を冷やす所。両側は当然ナイフエッジになっていて、恐くてビビってしまい、カンジキを履いた足を引っ掛けて取り廻すのに苦勞する。それに暗闇のなかで転倒しないようバランスをとらなければ……。  
ここから闇のなか28.0度の方向に電ヶ岳の頭が見える。5時18分、とうとう樹林帯を抜けることができ、高度は9400封。振り返ると夜景がすばらしい！  
14.2度のセントレア（たぶん）の滑走路もライトでよくわかるし、12.0度には小生と同じ目標の高さに明けの明星が光り輝いている。竜の頭もここからは25.6度方向に見える。



日の出にはまだ早いので、そのまま突っ立ったまま待つが、さすがに今日は暖かい（こんなに暖かい遠足尾根は初めて）とは言っても、やはりじっとしていると冷えてくる。樹林帯まで戻って、ツェルトを被って休む。薄っぺらな生地ツェルトだが、自分の体温ではすぐに暖かくなる。家を出る前、自分でつくってきたイチゴジャムのサンドイッチをほおばり、テルモスのお湯を飲むと、芯から温まってきた。知らないうちに眠ってしまった



いた(昨日は当然徹夜で前日も3時間位しか寝ていない)が、6時に携帯の目覚ましで起こされた。

6時6分、すぐに振り返し、撮影場所での日の出を待つ。7時近くになって(写真を撮るのに夢中で、時間をチェックするのを忘れる)、写真をRAWで1000枚ほど撮る。今までは、JPGで、色温度を太陽光と日陰モードで、ISO感度をいろいろ変え、露出も三分の一単位で補正して撮っていたので大変だったのだが、RAWで撮るようになってからは、色温度は5600K、露出補正は三分の二単位、色相・色合い・シャープネス等は無補正にしてパラメーターを常に一定にすることによって、自分のイメージを普遍的に撮るようになっていく。今までのようにカメラ任せで撮っていると、何が正しい色なのか、または真実なのかわからなくなってしまふ。RAWでは一定の条件で撮った後で、パソコン上で自分のイメージ通りに現像・加工すればよいので、山の中では撮影に集中できて非常によい。撮り終われば、後は下山するのみだが果たしてどこからくだらうか思案する。昨年下りたホタガ谷は、今年は雪が深い

ので雪崩が怖い(実際、インターネットのホームページで雪崩の写真が掲載されている)、膝が痛くては金山尾根まで行く意欲は起こらない。そのまま遠足尾根をくだるのも芸がない。と言うことで、遠足尾根からホタガ谷へ向かう支尾根に決定。この尾根は、登ってきた遠足尾根の梨ヶ平分岐とキレットの間からホタガ谷へ188度下りているやせ尾根で、かなり急ではあるが早く下りられるので有効な尾根である。

7時32分、下山開始。ガレたキレットを過ぎ、7時43分、高度計は830mだったが、地形図では800m位で右手のやぶに突入する。最初はかなり急で歩きづらく、やせ尾根なのでカンジキを引っかけての転落に気をつけねばならないが、すぐに植林帯が現れる。8時20分、645mでカンジキを外す。525mから下になると鹿の遊び場がそこらじゅうになり、寝床もたくさん見られるようになる。上の方では全く鹿の足跡は無かったため、やはり冬は鹿も下界に近い所で生活しているようだ。

8時52分、裏道登山道の36番に合流。くだって行くと、これから登ってくるグ

ループに出会い、「長谷川さんですか」と尋ねられる。インターネットで目にかかる彼さんという方だった。

9時32分、駐車場に到着。ここでも「夫妻の方に尋ねられ、お聞きした所によると、半月程前に熱田登山のグルーブの方々が小生のトレースをたどって遠足尾根を登ったようだ。」

以前はよく御池本で有名な「近藤先生ですか?」と尋ねられたが、最近では「長谷川さんですか?」と言われるようになり、うれしくもあり、インターネットの威力をまざまざと見せつけられて愉快もある。

しかし、12月から1月初旬の寒さもどこへやら、気象庁の予報通り今年はやはり暖かい。パウダースノーのラッセルも大変だが、腐れ雪の上を歩くのも趣がなくて楽しくないし、うん、何て我儘な生活なんだ!(平成18年1月29日歩く)

▲参考タイム▼

- 宇賀溪落合橋駐車場1・17-470台
- 地2・17-梨ヶ平分岐4・20-下山開始
- 7・43-支尾根分岐7・43-裏道登山道
- 36番8・52-駐車場9・32
- △地形図▽2万5千レック岳

丸尾尾根、メガネよさらば!

今日も御池へ、ということ、鞍掛林道のゲートに22時14分到着。今回は暗闇の丸尾尾根を登ることにする、とはいつても今冬はすでに奥ノ平に一度たりり着いているので気が楽だ(92号参照)。ノンビリと3時30分起床。準備完了でヘッドライトを点けようとしたら点かない! どうもスイッチが入ったままだった

たようだ。うん、参った。やむをえず、昨年一年間使用した予備の電池に交換する。普通のマンガンやアルカリ電池なら無理だが、小生のはリチウムイオン電池、100時間位は使用できるのでたぶん何とかなるだろう。もし途中で切れたら、キーリングに付けてあるLEDのペンライトを使えばよい……。

結局少し遅れて4時19分、コンパスを225度にセットして出発。ゲートから南のやぶに入るが、すぐに植林帯となる。右と左の両方に鹿がいてしきりに鳴きだす。もう猟期が終わって安心しているのに、いきなり人間が侵入してきたのでビックリしたようだ。

平坦な所を歩き出す、リングワンディングを起すといけないので、コンパスを胸にかざして常にチェックしながら歩く。なかなか斜面にたどり着かないのでまたまた進む方向を間違えたのかと心配になるが、4時32分、急に傾斜が強くなったのでホッとすると、4時ありえず斜面を登ればよいので適当に歩きやすい所を登り、4



時47分、台地にのる。高度計は390mだったが、地形図で確認すると350mであった。ここから320度へ歩き出す。4時59分、415mで目の前の尾根が無くなる。また、地形図でチェックして、左手(265度)へ歩き出す、ずっとくだりなので心配になるが、390mで登り返すようになり、ホッとする。ここでもあたりに鹿がたくさんいて、襲われるのではないかと怖くなり、ビックルで木を叩きながら歩く。そういえば今日もまだ暗いのに鉄砲の音がする。最初は畑などの害獣よけのための花火の破裂音だと思っていたのだが、知り合いの猟師さんに聞いたところでは、やはり密猟だそうである。

5時11分、405mで冷川谷からの袖道に出合ったのでひと安心、これで少なくとも寒山までは大丈夫。520mから山肌が雪が着き始め、登山者の足跡がたたくさん見られるようになる。右手に520mの独標のある霧囲気のないダイラ(もちろん暗くは今ばかりだが、雪に埋まったダイラはどんな感じだろうか? なかなかラッセルしてまで行く気力がなくなったのが悲しい)を従えて腐れ雪の斜面を進む。



5時55分、寒山到着。高度計は685  
材なので650材に修正する。ここから  
の尾根の入り口は昼間でもわかりづらい  
ので、暗闇ではなおさら心配だったが、  
すぐにわかり安心する。しばらくやせ尾  
根をくだるが、右手、谷の源頭部はガレ  
ているので、落ちないように気をつけて  
歩く。この谷は下から上まで全てガラガ  
ラの谷で、以前、600材位の所をトラ  
パスしようとしたが、怖くて諦めたこ  
とがある。

途中、尾根芯に鹿が皮を食つくした  
木が倒れかかっていた。冬は鹿も食べる  
ものが不足しているので必死なのだろう。  
遠くに鞍掛峠、焼尾のピークが薄明かり  
のなかで浮かび上がっている。6時6分、  
ライトを消す。

6時13分、丁字路に突き当たる。ここ  
は673材の独標で、登りでは問題ない  
のだが、下りでは、左折するのをうっか  
り忘れて通り過ぎてしまうことがある  
(たぶんアホな小生だけだと思いが...)。1  
ヶ月程前にも、奥ノ平からの帰りに、疲  
勞と膝が痛いのを取られてまっすぐ  
冷川谷の方へ下りてしまい、途中で気づ  
いて登り返したのだが、しんどくて涙が

出てきてしまった。高度計は685材だっ  
たがこのくらいは許容範囲だ。ここから  
は地形図で一応チェックして右手(24  
8度)へ進み、しばらくして215度へ  
登る。765材で振り返ると81度の方向  
に樹間から恵那山?を見ることができた。  
770材ピークを過ぎて下りになり、鞍  
部から見上げると、前方232度に荷ヶ  
岳がどんとそびえ立つ。ここから眺め  
る荷ヶ岳は実に立派である。

7時28分、荷ヶ岳(冷川岳)1055  
材に到着。高度計は930材だったので  
1055材に修正する。気圧がかなり高  
くなっているようなので天気は良くなり  
そう。しかし、新雪は全く無く、腐れ  
雪の上に足踏だらけなので、急に奥ノ平  
へ行く意欲がしぼんできた。やはり奥ノ  
平に自分以外の足跡があるのはやるせな  
い(何て我儘な性格なんだ!)。

引き締めねば……。急ぎよ、おそらく今年はまだ誰も入っ  
ていないであろう大燗シ谷へ下りること  
にする。小生は、この谷は他の鈴鹿のあ  
まり人の入らない谷と同じで、そんなに  
険しいとは思わないのだが、一般的には  
入ってはならない谷の一つとされている。  
新ハイの皆さんも入滅される時は気をつ

けていただきたい。そして必ず1人で入  
ること、決して仲間を道連れにしないで  
ください。

326度へ下りると、すぐに水音が聞  
こえだし、雪のなかから水が噴出して  
いる所があったので、そちらへトラパス  
する。途中、伊吹、北アルプスの方がよ  
く見えた。8時6分、谷芯にたどり着く。  
高度は955材であった。そのまま谷芯  
をくだるが、雪が硬くなってアイスパ  
ーになったので危険を感じ、アイゼ  
ンを付けようとしたが、谷芯では落石に  
合う恐れがあったので(実際、20、30材位  
の石が所どころで落ちてきた)、急な右岸を  
よじ登り木の間に進入。ザックやカメラ  
を落とさないように、ピッケルを雪面に  
突き刺してアンカーにしようとしたが、  
雪が硬くてなかなか刺さらない。

さていよいよアイゼンを履こうとした  
瞬間、体が宙に浮き斜面に叩きつけられ  
る! 何とかピッケルにしがみついたの  
だが、衝撃でメガネが吹き飛ばし……  
気がつくともメガネは谷底に滑り落ちてい  
き、見えなくなる。トホホ……アイゼン  
を取り付けてから沢芯を探すが、時すで  
に遅し、がっかり……

とりあえず予備のサングラスをかけた  
のだが、遠近両用ではなく、近視用なの  
で、距離感がつかめなく、大した段差で  
はないと思って足を下ろすと、実際には  
かなりの落差があり、膝にまともに衝撃  
が走る。こんな事では果たして下山でき  
るのだろうか? と、不安になるし、ピッ  
ケルもいつもより短く見える……



大燗シ谷源頭部

意気消沈して歩き出すが、まだこれか  
ら難関を通らなければならないので気を

9時、690材で伏流になり、左手か  
ら沢が出合った所の下の左岸に窯跡ある  
この炭焼き窯の上には直径3〜4材程の  
大岩がのっかっているのだが、今日は雪  
に隠れて全くわからない。このあたりは、  
大燗シ谷の中で唯一のどかな所で、炭焼  
き窯があるのもうなずける。

9時15分、大燗シ大滝の落とし口に到  
着。落差15材程ある滝の上から下を覗く  
と積もった雪で、落差があまり無さそう  
に見える。下りられる所まで下りれば雪  
面まで後2材位かな? と思われて、そ  
のまま飛び降りたい衝動にかられるが、  
若くはないのでグツと我慢する。30年若  
かったら飛び降りたかも……しかしここ  
で骨折でもしたら、誰も助けに來ないの  
で、動物や植物の栄養になるんだろな……

前回来た時は、滝の落とし口右岸の小  
さな沢の左岸の岩壁を三ヶ所確保でよじ登っ  
たのだが、今回は沢芯をピッケルとアイ  
ゼンの前爪を確実に効かせながら登る。  
ここから落ちたらかなりヤバイので心臓  
が高鳴る。途中から右岸にのるが、ここ  
もまだ斜面が急でトラパスするのが難  
しい。さらに登るが、落ちたら大滝の下

まで真っ逆さまで、天国への招待は間違  
いなし、「落ちるな、落ちるな!」と呪  
文を唱えながら登る。

9時52分、720材で斜面がならか  
になり、ようやくトラパス、下りられ  
そうな場所が現れたので下りる。10時24  
分、谷芯に着き、ホッとす。10時44分、  
赤い犬返橋(谷の名前は「大燗シ」だが橋  
は「犬返」)の上にとどり着き、長い国道  
歩きとなる。昔は登山道ではない道を延々  
と歩くのは非常に苦痛であったが、最近  
は歳のせいかわりに苦痛ではなくなった。とは  
言ってもやはり舗装された道ではなく、  
途中、情緒のある旧道を歩いてゲートに  
11時37分、到着。

今日のメガネといい、一昨年の広角ス  
ムレンズといい、滑落には気をつけねば、  
またまた、お金も無いのに大出費じゃ、  
グスン……(平成18年2月19日歩く)

#### ▲参考タイム▼

- ゲート4・19―台地にのる4・47―寒山
- 5・55―荷ヶ岳7・28―大燗シ谷沢登り8・
- 06―大燗シ大滝9・15―犬返橋10・44―
- ゲート11・37

△地形図√2万5千Ⅱ電ヶ岳



白神の怒りかな？

# 白神岳

青森

川島勝美

晩夏の白神岳(1232m)に出かけた。今、人気の五能線だが最寄り駅に降りたのは私達3人を含む4人だった。寂しい無人駅だ。天気は上々。

タクシートの予約が取れなかったため、歩く羽目になったが、しばらくすると後ろから車が「登山口まで乗って行きませんか？ かなりありますよ」と、声を掛けてくれた。有り難く好意に甘える。車中の会話では明日も快晴とか。幸先が良い。駐車場で夫婦と別れ登山道に入った。

歩くこと1時間余りで「最後の水場」に着き、昼食をとる。予定通りのペースだ。燧山を過ぎ樹間を抜けるとパッと視界

が開け、目の前に白神岳が。30分程で頂上避難小屋に到着した。

眼下にブナの樹海、その向こうには真っ青な日本海だ。絶景！ 絶景！ 足元に色鮮やかなリンドウが咲き乱れている。小屋泊まりは我々だけだ。日本海に沈む夕日を羨望し、こぼれんばかりの星空を眺め、明日の好天を確認してシュラフに潜り込んだ。

翌朝、微かな遠雷の音に目覚め、最新の天気予報を確認すると、白神地方は晴れ、遠雷ははるかかなたの雲らしい。躊躇したものの天気予報を信じて出発することにした。

2時間程歩いたのだろうか。ぼつぼつと雨が肌に触る。休憩を兼ね雨支度を整えた。と、いきなり合羽を着るのを待っていたかのように稲光と土砂降りの雨。叩きつける雨粒で頭が痛い。ブナの大木からは水道の蛇口を全開したような勢いの樹幹流が、登山道は瞬く間に踝まで水浸しになってしまった。

横に走る稲妻、行く手にかかる火柱、雷雲の真っ只中に入ってしまったのだらう。木の近くは危ないと聞くが、尾根筋の樹林のなか、避けようがない。たまりかねて道脇に姿勢を低くして屈みこんだ瞬間、目前に火柱が、同時に殴られたような衝撃を受けた。停まってもいても危ないと判断、先を急ぐ。

3人がいっしょに雷に打たれないように10分程の間隔をとり、ストックの先を地に着け引きずって歩いた。ストックを捨てたい。しかし、この山域は熊の生息地。こんな荒天では出ないと思うものの、無防備になるわけにはいかない。仕方なく引きずって歩いた。

前も後も横も間断のない火柱の連続、まさに地獄の尾根歩きである。

と言い残し山の中へ。

間もなく急ぎ足で戻って来て、「白神岳登山口は全て入山禁止に！」下りて来た登山道は土石流の発生直後だったらしい。

改めて無事の下山を白神に感謝しつつ今夜の宿、不老不死温泉へ向かった。

後日、地元紙に「深浦地区で低気圧が急に発生。登山者3人あわや大惨事に」と報じられていたことを知った。それ以来雷は、私のトラウマとなっている。(平成17年8月下旬歩く)

▲コースタイム▼略  
▲地形図▼2万5千川原平

休み無しの5時間、ようやく崩山に着く頃、薄日が差し始めた。ほっと胸を撫で下ろし、お互いに顔を見合わせ、無事を確認しあった。恐ろしい、そして長い時間だった。

天気は急速に回復、大崩からは十二湖も見え、振り返ると白神の尾根筋が青空にくっきり。気を取り直して下山にかかる。ムッ!? 道が無い。間違ったか?

いや、沢沿いの道でいいはずだ。沢はU字型に削り取られ、両側には人頭大の石が折り重なって一列に並んでいる。

周りの地形を頼りにくだること数百尺、水がヒタヒタしている空地に出た。そこはきれいな砂を敷き詰めた広場で、クッ

ションがよく歩き心地がいい。まるで、不思議な世界に入り込んだように錯覚する。

やっと前方に道を見つけ、観光客で賑わう青池登山口に出た。

疲れ果てて下山して来た姿に、役場の人が近寄って来た。

「どこからですか？」

「愛知県からです」

「他に入山者を見ましたか？」

「私達だけでした」

「無事で良かったですね」

「怖かったですよ」

「水場はどうでしたか？」

「水場? 何も見なかったですね」

彼は怪訝な顔をしている。

「様子を見て来ます」

## 比叡山1000年の道を歩く

【付】「東山」の山なみ  
竹内康之著 A5判並製 一六八〇円

比叡山の諸堂へと続く古道や峠道、千年の歴史で踏み固められたやさしい道として訪れる人達を待っています。誰でも登れる、晩秋から初冬の陽だまりハイキングに最適。

## 大峯奥駈道七十五靡

森沢義信著 A5判上製 二九四〇円

吉野から熊野まで大峰山脈を縦走して続く修験道の究極の道、「奥駈」を著者自らが探査して、靡・行所・登山道の現況を豊富な写真と地図で紹介。奥駈計画案内付。

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15

☎075-723-0111 〒606-8161



京都北山を歩く ●ミニガイド (第3回)

## エリア別徹底研究

初夏、緑したたる尾根を歩く5コース

■村田 智俊



### 初夏の山ミニガイド

京都北山の山々へ四季を通じて歩いてみませんか。

今号は緑したたる初夏の1日、自然林の稜線をゆっくりとたどってみたいコースを五つ紹介します。この中で「大見西尾根」を、村田が案内する山行例会に組み込んでいます。ガイドを読まれ、興味をもたれた方は、ぜひご参加ください。

今年は暖冬の影響で草花の成長も早く、京都北山の爽やかな初夏の新緑もさぞかし鮮やかでしょう。梅雨の明け間をぬってこれらの山へ足を運んでみましょう。

\*初夏の訪れを知る「ジャクナゲ尾根」、イワウチワやイワカガミが咲く「鎌倉山」「品谷山」への稜線などは特にお勧めです。「周山城跡から黒尾山」は、歴史を訪ねるコース。このガイド記事と参考地図を見て、お友達と連れ合って歩いてみてください。

### コース① (一般コース)

## 佐々里峠から品谷山・廃村八丁

品谷山(△880・77)は、廃村八丁の北にそびえる静かな山である。前93号では廃村八丁を積雪時のコースとして紹介したが、初夏は日も長いし新緑も美しいので、佐々里峠から品谷山に登り、廃村八丁にくだるコースを歩いてみよう。京阪出町柳駅から広河原行きの京都バス(7時50分発)に乗り、終点まで2時間佐々里峠へは広河原からオバナ谷沿いを



50分みておこう。マイカーなら京都から約1時間30分で佐々里峠まで行ける。

佐々里峠の石室の手前、西側に品谷山への道標を確認して登山道に入る。しばらくゆるやかなアップダウンの稜線をたどって行くと、前方に小高いピークが見え、急登5分でピーク上の広場に着く。こらでひと休みしよう。

左手の尾根を少し下ってゆるく登ると、右に曲がり上りつめた広いピークに道標があり、ここがダンノ峠と品谷山との分岐点である。左はダンノ峠、まっすぐ行けば品谷山への稜線である。佐々里峠からここまで50分もみておけばよい。前左右手にこんもりとしたピークを確認する。これが目指す品谷山である。後は標高差20m、ルンルンの平坦な稜線歩き、左右のブナの新緑を楽しみながら行こう。分岐ピークから20分で品谷山に到着する。バスで来た人は、ここで昼飯を食べてゆっくりしよう。

廃村八丁へは、稜線を品谷峠まで行き、品谷峠からスモ谷沿いにくだる。山頂から左手、赤布の稜線を下って行けば15分で品谷峠。昔は北の佐々里と八丁を

結ぶ必要な峠であったであろう。

いまだとって来た、佐々里峠から品谷峠間の稜線は、以前は背丈もあるほどの激やぶに苦労したが、最近はやぶもすっかり消え、容易に歩ける。

スモ谷に入ると周囲の自然林は美しいが、足元が危ないのでゆっくりくたろう。狭い谷沿いの道で、左右に何度も渡渉しながらのくだりとなる。峠から30分で杉の植林帯になり、廃村八丁に近い。集落跡に出て石垣を見たら、小川を渡渉して、昔土蔵のあった広場に到着する。あとは、前号で述べた、形部滝か四郎五郎峠からダンノ峠へ出て、菅原町のバス停にくだらう。

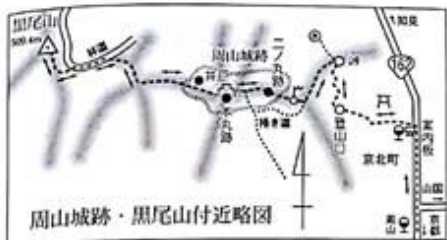
なお、このコースは、今年3月4日に当例会で歩き、好評であった。

### Aコースタイム

京阪出町柳駅(バス2時間) 広河原(50分) 佐々里峠(50分) ダンノ峠分岐ピーク(20分) 品谷山(15分) 品谷峠(30分) 廃村八丁(1時間) ダンノ峠(50分) 菅原(バス2時間) 出町柳駅  
△地図▽昭文社「京都北山」  
\*京都バス ☎075(791)2181



## コース② (一般コース) 周山城跡から黒尾山



周山の西にそびえる黒尾山(△509・4趾)へはあまり登る人はいないが、中には明智光秀が築いた周山城跡があり、行ってみると興味あるコースである。

京都駅前からJRバス周山行きに乗り、栗尾峠を越えると周山である。栗尾峠の車窓からは左に、周山城のあった城山、そして黒尾山も確認できるだろう。

周山バス停から北へ500趾ほど車道を行くと、「きょうと京北ふるさと公社」のバス停に周山城の案内板があり、ここが周山城跡への入口で

ある。左折し西に集落の中を行き、やがて林道となって、すぐ右手に登山道を見る。しばらくは杉植林の急坂をジグザグに登る。すぐに峠状の鞍部に到着し、峠からは左に尾根上の道をたどる。やがて道は二つに分かれるが、まっすぐの急登道を行こう。左に尾根を捲くように行っても城跡に行けるが、ハイカーなら直登がよいだろう。登りもわずかでテレビ中継塔のある台地に着いて展望が広がる。ここまで一気に来れば相当汗をかくのでひと休みしたい。

中継塔の台地からなおもたどるとまた急登が出て、これを登り切ると二ノ丸のあった台地にのる。ここからはゆるやかな登りで、すぐに周山城本丸跡の広場に到着する。広場の中心には、周山城の遺構を示す案内石標が設置されている。見ると、城は広くて立派であったことが想像できる。

黒尾山へは、ここから往復1時間30分もみておけば十分、ここでお弁当を広げてゆっくりしよう。ここで昼にするには、京都駅を9時過ぎのバスに乗ればよい。さて、黒尾山へ向けて出発しよう。本丸跡広場からは、なお西への稜線をたど

ることになる。広場の西端へ出て、稜線をくだって行く。くだる途中、右下に井戸跡があるので立ち寄ってみるのもよい。テープに導かれながら稜線を行く。道なりに行き、小ピークで北へ向きを変え、次の小ピークで西にたどると、林道に出る。林道をなおも西にたどると、前方に南北にのびる尾根が見える。林道は尾根を捲くように右に曲がっていくが、曲がる所にテープがあるので、まっすぐ尾根に上って行く。5分で尾根にのり、右折して灌木のなかをたどれば大岩があり、それを捲くとすぐに三角点のある黒尾山に到着する。狭くて木に囲まれて展望は無いが、奥山の深い雰囲気がある。

帰路は往路をたどろう。北の熊田、南の橋本への道もあるが、いずれも上級者向きで道も荒れている。交通も不便だ。

**Aコースタイム**  
JR京都駅(バス1時間30分) 周山(1時間) 周山城本丸跡(40分) 黒尾山(40分) 周山城本丸跡(50分) 周山(バス1時間30分) 京都駅

**△地図** 昭文社「京都北山」  
\* JRバス 2075(672) 2851

## コース③ (一般コース) シャクナゲ尾根から焼杉山



5月の声を聞くとシャクナゲの花を求めて歩きたくなる。いままでも京都北山でシャクナゲの群生が観賞できたのは、裏愛宕の竜ヶ岳芦見谷側など一部であるがこの小出石のシャクナゲ尾根は北山では一番であろう。開花する年に行けばすば

らしい花が見られる。また、焼杉山から古知谷の阿弥陀寺にも咲くという。今回は、シャクナゲを

求めてこのコースを歩いてみよう。

京都地下鉄国際会館駅から京都バスで小出石行きに乗る。約30分で到着。小出石バス停から百井への国道477号線を15分も行き、左へ橋を渡って岩尾谷の林道に入る。すぐ右に取付点の道標を見て急登をこなしてシャクナゲ尾根にのる。尾根にのってしまえばゆるやかな登りとなって、やがてぼつぼつと左右にシャクナゲの花が見られる。咲き出すのは5月の連休頃からである。なおも登って行く。と鉄塔に出て展望が開け、シャクナゲが群生となって咲いている。お弁当を広げてゆっくりしたい所だ。咲く年の見頃の時期に行けば堪能するだろう。今年はどうであろうか?

さて、尾根をつめて行くと、大原から天ヶ岳・百井方面への寂光院道との三叉路に出合う。ここは、大原方面に左折して行く。焼杉山への分岐点まではほぼ水平な道で歩きやすい。植林の切れた間から鞍馬方面の山が展望できる。

焼杉山へは、分岐点の十字路を左に上って行くが、ここで疲れの出た人はまっすぐ大原へくだっていけばよい。焼杉山への始めは掘れたような坂道だが、やが

て灌木のなかの平坦道になり、最後に急登をこなしてしばらく行けば、焼杉山(△717.6趾)の山頂だ。北に朝たどったシャクナゲ尾根、その奥には天ヶ岳、皆子山も展望できる。

古知谷へは、ここから北東へ尾根をくだって行くことになる。くだり始めてすぐに右に分岐するが、これは大原の草生へくだる道で、古知谷へはまっすぐ行く。やがて展望のよい鉄塔に出て右方向へ、高圧線下の巡視路のジグザグの急坂の下りとなる。岩場も多いのでゆっくりとくだろう。阿弥陀寺の参道に出たら、寺に立ち寄ってシャクナゲを観賞し、古知谷バス停に出る。バスの便が無ければ、旧道の敦賀街道を大原バス停まで歩こう。30分見ておけば十分である。

**Aコースタイム**  
京都地下鉄国際会館駅(バス30分) 小出石バス停(20分) シャクナゲ尾根取付点(1時間30分) 鉄塔(15分) 寂光院道出合(30分) 焼杉山分岐十字路(50分) 焼杉山(1時間10分) 古知谷バス停

**△地図** 昭文社「京都北山」  
\* 京都バス 2075(791) 2181



## コース④ (ロング一般コース) 坊村から鎌倉山・峰床山

坊村は比良山への登山基地としてよく知られているが、対面する西の鎌倉山へのコースも最近利用されるようになった。以前の鎌倉山はやぶ山で、八丁平湿原のオグロ坂峠から2時間以上もかかったらしく、熟練者しか行かなかった。しかし、いまはすっかりと切り払われて大変歩きやすくなっている。山頂付近の自然林は新緑の頃は特に美しい。



坊村へは、京都バスが京阪出町柳駅(7時45分発)、江若バスがJR堅田駅(8時45分発)から運行されている。

7時45分発から運行されている。

坊村で下車し、車道をわずかに引き返して安曇川の橋を渡って登山口に行く。尾根道コースと鎌倉谷をつめるコースがあるが、谷道は山ビルが出るので、右の尾根コースを行こう。尾根に取り付いて1時間もがんばれば、ブナ平と名付けられた広場の休養地に着く。鎌倉谷の底から急登をたどって来た道もここで合流しているが、尾根コースのほうが楽に歩ける。

ブナ平から尾根道を1時間登ると、鎌倉山(△950.5m)の山頂広場に到着する。展望は無いが、新緑の自然林に囲まれ、落ち着ける山頂だ。

いよいよ、峰床山に向かったの稜線歩きが始まる。一本道で迷うような所は無いので安心だ。ブナやモミの大木を左右に見ながら、アップダウンを繰り返しながら1時間(京都北山)の地図には2時間とある)も行くと、オグロ坂峠。

バスで来た人は、ここでお昼になる。峰床山へは尾根道を40分かれば行けるが、峰床山の最後の登りがしんどいので峠で食事してから行こう。峠から少し湿原側へくれば水場がある。

## コース⑤ (中級コース) 花背峠から滝谷山・大見西尾根

花背峠から大見西尾根の林道を滝谷山へ行き、その先の林道から左の尾根にのり、877mのピークを過って小野谷峠まで歩いてみよう。現在の昭文社「京都北山」の地図では、点線で記されているコースだが、以前の「京都北山」の地図では全く表記されていなかった。

今から15年程前、私は積雪時にこの尾根を初めて歩いてみたが、雪が締まっていて難なく通過したことがあり、その後、冬に2回ほど新ハイ例会に租んだ。アイゼンや輪カンで歩き、参加者に喜んでもらったコースでもある。



今は整備され、京都バス主催の山行ツアーの一つにもなっている。無雪期は歩いたことがないが、6月の新ハイ例会に計画するので、冬に歩いた記憶を思い出して紹介してみよう。

花背峠へは、京阪出町柳から京都バスの広河原行き(7時50分発)に乗り、約1時間後の9時には到着する。

峠から北へ大見西尾根の林道に入る。しばらく行くと、京都市街からもよく見える大きな鉄塔が右にある。平坦な林道を30分程で、右の滝谷山(△876.2m)への登り口を見る。山頂を目指して上ると三角点はすぐだ。山頂から北へ少し進み、適当に林道に下りる。

下りた林道を10分もくれば右に陸地の道を見て、すぐに道が右にカーブし、次に左へカーブする地点で左前方のピークへ登って行くのが、小野谷峠への大見西尾根への取付点である。きつと何かのテープか表示があるだろう。

林道からピークへ上り、北西にのびる尾根を伝って行くと、一つピークを越え、二つ目のピークで左右に尾根が分かれるが、右折して北に向かって行こう。左に南下する尾根道は花背山の家にくだる。

オグロ坂峠から峰床山間はよく歩かれている。やや登りが多いが、たいしたことはない。

峰床山(△970.0m)山頂からの展望はまあまあで、いつ来ても登山者が多い。周囲からいろいろなコースがあつてよく登られている証拠だ。

八丁平湿原へは、南にくだった峠からクラガリ谷に入って行く。分岐で左をとると、湿原の北側を捲いてオグロ坂峠からの道と出会い、休憩ベンチもある。

あとは、中村乗越から伊賀谷右殿コースを林道終点に下りて、林道を葛川中村へくだれば、バス停がある。

### ▲コースタイム▼

JR堅田駅(江若バス50分) 坊村バス停(1時間) ブナ平(1時間) 鎌倉山(1時間) オグロ坂峠(40分) 峰床山(30分) 八丁平湿原ベンチ(1時間) 伊賀谷林道終点(30分) 葛川中村バス停(江若バス50分) 堅田駅

▲地図▼昭文社「京都北山」

\*江若交通バス

☎077(572)0374  
\*京都バス ☎075(791)2181

北への尾根道は、すぐにピーク877mに到着する。ここでお弁当になるだろう。

このピークから小野谷峠まではほぼ一本道の尾根上をたどる。テープをたどって行けば難なく行けるだろう。冬の雪の時しか歩いていないので、周囲の様子はわからないが、きつと北山らしい雰囲気だろうと思われる。

最後に杉植林の急坂をくだれば小野谷峠である。大原大見と花背大布施を結ぶ重要な峠であったと思うが、今は登山者にしか歩かれていない静かな峠である。

峠からは小野谷に沿ってくだり、林道に出るとすぐに小野谷口バス停。バスの待ち時間があれば、車道歩き5〜6分でトイレのある農協前バス停に行ける。近くに酒店もある。

### ▲コースタイム▼

京阪出町柳駅(バス1時間) 花背峠バス停(40分) 滝谷山(50分) 877mのピーク(1時間) 小野谷峠(30分) 小野谷口バス停(バス1時間20分) 出町柳駅

▲地図▼昭文社「京都北山」  
\*京都バス ☎075(791)2181



## 登りやすくなった左門岳

奥美濃

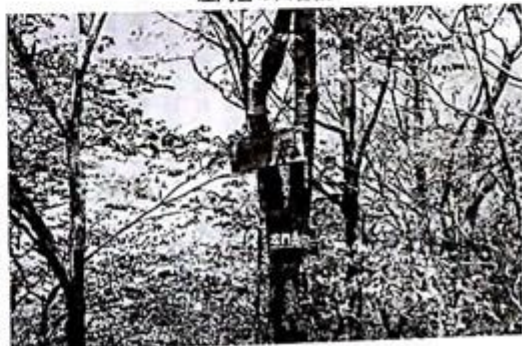
## 礮部 純

平成14年の秋から始まった山科の大兄による奥美濃・西濃の山行は、湖北の山を歩き廻る合同をめぐって、五蛇池山に始まり、天狗山、小島山・ムネ山、土倉岳、湧谷山、黒津山、岩岳、大ダワ、塔の倉と続けられた。残念なことに、私は都合がつかなくなった日も多く、全てには参加していない。

前年は大兄の都合により一時休会となっていたが、美濃の山へ思いを馳せる人々の要望により、この年になって美濃の山を新ハイの例会で採り上げることになった。第一回の新ハイ例会で登る山は、個人山行で計画したが登れなかった山、左門岳である。

左門岳は、根尾東谷川上流の上大須ダムの北の越美濃境から、根尾村と板取村の村界を500m程程南へ入った山である。この辺りには名の通った平家岳や洞の天井、急斜面の屏風山等があり、あまり高くないやぶ山の左門岳は、登山者にとって魅力のある山ではなかったと聞く。以前には、河内谷林道から斧内谷をつめて山頂付近のやぶをかき分けて登ることが多かったというが、根尾東谷に上大須ダムが出来て道路が整備されてから、根尾東谷から登る人が出てきた。さらに、左門岳山頂付近の植林事業が進み、植林道を利用して簡単に登れるようになったのは、数年前からだという(このルートの詳

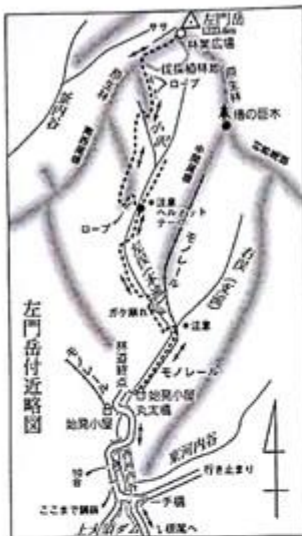
左門岳の山名板



細は本誌80号、80ページ参照)。ちなみに、左門岳の名称は下流の松田の集落から見て根尾東谷の左手に当たり、形が門に似ているからだと言っていたが、どう見ても門には見えない。

京都組の7人は山科駅へ6時25分に集まり、二台の車に分乗して名神へ乗る。降りるインターは大垣ではなく関ヶ原。根尾村方面へ向けては久しく走ったこと

がないので道がわからず、ひたすら大兄の後を追って走るしかない。関ヶ原インターを出て、岐阜関ヶ原線をしばらく走って農道に入り、何度も曲がった後、再び岐阜関ヶ原へ戻る。池田温泉の脇を通って北へ向かうと、左手には池田山が、その続きに鉄塔のある小島山が見えてきて、正面の山間には小津権現山の姿が見えている。国道417号線を北上し、昭和町を通り抜けて北の峠を越えると、西国三十三ヶ所最終霊場の谷汲山華厳寺。この門前町を東へ向かってゴチャゴチャ曲がり、やっと国道157号線へ出た。この間、前の車を見失わないように走っていたので、周りの景色は全く目に入らず、どこをどう走ったか覚えていない。帰り



9時45分、装備を整え出発。橋を渡って谷左岸の林道を上流へと歩く。右手は杉と雑木の混在する斜面だが、左手は鮮やかな緑に彩られた雑木の林。やがて谷へくだって橋を渡ると、林道終点になった。ここから谷通行が始まる。

が思いやられてならなかった。根尾川に沿って北上すると、やがて谷分岐。右に入った樽見駅前広場には、まだ8時40分だというのに、すでに参加者の大部分が集まっていた。この日の参加者は17名で、2人を除けば岩野さんの例会で見た顔の人ばかり。この日参加している鈴鹿の彼女とは、1年2ヶ月ぶりの再会で、全員が揃うまで話が尽きなかった。

丸木橋を渡るとすぐ小屋があり、そこから作業用のモノレールが上流にのびている。その側に付いている踏み跡に入ると、ヤグルマソウの葉の横にラッシュウモンカズラが見事な花を開いていた。この先、モノレールにそって踏み跡を歩いている間、シャクとラッシュウモンカズラの花が途切れることはなかった。途中に斜面が崩れていて、越えるのに苦労する所があったが、谷に入って30分も歩くと、谷分岐に着き、休憩となる。ここからモノレールは中間尾根を登っていったしま

谷を直進したくなるが、地形図を見るとその谷は急勾配で標高点1156mの左肩までのびている。岩野さんの例会へたびたび参加しているあの人が、この谷を直進して左の尾根にのり、主稜線に出て山頂へ登ったと聞くが、この日登るルートは左の谷。分岐の大岩には、左の谷に向かって左門岳の矢印が書かれている。左の谷に歩いていくと、小さな滝を捲き左斜面の道を登ると、よりしっかりした道が谷と平行に走っている。右下に谷を眺めながらしばらく進むと、崖崩れで道は切れている。何とか木や枝につかま





根尾東谷川の廻行

から崖上を越えようと、道は再び谷へ下りる。水は多くないが、岩がゴロゴロして歩いて歩きにくい。踏み跡はしばらく右岸に付いていたが、左岸に渡ると足元には相変わらずラショウモンカズラの花が続き、可愛らしい白い花を付けたワサビも目につくようになった。摘み採りたい誘惑にかられるが、ワサビを摘むのは下山時にとっておこう。左手の林の間から谷

を見て、少し登ると谷床が広くなった地点。側の木には赤いテープが巻かれており、なぜか木にヘルメットが掛けられている。このヘルメットがいつまで目印になるかわからないが、木々の間から前方をうかがうと谷分岐が見えているので、この地点が標高点8155だとわかる。ここが西の斜面の仕事道に取り付く地点である。

谷を渡り袖道（たもとみち）を登る。道をいったん引き返すように南へ向かうが、谷手前まで来ると尾根を50分も登って、その後は谷と平行に斜面を斜めに登って行く。道はしっかりと刻まれており急勾配には階段までつくられ、危険な箇所にはロープまで張ってある至れり尽くせりの道だった。道脇にはタチツボスミレが点々と花を開き、チゴユリ・ユキザサも顔を見せ始めたが、ナルコユリはまだ蕾。斜面は雑木の疎林で、木々の間から見える向かいの尾根の新緑が眩しい。左手にエンレイソウの斜面を見て、足元に咲くニシキゴロモの間に、フモトスミレのような葉をした紫のスミレの花を楽しみながら、30分も登ると尾根にのった。そこはCa1000分ビークの北にある鞍部の少し北に位

置し、西方の木の間から間近に、荒々しい屏風山の姿を見る。急勾配の尾根に付けられた道を登ると、傾斜は次第にゆるくなり、右手は若い杉の植林斜面に変わる。ここに来て初めてこの道が、この斜面の伐採、植林のためにつくられた道だとわかった。植林されてから2、3年も経っていないのか木の背丈は低く、ここからの展望は言うことなし。日の燦々と照るなか、眼下に上大須ダムを見下ろし、明神山・洞の天井を間近に見る。正面には大白木山から大屋山の連なりが横たわり、大屋山の左の鞍部から蕎麦粒山の頭がチョコンと覗いている。右手には間近に屏風山がそびえ、その左には能郷白山・冠山が霞んでい

い。いずれも大兄の解説による山の同定で、いつまで見ていると飽きない風景だが、腹もペコペコで、最後の登りを頑張ることにする。左手は雑木林が広がっていて、葉の出かけたシロモジやクロモジが黄色い花を咲かせており、タムシバ・オオカメノキの花も道脇に立ち並び、我々を迎えてくれている。京都近辺の山と比べると、だいたい季節がずれていることに驚かされる。

時期をずらせて二度も同じ名の花が楽しめるのは、嬉しいことだった。花を見ながらフウフウ言って登り、ササゲが目立つようになるとやがて山頂。山頂は平坦で細長く、北へ向かうと、最北の広場が左門岳の山頂だった。この山はやぶ山だと言われていたが、ササは刈られ、広い山頂になっている。

左門岳、標高は1223・6分、3等三角点の点名も「左門岳」。標石は欠けた所も無く、きれいなままである。標石は南を向いているが、15度西へ振っている。側の木には古ぼけた左門岳の山名標識と、真新しい山名標識が下がっているが、この山には古ぼけた標識のほうが似合っている。

ビークの北に行くと、林の間から雪を被った白山の雄大な姿や、遠くに荒島岳も見える。三角点から西南にある林は開かれ、間近に屏風山、その奥に姥ヶ岳、左奥に能郷白山、頭が尖っている冠山も見ることができた。大兄の説明でその位置を頭に刻み込んだ後、食事にとりかか

言えずうまい。そのうえ、こんな所で四日市の彼の恒例のドリッパコーヒーがいただけるとは、言うことなし。13時5分、下山にかかる。何か春の便りを持って帰ろうと、下山間際に山頂に生えていたネマガリダケの筍を探して採ったが、家の筍を食べ過ぎて、胃を悪くした鈴鹿の彼女は見向きもしない。彼女と話をしながらくっついて行ったのはよかったが、せっかく帰りに採ろうと思っていたコシアブラの若芽は見逃してしまった。大兄は「下山はユックリくだる」と言っていたのにビッチは予想以上に速く、25分で尾根を離れる地点までくだり、35分で谷まで下りてしまった。それでも途中、花を見たりして立ち止まっていたので、大兄にとってはユックリくだったつもりなのだろう。

そこからは、あたりを見渡しワサビの葉を摘みながらくだった。登りに目についたワサビも、下りになると目の位置が変わるからか、わからなくなってしまう。女の人達も、この時ばかりは主婦に戻って道脇にあるフキやワサビ、アザミの新芽を摘みながらくだって行く。登りで見なかったハシリドコロの花やヤマシャク

の花を見つけて歓声を上げる姿は、年を忘れ子供に戻ったようにも見える。30分で谷分岐までくだったが、今度はそこにあったサンショの葉摘みで彼女達は進もうとしない。そのため、やむを得ずリダーは「休憩！」と号令をかけた。10分も休憩してから出発。車へ戻ったのは15時15分。ダムサイトの休憩所まで走り、ここで解散となった。京都組の7人は帰路、谷汲「満願の湯」で汗を流して帰途についた。

左門岳はどの案内書にも上級の山と紹介してあるが、ルートさえ間違えずにこの袖道を登れば、山に親しんで間もない人でも、十分に楽しめる山に変わった」と言っている。ただ、この袖道がいつまで残っているかはわからない。

(平成17年5月14日歩く)

△コースタイム▽

樽見駅(車30分) 上大須ダム奥広場(30分) 谷二股(40分) 標高点8155分(30分) 尾根(40分) 左門岳(1時間) 標高点8155分(1時間10分) 上大須ダム奥広場(車30分) 樽見駅



近江八幡を訪ねて

松永恵一

近江商人

天正十三年(1585)、豊臣秀吉の甥の秀次は八幡山頂に城を築いた。織田信長を失った安土の人々を移し、自由商業都市としての発展を目指した城下町を開いた。秀次はわずか5年でこの地を去るが、楽市楽座のもと、活発に活動を続けた商人たちは、天秤棒を肩に全国に活動を広げる。江戸にもいち早く店を出し、北は北海道から南ははるか安南やシヤム(ベトナムやタイ)まで進出した。

彼らは買い手よし、売り手よし、世間よし、という三方よしの理念を商売の基本とし、売り手と買い手の双方だけの合意ではなく、社会的に正当な商いや行商先での経済的貢献を求めていた。巧妙な

計算や企てを良しとせず、世の中の過不足を補い、需要と供給を調整することを本務とした。伊藤忠兵衛(伊藤忠商事・丸紅)は「利真於勤」(りはつとむる)においてしんなりを座右の銘とした。投機商売、不当競争、買占め、売り惜しみなどによる荒稼ぎや山師商売や政治権力との結託による暴利ではなく、本来の商活動に励むのが勤めで、その預託として得られるのが利益としている。

彼らの生き方を支えたのは郷村共同体の存在と鎮守の社への篤い信仰であった。塚本定次・正次兄弟(ツカモト)は、大規模な植林工事を行い治水・治山の父とも呼ばれ、偉大な商人と勝海舟は「米川清話」に記している。数年前に解体か保

新町通り



存かで話題になった豊郷小学校。昭和十二年(1937)に建てられ、東洋一の教育の殿堂といわれた。設計はウィリアム・メレル・ヴォーリズ、施工は竹中工務店。費用は約60万円。昭和初期の大坂城天守閣の再建費用は約50万円という。郷土出身で丸紅商店(丸紅)専務の古川鉄治郎氏が全額を寄付した。

八幡堀

豊臣秀次は綾十二筋・横四筋(二部六筋)という整然とした碁盤状の町並を整備した。緒役免除、楽市楽座を定め、湖上交通に着眼し、内堀を兼ねて開削した八幡堀の両端を琵琶湖とつながり運河とし、湖上を往来する全ての船に八幡の町に立ち寄るように定め、水上交通の基盤をつくった。城が無くなった後も、堀は商人の物流拠点として、帆を立てた商船が往來し熱気に満ちあふれていた。

時代は変わり、役目を終えた運河は荒れ果て埋め立てられようとしていた。しかし、地元有志の保存運動で、かつての運河風景を取り戻し、今では情緒に魅せられ多くの人が訪れる町の代表的な観光名所になった。堀沿いの土蔵・倉庫群、南に向かって碁盤目に整理された通りの両側に立ち並ぶ商人屋敷。うだつに格子窓、焼き板扉越しに見越しの松。

昔日の面影を残す八幡堀周辺は、時代劇の情景に使われることが多い。「江戸の水辺」は、かわらミュージアム下の船橋から新町浜にかけての区間。船橋は船の上に渡された浮橋。白雲橋、明治橋が架かり、堀端に風情豊かな家並が続く。

左義長まつり・八幡まつり

ハァー弥生平はの左義長祭

ヨイヨイ山車が練りだす。賑やかに湖国に春を呼ぶ左義長まつり(3月中旬の土・日)。安土城下で正月に行なわれたもの。信長自ら黒の雨笠に描き眉、赤色の礼服に唐錦のそばつき・虎皮のむかばきといった出立ちと「信長公記」は伝える。ワラで編んだ三角雉の松明の上に細長い赤紙や薬玉、巾着、扇などで飾った各町自慢の左義長が行き交う。干支飾りも華やかな左義長が激しくぶつかり互いの力を競う。威勢のいい若衆の掛け声と観客の声援、呼子笛の音が響き渡る。日曜夜、奉火。馬場は一面火の海と化する。

八幡まつり(4月14・15日)は、千数百年の歴史を誇る日牟禮八幡宮の祭礼。松明祭ともいわれる宵宮。10層もの大松明を始め、大小30本の松明が境内に立てられ、仕掛け花火と共に勇壮な火の柱をつくる。翌15日は、各町内の氏が自慢の大太鼓をかついで境内に参集する太鼓祭。

世代を越えて受け継がれてきた祭り。人々の心を沸かしたせ、今と古の時間を結び、夜空に燃え上がっていく。

ウィリアム・メレル・ヴォーリズ

日本名「柳米来留」(1880~1964)は、明治三八年(1905)キリストの宣教をこころざして来日し、英語教師として滋賀県商業学校(現滋賀県立八幡商業高等学校)に赴任した。その後、建築家として「建築物の品格は、人間の人格の如く、その外観よりもむしろ内容にある」との考えで手がけた建築物は、近江八幡YMC A会館を手始めに大丸大阪心斎橋店・関西学院大学、神戸女学院大学など、全国に教会・学校・病院・住宅・商業施設など約1600件にも及ぶ。

また、メンソレータム(現メンタム)の製薬会社近江兄弟社を設立。結核療養所(現ヴォーリス記念病院)の建設、幼稚園から高等学校までの近江兄弟社学園や図書館の設立、出版活動などの社会貢献活動に取り組んだ。近江兄弟社学園には、昭和十二年5月にヘレン・ケラー女史が来校して講演を行っている。

昭和十六年(1941)日本国籍を取得。「米来留」が彼の気持ちを表している。「八幡は世界の中心」と言い、近江八幡の町を愛し続けたヴォーリズに、名誉市民第一号、勲三等瑞宝章が贈られている。





新町通りを進み、交差する通りを左に少し行くとでっし羊羹の「和たす」。素朴な竹の皮に包んだ蒸し羊羹。新町通りをしばらく行くと丁字麩の「麩の古井」がある。丁字麩は、甚盤の目のように区切られた町並をまわって、麩を角形にしたという。すぐに八幡堀に出る。新町浜と呼ばれ荷揚げ場として用いられた。

五郎邸は「ふとんの西川」の祖。白雲橋で上がる。日牟禮八幡宮の鳥居。道路を挟んで向かいに擬洋風建造物の白雲館が建つ。明治十年に八幡東学校として建築された。観光案内所が設けられている。「たねや日牟禮レレッジ」のヴォーリス建築でお茶を飲むのも楽しい。

古くから信仰を集める日牟禮八幡宮。古木が生い茂る境内にどっしりとした楼門や拝殿、本殿が静かにたたずんでいる。八幡山ロープウェイで山頂へ約4分。大パノラマが広がる。八幡山(2883.8m)は、豊臣秀次が築いた八幡城跡で、本丸跡に秀次の菩提を弔う村雲瑞龍寺が京都から移築されている。

山麓に戻り、「たねや日牟禮の舎」の脇の細い道を進むとかわらミュージアムに着く。八幡瓦の魅力伝える博物館で、互作りの体験工房もある。八幡堀を渡り、しばらく進むとあきんど里。近江兄弟社学園の前を通り鍛冶屋町のバス停の辻を左に曲がるとヴォーリス記念館。生前に生活していた住宅で、遺品や資料を展示している。見学は無料だが予約が必要。西に二筋行くと古い落ち着いた家並が続く永原町通りに入る。虫籠窓や防火壁



八幡堀

JR東海道本線(琵琶湖線)近江八幡駅下車。北口に出る。観光案内所でガイドマップをもらう。駅から旧城下町へまっすぐのびるぶーめらん通りを進む。広い官庁通りにさしかかる。右に入るとかつて近江商人の土官学校と呼ばれた八幡商業高校がある。ヴォーリスが来日して英語教師として赴任したのがこの学校である。ヴォーリスの設計で竣工した本館が改修されて使われている。

門の前を通り、年季の入った京街道アーケード街に入る。信号を渡るとあきんど里公園。市営小幡駐車場、公衆トイレがある。新町通りと交差する辻の右手に旧伴家住宅がある。伴庄右衛門家は江戸・大坂に店舗をもち蚊帳・畳表を高い屋号を扇屋という。五代目の伴高次郎は国学者、歌人として名高く「近世奇人伝」などを残している。文政十年(1827)より10数年をかけて建築した建物は、小学校・役場・図書館に使用されてきた。

向かい合って郷土資料館が建つ。旧近江八幡警察署、考古資料を展示する。安南(ベトナム)で商いに取り組み、鎖国のため安南の地で没した西村太郎右衛門の宅地跡。日牟禮八幡宮へ奉納した絵馬「安南渡海船額」。国の重要文化財に指定されている。歴史民俗資料館は、近江商人の帳場風景を再現している。

コース概観  
豊臣秀次が理想的なまちづくりを目指した近江八幡。自由商業都市としての機能を充実させると共に、住民のライフラインである上下水道を充足させた。天秤桿を肩に全国的に活躍した近江商人のふる里。あきんど達の暮らしがうかがえる堅牢な住宅や土蔵、八幡堀の八幡伝統的建造物群保存地区。近江八幡を愛したヴォーリスに会いたくて出かけてみた。

煉瓦崩沿いに左に曲がり次の辻を右に曲がると本願寺八幡別院。豊臣秀次が八幡城下町を開いた時に安土から移築した大寺院。徳川家康が上洛の際に宿泊したほか、朝鮮通信使の昼食所ともなった。本堂・鐘楼・表門・裏門は県指定文化財。

旧西川家住宅(国・重要文化財)。西川利右衛門家は近江八幡の御三家の一つで、屋号を大字屋と称して蚊帳や畳表を商い、江戸、大坂、京都に店を構えた。宝永三年(1706)に建てられた主屋や通りに軒出た見越しの松を備えた前栽、往時の隆盛をしのばせる。

として設けられたうだつ(卯建)などを楽しみながら歩く。永原町通りを進み上筋商店街の通りとのT字路を左に曲がると、ポグレス・アートギャラリーNOMAがある。障害のある人の表現活動の紹介をしている。上筋商店街の通りと魚屋町通りの辻を左に見ると八幡商業高校が見える。小幡上筋の交差点までまっすぐ進み左折し、近江八幡駅へ向かう。

▲コースタイム▼  
JR近江八幡駅(25分)池田町洋風住宅街(3分)本願寺八幡別院(7分)新町通り(2分)八幡堀・白雲館・日牟礼八幡宮・八幡山ロープウェイ(5分)かわらミュージアム(5分)ヴォーリス記念館(3分)永原町通り(25分)近江八幡駅  
▲地形図▼2万5千1:1近江八幡  
▲費用▼  
近江八幡市立資料館4館共通券500円  
八幡山ロープウェイ 往復700円  
(問い合わせ先)  
近江八幡市立資料館  
☎0748(32)7048  
白雲館 ☎0748(32)6181  
日牟禮八幡宮 ☎0748(32)3151

— 63 —

— 62 —



〈山のレポート〉  
山の地名を歩く⑧  
「吾妻山」  
西尾 寿一

「吾妻」の名を冠する山は、東北地方以南のほぼ全国に分布している。今回は、その代表格である福島・山形県境の吾妻山(2024m)に焦点を当てる。一般的に「アツマ」が東国を意味すると考えられているのに、なぜ西国にも同名の山が存在するの不思議とするが、それは大変重要なことなので記憶に留めておいてほしい。後にこの謎に挑戦してみたいのだが、まず先に「吾妻山」の地名由来を先学諸氏がどのように解釈したか、について分析してみたい。

まず代表的なものに「日本百名山」の深田久弥氏の説をあげたい。氏は「吾妻山の名の起こりは東吾妻からだろう」とし、現在の一切経山がそれに該当し、「東屋」の屋根形からきたものと考えられた。その北にある家形山などの存在は、

その説を補強するものとみて「上信国境にも四阿山(一名吾妻山ともいう)があって、それは東征の日本武尊が弟橘姫をしのんで『吾妻はや』と歌かれた故事に基づくと伝えられる。同じ言い伝えがこちらの吾妻山にもあるがそれは附会であって、やはり東屋からきたとみる方が適切である」とされ迷いが無い。

山名研究者として知られる谷有二氏も「富士山はなぜフジサンか」などで、ほぼ同様の見解を述べておられる。「山の形が、四阿造りの屋根に似ているので『家形山』の名前が出た。どうやらアツマ山の名称は、山麓から見えて一番目に付いた四阿が全山域の呼び名に広められた」とするのである。

先学諸氏の意見はいずれも山の形状が、「東屋」と呼ばれる、現代の公園に休所として必ず設けられている寄棟、または入母屋造りの構造をもつ、壁無しの小屋の屋根形に似ている。と判断されているようだ。

山の形が他の何かに似ていると考えるのは、山名由来の調査における常識的な例で、当たり外れの少ないものだ。だが、この説は「東屋」の出自にふれていない

のと、吾妻山の名が一切経山でなく、山脈の中央部に付されている意味を軽く扱って「吾妻山」の存在を域小化してしまっている。

「吾妻」という表現が、東屋といわれるような怪いものではけっしてない。山名解題といえども日本史との関連を無視できない。が、一応この説をA説とする。次に深田氏が附会であると一蹴された東歌などの古歌から山名が発生したとする意見も根強いものがある。一概に否定できないと思う。

先の「吾妻はや」は上信国境の四阿山に深く影響していることは言うまでもないが、特に万葉集第十八巻四〇九七の「すめろきの 御代さかえむと あづまなる みちのく山に 金花さく」などとなる。全く現代の吾妻山連山を指しているかに聞える。

また、岩手の早池峰山も鎌倉時代以前には「あずまねだけ」と呼ばれていたとの説もあって、この説もあなどり難い強力な説得力をもち続けている。

「みちのく」の概念は、時代と共に大和近辺から次第に北上したと考えられることからみて、古歌・古文獻の記述を流

唐無稽であると片付けるわけにいかない。むしろ多くのヒントがかくされているとみるべきである。

古文獻を尊重するのを仮にB説とおきたい。

吾妻山の由来諸説には唐突なものもあるが、それは除外してもよいとして、大概先出の二説が有力であり世間の信任を得ていると思うのだが、それをそのまま認めてしまつては小生の出番は無いので、第三の説をひねり出してみたい。

〈アツマとは何か〉

さて先にあげた諸説には根本的な混乱がみられるのである。まず第一にあげるべきは、「吾妻」と「東」を端から同一視している点である。

吾妻はアツマであり、東はヒガシであり、その源は「ヒムカシ」であり、アツマとは全く別のものなのである。それがなぜ両者に「アツマ」が与えられたのかは謎であるが、その解答は、やはり万葉集などの古歌にかくされていた。

先に万葉集の十八巻を例にあげ東北地方のアツマを取り上げたが、万葉集の第二巻一九九になると「鶏が鳴く 吾妻の

國の御軍士を……」とあるが、この場合の吾妻の國とは、伊勢・尾張・美濃なのである。その他の文獻や歌にも、信濃・遠江・陸奥などが出てくるから、「吾妻の國」とは一定の地域の名称ではなく、大和の中央政權から見て辺境の國々であったとみるべきである。中央権力が拡大するにつれて「アツマ」も遠くへ拡散していくことになる。

先にあげた万葉集第二巻の歌は人麻呂が壬申の乱のときのことを述べたのに対し、「常陸國土記」には「古は相模國足柄岳より東の諸國すべて吾妻の國といふ」とあって、「吾妻」の國は東へ東へ展開してゆく様子がよくわかる。

おそらく古代社会にあって西日本の辺境にも「アツマ」があり、それが山名になって残存したと考えられる。日本武尊の東征や西征は中央政權に従わぬ蝦夷や熊襲を平定する作業が相当困難であった事実を表明したものであり、それは蝦夷平定が平安時代まで続いたことによっても証明される。

そして防人が主として東国から調達され、西へ向かったときの歌が万葉集におびただしく出てくる。東国に残した妻子

のことを案じて歌に託す兵士の心情が、「吾妻」や「吾妻」といずれも「アツマ」と表現された。

先の人麻呂の歌の「鶏が鳴く」の原文は「鶏之鳴 吾妻乃國」であって、すでに吾妻の國は成立しているのだが、その区界は明確でない。強いて言えば、防人の出身が時代と共に変化したのと同調するかのよう、東へ移動し続けていたと感ずるのである。

防人の望郷の歌が吾妻の原意であるとすることも単純ではあるが、有力な見解の一つだ。

アツマは他に安曇氏との関係とか「播磨風土記」の景行天皇の妻問いと関係論する説もあるが、吾妻の日本武尊や防人との関係であれば、いかにも線の細い論拠であると思う。

〈地名が先か、伝説が先か〉

古代史の著書が多い古田武彦氏は「倭人伝を徹底して読む」のなかで、まず「あずまはや」などの日本武尊伝説より先に地名があつて、後から伝説その他の文獻が出来るのであり、「吾妻」は関東の地名である。と断定されているのだが、



先にもたように吾妻に対応する地域が、美濃・伊勢・東海地方以東に広く分布している状況を考えると、信じ難いものがある。吾妻なる地名が、関東の特に足柄や碓日坂(碓氷峠)の付近に限られるのならそれも一理あるが、そうではない。

日本武尊が偉いから、地元がおそれて地名に採用するのではなく、原因はどうであれ、「吾妻」の名が誇れる名譽ある名であったとしたら、その資格が少しでもある地方なら争って自らの土地に採用することはあり得る。

弘法大師が行ったこともない土地に「大師堂」があったり、修行場が伝承されていたりするのは好例と言える。従って伝説などから地名が発生するのは普通のものなのである。

厄介なことに吾妻の資格地が広範囲に分布していることで、この地名の追求者達は肩すかしをくってしまっているのが現状である。

「アヅマ」とはどんな由来をもつ語なのかを考えてみなければならぬ。

#### 「アヅマ」の語源説

古語辞典を開いてみると「あづま」で

る「東屋・四阿・阿舎」はどこからきたのだろうか。その答えは、やはり防人に求めることができる。

東国の家屋の形式は中央から見て、いかにも簡素であった。防人の用いる兵舎もそうした形式と簡便さをもつものだけに違いない。その形式をもつものが「東屋」であり、のちの四本柱で壁の無いアヅマヤに転じたのではなからうか。大和から見て東方に住む人々全てがアヅマ人であり、東人と同義であったとしたら「吾妻」は単に特定の地域名に限定されるべき名称ではない。おそらく東海から北関東にいたる一帯と、一部東北の平泉以南の地方を含む広大な地域にその資格が与えられる。

東北六県は、現代では福島県を含めているが、実感として福島の中通り・浜通りあたりは北関東の連続した地域としてとらえられる。すると吾妻連峰はいかにも巨大な障壁である。

従って吾妻山は特定の峰でなく、2000m前後する長大な山脈に求められるべき名称であると考えたほうが理にかなっている。

A説の東屋の形状説、つまり屋根の形

は、「東国は文化的に後進地域なので畿内から侮蔑される傾向があり……」とあり、古代の「あづま」は前出の広域で特定の地域ではない。

そこで「つま」を引くと、「端・爪・椽」などの他に類似語がたくさん出てくる。

爪は元はツマで椽は着物の端をツマというから、全て「ツマ」は物事の端を意味している。そうするとおそらく、地名のアヅマ・サツマは地域の「端」を意味するのではないか。

古代史の西郷信綱氏は「アヅマ」の「ツマ」は端であると言われ、「アヅマ」と「サツマ」は東西にあった二つの辺境に他ならないので、日本武尊は西に走り東に走る破目になった。

それは文献の成立した時代の話であり、決して遠い過去の伝説などではなかった。と言われている。

つまりアヅマ・サツマの「ツマ」は端を意味し辺境と言ってよいのである。辺境は移動するのが道理、今日でも秘境はほとんど険地の端へ追いやられ、ついには消滅してゆく運命にある通りだ。吾妻山の分布状況を見ると、その時代

と似ていると言うのは、一般的にはどの山にも当てはまるので、欠点の無い便利な説であるが決定力はない。おそらく形状説で解ける山もある(特に上信の四阿山に違いないが、ここに採り上げる吾妻連峰は、長大な連峰そのものが対象とされたに違いない。なぜなら「アヅマ」は特定の物体である東屋ではなく、広大な地域名であり、大和勢力が使った辺境の一般名称であったからである。ここは「東屋」という孫より、原因たる親の「アヅマ」に光を当てるべきものと考ええる。吾妻と東屋とは風格が違えばかりでなく、その地名がもっている容量や風土性が桁違いなのだ。つまり段違いの存在感である。

あの長大にして複雑な吾妻連峰のごく一部の峰をもって、それも東屋の屋根形と似ている程度のごとく巨大な吾妻山が語られることは、吾妻山の風土と地元民にとっても不幸なことである。

次に「東歌」によるとする説であるが、これは一定の評価はできる。特に万葉集の巻一八四〇九七(先に取り上げている)は、吾妻山そのものを語っているかに見

の辺境であった地域が含まれるが、日本武尊伝説から導入された可能性のあるものが幾つかみられる。それらは比較的新しい時代のものである。例えば広島県の吾妻山などは、比婆山が「古事記」に登場することで連鎖的に語られたのではあるまいか。

大和を中心として東西にあった「アヅマ」のうち卑人(熊襲)が早く帰順したことだから、アヅマはもっぱら東方のことになった。

東国は、つまり「アヅマ」と同義化するのだ。

初め中央から辺境の意としてさげすまれた名称が、次第に名譽ある地位に登りつめていった。その最大の功績は黙々と西へ旅立って行った防人であったはずである。

彼等の歌が「東歌」となり、ことに吾妻と東が合流する過程を垣間みることが出来る。時代は新しいが、鎌倉時代の「東鑑」などはそうした習わしの継続した例である。

#### 「東屋とは何か」

それでは山名の理由となったといわれ

受けられるが、本来の「アヅマ」はもつと奥の深いものと考えられるから、古歌ひとつで判断するのは危険である。やはり先に述べた通り、大和政権が強大に成長するにつれ、「アヅマ」という土地が東へ東へと移動していった。そして「アヅマ」から大量の防人を集め九州へ送った、とする歴史的事実から発するものと考えた。防人達は残してきた妻子を愛惜をこめて語ると同時に、郷里の風土をも活写してくれている。それが「東歌」の中核を形成するものであることは疑う余地のないものだろう。

日本の古代史に密接につながる「アヅマ」を冠した山名を軽く扱うことがあってはならないと思う。

#### 「結語にならない結語」

吾妻山に関するA B両説を否定しておきながら、決定的な証拠を見つけないに至らなかったが、一連の流れは理解してもらえるのではないかとと思う。

吾妻連峰は米沢と会津を区界する東西に走る巨大な壁であるが、西に飯豊につながり、東は粟子山から蔵王へつながる、米沢をぐるりと取り囲む障壁でもある。



その山容は一見平凡に見えるが、深い溪谷と温泉をもつ変化のある山域である。中でも中津川溪谷と松川は秀逸である。小生がこの山域に初めて入ったのは晩秋の主脈縦走だった。郡山岳会の泉田氏(故人)に白布峠まで送ってもらい、1日で吾妻小富士まで縦走したが誰にも会わず山は静かだった。

二度目は高山・東吾妻山など衛星峰であり、三度目は玉庭から飯森山(残雪期)だった。中津川溪谷を真剣にねらったこともあったが、実現できずに年輪を重ねてしまった。

最近になってバイクで米沢から会津へ米沢街道を越えたが、大峠は通行止めで新しく長大なトンネルがつくられていた。トンネルの両方の出口に道の駅も出来てすっかり現代風になった吾妻山であるが、まだまだ山に人の姿は少ない。もう中津川の通行は無理だと思うが、豊富な秘湯を訪ね歩くのも楽しみにしておくことにしよう。

吾妻という日本古代史につながる大きな名称を意識して吾妻山を登れば、そこには全く違った吾妻山が存在するはずである。

てきたが、現在では大峰山の山上ヶ岳のみが女人禁制を敷く山として知られている。

村田代表は、「近畿の百名山」の例会で女性の参加者共に女人結界門を踏み越え、入山を押しとどめようとする役人と論争し、全員山上に立ったという。私は頼もしくこの話をうかがっていたが、これは抗議デモの行動だと思った。もし私に財力があれば、駕籠やを雇い、京都の芸子を10人ばかりこの駕籠に乗せ、一行を引き連れて山上で月見の宴を繰り広げ、酒を酌み交わしたいわ、と思うのだ。女人禁制の存続をめぐり、現在議論が沸騰しているなか、抗議デモの行動を起こす団体が無いのは寂しい気もするが、これはやはり、さわらぬ神にたたりなし、なのだろうか。

一里野温泉からスーパール林道に向かい、しばらくで右に分ける岩間温泉へ行く道(入口のゲートは夜間19時まで閉まる)に入り、約1・5km先の尾根取付点に「松新宮参道」登山口がある。旧道は右手のハライ谷から入るが、今は堰堤が出来て尾根筋に道が付け替えられている。

## 〈山のレポート〉 白山の山形

昭文社の山と高原地図「白山」を広げると、砂防新道・観光新道・エコーライン・北縦走路・楽々新道など、現代風の登山道がある中で、一里野温泉からの登山道は加賀禪定道と古めかしい名前だ。砂防新道は、下の谷で長期にわたり大がかりな砂防工事が繰り広げられ、今も林道を走るグンブには気をつけなさいよと言ふ意味合いなのか、他も同様読んで字のごとしである。禪定道とはいかなる道なのか、登ってみることにした。

加賀禪定道は鶴来町の白山本宮(白山比咩神社)から中宮、尾添を経て四塚山に登り、山頂に至る登拝道である。一里野から室堂まで18kmもあり、岩間道や白峰側の登山道の整備によって、禪定道を歩く登山者は少なくなり、昭和9年の洪水によって道も崩れ、次第に廃れていった。後にハライ谷を挟む両尾根に「加賀

この道は伝説が色濃く残る道で、いわゆる因縁付きの地名が多い。ハライ谷は「破谷」で白山を開山した秦澄大師が沐浴して身を清めた所であり、登拝者も身を清めたという。山麓に融ノ婆という強欲な老女がいた。飲み屋を営み、ひと儲けをしたので山上で酒を売ったら儲かるだろうと、美女を連れ酒を入れた瓶を持ち白山に登った。途中神の怒りに触れた所が「シカリ場」で、「瓶之平」はそこで休憩し瓶を置いた所。連れてきた美女の酌婦が神の怒りにより岩にされた所が白山随一の険路とされる「美女坂」。酒を入れた瓶を落として割れた所が「瓶割坂」。老女は恐ろしくなり下山しようとしたが霧に道を失い、眠り込んで石と化した。これが「姥坂の姥石」だ。老女と美女の行く末が目に見えてくるように次々と出てくる。

白山はまた高山植物の多いことでも知られ、ハクサンと名の付く花が18種あり、ミヤマ・タカネに次いで多い。山の名を冠せた種はタテヤマが約半数、キタダケはキタダゲソウほか4種、ハクサンが断トツに多い。さらにオヤマリンドウのオ

新道」と「松新宮参道」が田尾口村により開設されたことにより、四塚山までの区間も白山国立公園の登山道として整備され、昭和62年半世紀ぶりにこの道が復活したのである。

白山比咩神社に伝わる「白山記」は平安時代末期に完成した加賀馬場の縁起書である。この書に「山頂を禪定と名け」とあり、「天長九年に三方の馬場を開く、三方の馬場から御山に参詣する……」とある。馬場とは馬を留め置きする所で、すなわち千二百年も前に白山信仰の拠点を超前、加賀、美濃にあり、そこから山頂への道、禪定道が開かれたことになる。

また、白山はかつては女人禁制の山でもあった。女人禁制の成立要因は、月経や出産に伴う出血を穢れとし、女性は罪深いもので成仏出来ぬという穢れ観から、清浄な山岳や寺院への出入りや特定の神事には女性を参加させないという慣行であり、男尊女卑の一方的に押し付けられた規制であり、男尊女卑の名残であると、しばしば批判の対象となっている。

明治5年に明治政府により解除の公布が出るまで、女人禁制は各所で維持され

ヤマは白山の御山で、ゴゼンタチバナのゴゼンは白山の御前峰、カライトウの学名は *Sanguisorba hakusanensis* *Makino* y. *Hakusanensis* は「白山」を意味する。石川県の「郷土の花」であり白山国立公園のシンボルマークに採用されているクロユリは、他の花のような華やかさはないが人気の花だ、他の花のようにかぐわしい香もなく、むしろ悪臭に近い匂いがする。この花に吸蜜するのは唯一蝶だけで、室堂施設の衛生状態を見に来た保健所の職員が「蝶を根絶するように」と言っていたらどうだか、蝶がいなくなればクロユリの生息も危ぶまれるのではなからうか。このクロユリやハイマツなど、100種以上の高山植物が白山を日本の西限としている。

白山はこのように花の多い山であることから女性に人気が高く、近年では女性の登山者が男性を上回っているという。かつての女人禁制の山が女性のにぎわいをもせているという登山史の流れの中で、関西のある山はいつまで女性蔑視を続けるのであろうか。



特選コースガイド 京丹波

(里山シリーズ39 瑞穂・和知境)

静かなササの尾根縦走

砥石山から三峠山へ

一般コース(★★★)

長宗 清司

JR山陰線下山駅で下車。駅前通りに出て左を見ると、木立の向こうに「質美富士」とも呼ばれている端正な山容が望める。この山が最初に登る砥石山である。昔は、日照山と言ったが、近年まで山腹で砥石を採掘した関係から砥石山が通り名になった。

北へ、踏み切りを横切り道なりにくだって、右に蟻子神社の赤い鳥居と高いJRの鉄橋を見ながら質美川にかかる橋を渡る。再び小高い所を越え、やがて北久保のバス停に着く。左の草付きの古道に入る。すぐに林道(日照線)に出会う。しばらくこの林道を歩むとやがて道が二股になる。右のゆるやかな登り道を行く。



552と越え、最後の539はピークに登らず左の腹を捲いて、再びササ原を分けて進むと、右下に林道を見つける。三峠山へは、このままササを分けてもいいが、三角点へは、この林道を利用することを勧めます。10分程行くと左に入る袖道を見つければ、元の方へ高みに向かう。2等三角点(667.8m)標石は杉林のなかにあり、山頂は展望がきかない。

三峠山という山名の由来は、西へのびるこの尾根上に、草尾、七谷、大塚の三つの峠があり、東の端の最高峰のピークを三峠山と名付けたようである。

三峠山と名付けたようである。三角点のある地点から、同じ道を引き返す。林道を、今回は東北方向のJR安柄里駅に向かってくだる。途中、左側に広場がある所から100mほど先の地点で、左を十分注意してほしい。林道が出来るまでは利用されていた山道の入口を探し、ここからくだる。よく踏まれた昔からの袖道は、始めはつづら折りにくだるが、無理がなくて歩きよい。やがて、二股に出る。どちらでも集落に出るが、右の道のほうが里に下りてから駅に近い。ただ、どちらをくくっても谷筋の苔むした粘土質の道で、雨水も走るので滑りやすく、十分に気をつけてくだらう。

杉の植林帯の途中で林道は行き止りになるが、このまままっすぐ袖道に入り、目印の大岩から左の枝尾根に取り付く。昔は、砥石の原石をモッコで担いで人が上り下りした道らしく、踏み跡や土留めの横杭が残っている。採石場の跡地に出た。トロッコのレールが30mほど坑口から石捨て場まで残っている。坑道は入口が閉鎖されていた。登山道は、坑道の右から急登して支尾根に出る。尾根はやがてやせ尾根の形状となり岩盤が地表に出て、一度だけ岩登りを強いられるが、注意して攀ればさほど危険ではない。このあたりから眺める下界の景色はすばらしい(このコースで唯一の展望台である)。しばらく灌木帯を急登して砥石山(535.9m)の山頂に着く。展望は良くない。踏み跡程度の道はいきなりくんだり、片側がえぐれた絶壁の尾根の鞍部を抜けば、次のピークに取り付く。ここからはゆったりと幅のある尾根が続く。やがてササが尾根全体を覆い始め、このあといくつものピークを越えてササが続くが、小鞍部にくくるとしばらくは消え、上り出すとまた現れるという、不思議な現象に出

難境状で美しい、ゆったりした郷である安柄里集落を抜けて、駅に向かう。

(マツタケのシーズンに入山禁止になる。全行程案外時間をくうので日照時間の少ない季節は気をつけてほしい。その場合距離は長くなるが、林道をくだるのが無難である。)

(平成16年7月31日歩く)  
(平成16年11月26日歩く)

コースタイム  
JR下山駅(20分)北久保バス停前(25分)林道終点(20分)

ササの縦走尾根(砥石山から三峠山へ)



合う。ササ丈は、腰から胸下までで見通しもきき、尾根の両サイドを確かめながら歩けるので迷うことはない。ただ、広い中木帯では方向が見分けにくいので、510地点などはコンパスをフルに活用して、吊り尾根や次の縦走尾根を見つけて。

ササの茂るピークを次々と、485、

採石場跡(10分)支尾根(20分)岩場(20分)砥石山(15分)P510(30分)P485(30分)P552(50分)林道(20分)三峠山(10分)林道(20分)旧山道入口(30分)分岐点(30分)安柄里集落(15分)JR安柄里駅  
△地形図V2万5千 胡麻・菟原・和知(問い合わせ先)  
京丹波町商工振興課 0771(86) 0200  
京丹波町瑞穂地区観光協会 0771(86) 0003

観光バスなら 確実第一の 太陽観光開発(株)へ!!  
・小型(20人・24人)  
・中型(28人乗り)  
・中2階(45人乗り)  
・大型(55人・60人)  
いずれもサロンのからデラックスまで  
スキーバスもあります  
〒578-0971 東大阪市瑞穂池本町1-20 オカダビル4F  
電話 06(6745)3911・FAX 06(6745)3983  
夜間・電話 06(6242)2371・FAX 06(6242)2372







特選コースガイド③

比叡

雲母坂道脇に咲く三葉躑躅の群落

梅谷右岸尾根道から比叡山頂へ

一般コース(★★★)

松尾 一郎

叡山電車出町柳駅から八瀬比叡山口駅行きに乗車、三宅八幡駅で下車し、八瀬寄りの構内踏切を渡り反対側ホームに上がる。ホームをそのまま出町柳方面に進み、ホームから降りて線路沿いを行くと、踏切道(舗装)に出合う。踏切を渡らず左折して、二つ目の三差路を右折(南ト)すると右側(西)に上高野小学校があり、最初の三差路で左折する。

正面に比叡の山並を仰ぎ見て、田畑の散見する舗装道をまっすぐ行くと、道は右折して、クランク状の登り坂となり宝幢寺前に着く。登りがゆるくなった車道を右手の服部山山腹沿いに弧を描きながら進み、道が下り気味になった頃、二つ

目の三差路を左折(東方向)し、そのまま突き進むと「梅谷登り口」の看板のある梅谷登山口に着く。

ここから梅谷登山道となり、右の赤山沿いに山中へわけ入って行く。左から梅谷の清流が現れ、しばし道は橋を渡り梅谷右岸に移り、すぐ梅谷(右)と尾根道(左)のV字状の分岐点(道標あり(注1))に着く。左の尾根道(梅谷右岸尾根道)に入る。このコースは入口と出口の道幅は狭いが、コースの大半は道幅も広く雲母坂と較べても遜色ない。道幅が広くなると「まむし」の注意喚起の木札が二ヶ所あり、高圧電線と合流する辺りから、振り向けば木の間越しに左手側(北西・上高野方面)の展望が開けてくる。登路は樺や小梢も散見される明るい雑木林の道で、楠の大木も自生するなど、思いのほか自然豊かな尾根道である。道幅が狭くなると、右から登ってくる雲母坂コースに合流する(東山トレイル(70)以下「東山(70)」と略す)の標注が建つ。これより雲母坂をぐんぐん登って行く。左に南北朝初期の南朝重臣千種忠顯の記念碑分岐(東山(72))を過ぎ、すぐ五辻(東山(73))に着く。ここはまっ



句まで。

三葉躑躅の観賞を終えたら、その先の展望所(注2)の分岐(北山④)から、右へ比叡山頂駐車場への道に入る。道標では10分とあり、幅の広い勾配のゆるいジグザグ道を登って行くと、バス停のある広い山頂駐車場に着く。前方(東)に駐車場越しに見えるこんもりとした小山が大比叡山頂である。山頂へは駐車場から工事用の車道を東へ進み、右の山道(道標なし)に入り、登り切った所に巨大な用水槽があり、その手前脇(西側)の小高い繁みが、1等三角点の埋まる大比



雲母坂(比叡八号目)に咲き誇る三葉躑躅

叡(848.3m)頂上である。残念ながら眺望は無い。  
東塔へは用水槽に沿って東へ進み、すぐ二基のテレビ塔が現れ、山道を下って行くと先ほどの車道と出合い、NTT電波塔が現れる。電波塔の左脇の山道に入ってくだって行くと、分岐(道標なし)(注3)に着く。東塔へは左の道に入り、ジグザグ状の山道を下って行く。墓基のある小広場に出て、階段を下ると数基の鎮魂碑が現れ、道をS字状にゆるくくだって行く。左から雲母坂が合流し、少し左へカーブ状に上って、朱色の法華総持院の回廊を潜ると明るい東塔一角の阿弥陀堂前広場に出る。東塔中心地へは阿弥陀堂前の広い階段(54段)を下り、季節には石南花が咲くゆるい巴講板(舗装路)を下って行き、「一隅を照らす会館」前の広場に下り着く。会館は無料休憩所を兼ねており、地下には蕎麦処もある。根本中堂へは広場から、広い階段を下りるとすぐだ。  
東塔からは本坂道をくだるが、広場から舗装路を北東方向へ行き、延暦寺会館の前で道は左右に分岐するが、右(法然堂へ百メートル)の立て看板あり)の急勾配

梅谷・尾根道分岐(右の車の奥が梅谷道、左の小道が右岸尾根道)



すぐ進み、しばしで京福八瀬ケーブル比叡駅前広場(東山トレイル(74)の終着点、北山トレイル①の出発点)に登り着く。  
ケーブル駅裏手から幅広い雲母坂を登り、旧スキー場跡前(北山⑤)に出るが右への山頂駐車場分岐は見送り、スキー場跡を過ぎるとコース左手、桜の木立ちの奥に濃い紫ピンク色の三葉躑躅の群落が見られる。花期は4月下旬から5月上





悲田谷の石仏

で砂止めされた階段状のジグザグ道を書く。悲田谷は飯室回峰(行者)道なので、至る所に石仏や五輪塔がまつられている。薄暗い植林道をどんどんくたつて行くと、黒い木製橋が現れ、導水路のアーチトンネルを渡る。大宮谷林道に着く。これより下山には次の二つのルートが考えられる。

①坂本(日吉)へ直接下山コース  
(一般向きルート)

大宮川右岸沿い林道を右にとれば坂本(日吉大社)への下山路だ。しばらく行くと大宮川左岸にそびえる衣掛岩を見上げ、広い林道を進み本坂道と交差し、幅広い石段道をくだれば常夜燈二基が建つ坂本に下りつく。疲れた人や初心者には、このコースをお勧めしたい。

②八王子山から八王子坂を経て日吉大社コース  
(中級向きルート)

八王子山へは、右岸林道を左(横川方面)へ進み、すぐ大宮川に架かる木橋を渡る。この木橋は相当に朽ちかけており、注意して1人ずつ慎重に渡ろう。雨天や雨後の濡れた渡橋は避けたい。大宮川を

左岸に渡ると「火の用心」の赤い標識を目印に、倒木のある箇所まで一気に登り切る。これより神宮寺山から派生する尾根山腹の捲き道(飯室回峰(行者)道)をトラバースしながら行く。急斜面にへばりつく細い踏み跡を確認しながら小さい上り下りを繰り返して行くが、途中数ヶ所ほど不明瞭な箇所と、右側が切り立った箇所もあるので、足もとに注意し慎重に行動したい。道がほとんど下り気味になってくると、神宮寺舊趾の石碑の建つ広場に着く。

ここは左へ横川、右へ日吉と分ける三差路で立派な道標もある。八王子山へは左の登り道をしばらく行くと、神宮寺山と八王子山鞍部に出て横川行者道に合流する。ここは左に高庄送電鉄塔がそびえ、八王子山への登り口もあり、四差路になっている(道標なし)。

八王子山へは右(東南方向)へ尾根道の踏み跡(木に黄色のテープ)に入って登る。小ピークに到達し、なおも見通しのきかない樹林のなかの踏み跡をたどって行くと、八王子山頂(三角点なし)に到達する。周囲は樹木に囲まれ見通しは全く無い。昼なお暗く、ケルンが積まれ、木

の船坂(舗装路)をくだって行く。法然堂を右に見やり急坂を右にカーブしながらくんだり、舗装路が切れた所が、亀が石碑を背負った亀塔で、休憩所兼用のお堂がある。ひと休み後、広い本坂をくだって行くとしばらくで、大宮谷林道(悲田谷)への分岐(「」状、道標あり)(注4)に着く。

分岐を左(北)に入り、すぐの大杉の袂から右へくだる小道がある。ここが悲田谷への分岐(道標なし)(注5)で、木製の山名標識が枝に吊り下がっているだけだ。

下山は元来た道を鞍部まで戻る。日吉方面へは横川行者道(永平道)を行ってもよいし、先ほどの道を神宮寺舊趾まで戻ってもよい、先で合流する。行者道は八王子山南山腹を巻いて進むと、神宮寺舊趾からの飯室回峰道(木棒で土止めた良い道)に合流し、しばらく進むと石段状の広い坂道(八王子坂)に飛び出す。八王子坂の左奥(登り方向)には、八王子神社の二つの社殿が石段道の両脇に建つ。右を牛尾宮左を三宮宮という。二つの社殿の奥には、御神体の金大藏(標識が巻いてある)が鎮座している。坂本日吉大社へは広い石段混じりの八王子坂をどんどんくたつていき、最後の二つの石段をくだれば日吉大社境内で、社務所(出口)は広い砂利道を左へ行けばすぐだ。京阪石坂線坂本駅、JR湖西線比叡山坂本駅へは、広い車道を左(東)へまっすぐ行けば、それぞれ10分、20分の距離である。

(平成18年4月29日・平成19年1月13日・27日・2月11日歩く)

Aコースタイム

- ①4時間3分(一般向きコース)
- ②4時間50分(中級向きコース)
- \*叡山電車三毛八幡駅(15分) 梅谷登り口(5分) 梅谷道・尾根道分岐(50分) 雲母坂合流点(20分) 五辻(10分) 八瀬ケール比叡駅(10分) 旧スキー場跡(3分) 三葉園群落(7分) 展望所・比叡山頂分岐(10分) 駐車場(10分) 大比叡(15分) 東塔(阿弥陀堂)(5分) 延暦寺会館前広場(10分) 亀塔(5分) 悲田谷(大宮谷)分岐(20分) 大宮谷林道(悲田谷下)

①(一般ルート)

- 悲田谷下(23分) 本坂交差(5分) 日吉大社(20分) JR比叡山坂本駅
- ②(中級ルート)
- 悲田谷下(2分) 回峰道分岐(木橋)(16分) 神宮寺舊趾(5分) 横川行者道(神宮寺山・八王子鞍部)(10分) 八王子山(7分) 行者道鞍部(戻る)(15分) 八王子坂(社殿)(20分) 日吉大社(20分) JR比叡山坂本駅

△地形図V2万5千 京都東北部

(注1)この分岐の道標は、右へのメインコース梅谷道へ登山者を案内するために設置されたもの。特に梅谷右岸尾根道との案内表示はない。梅谷道・梅谷右岸尾根道ともに、上部で雲母坂道を介して東山トレイル(70)地点で合流する。

(注2)展望所(北側)からは、大原方面が箱庭のごとく見渡せ、横高山・水井山の奥比叡スカイライン、遠く比叡山系、北山の峰々、愛宕山等、京都北部の山並が望見される。

(注3)まっすぐくたると比叡山ドライブウェイを横断し、ケール延暦寺駅に行ける。

(注4)悲田谷コースは登り口・下り口に道標があるが、「悲田谷」の表示は一切ない。特に登り口の道標は「悲田谷」とすべきを古い道標が「肥前谷」と誤表記したままだ。

(注5)分岐からすぐの「悲田谷」下山分岐は、以前は足下に小さな道標があったが朽ちてしまった。分岐をうっかりと直進すると、僧侶の墓石群で行き止まりである。



特選コースガイド④

北海道

日高連峰の東と西の展望台

十勝幌尻岳とピセナイ山

一般コース(★★★)

金谷 昭

百名山の日高連峰最高峰幌尻岳へは日帰りは無理、幌尻山荘で1泊せざるを得ない。山荘は平成18年度から完全予約制となった。幌尻岳でなくともすばらしい山がある。南北に連なる日高山脈を東と西からじっくりと展望できる十勝幌尻岳とピセナイ山の登山をお勧めする。

東の十勝幌尻岳(1845・96m)

日高山脈中央のエサオマントックベツ岳から東にのびる支尾根東端の大きなピークで、幌尻岳と区別するため「勝幌」と呼ばれる。

登山口は、帯広市の八千代から戸蔭別川沿いの林道を行き、支流のオピリネッ



登山口から標高631mに向けて約6km行き、分岐するピセナイ沢沿いに右折する。さらに4km行くと、林道終点の登山口だ。平成18年夏は終点近くで土砂崩れ復旧工事をしてしたが、終点は10台程度の駐車が可能。

▲コースタイム▼  
下の土場(1時間15分) 尾根取付点(2時間50分) 十勝幌尻岳(3時間) 下の土場  
△地形図▼2万5千II 拓成・札内岳  
(問い合わせ先)  
帯広森林管理署  
☎015666(2) 2127

西のピセナイ山(1027・58m)

日高山脈主稜から西にのびる支尾根中間のピークで、日高地方の麓からは全く望めない。登山対象の山となったのは、静内ダム建設で林道が出来てからである。比較的手軽に登れ、日高山脈全域の大パノラマが広がる第一級の西側の展望台である。山名は支流ピセナイ(熊の膀胱、風船状に膨らんだ袋) 沢に由来するが、そのような地形は近くでは見当たらない。

JR静内駅から農屋までバス便があるが、登山口はさらに10km以上奥、タクシールンタカーに頼らざるを得ない。農屋までは道道静内中札内線と平行する二十間橋通りをお勧めする。競争馬牧場の中に延々8kmに及ぶ桜並木は北海道ならではの。

農屋を過ぎ静内ダムを左岸に渡り、静



内湖畔キャンプ場を左に見て約6km行き、分岐するピセナイ沢沿いに右折する。さらに4km行くと、林道終点の登山口だ。平成18年夏は終点近くで土砂崩れ復旧工事をしてしたが、終点は10台程度の駐車が可能。

登山口から標高631mに向けて約6km行き、分岐するピセナイ沢沿いに右折する。さらに4km行くと、林道終点の登山口だ。平成18年夏は終点近くで土砂崩れ復旧工事をしてしたが、終点は10台程度の駐車が可能。

登山口から標高631mに向けて約6km行き、分岐するピセナイ沢沿いに右折する。さらに4km行くと、林道終点の登山口だ。平成18年夏は終点近くで土砂崩れ復旧工事をしてしたが、終点は10台程度の駐車が可能。

登山口から標高631mに向けて約6km行き、分岐するピセナイ沢沿いに右折する。さらに4km行くと、林道終点の登山口だ。平成18年夏は終点近くで土砂崩れ復旧工事をしてしたが、終点は10台程度の駐車が可能。

登山口から標高631mに向けて約6km行き、分岐するピセナイ沢沿いに右折する。さらに4km行くと、林道終点の登山口だ。平成18年夏は終点近くで土砂崩れ復旧工事をしてしたが、終点は10台程度の駐車が可能。

登山口から標高631mに向けて約6km行き、分岐するピセナイ沢沿いに右折する。さらに4km行くと、林道終点の登山口だ。平成18年夏は終点近くで土砂崩れ復旧工事をしてしたが、終点は10台程度の駐車が可能。

十勝幌尻岳から幌尻岳方面



ある。高度1200m辺りを過ぎるとブッシュも薄くなり、エゾマツやトドマツに代わってダケカンバが出てくる。

頂上からのびる北尾根に近づくと、風雪で曲がりくねったダケカンバにハイマツが出てきて北尾根にのる。尾根右のピリカベタヌ沢側を行くようになると途端に展望が広がり、残雪カールを抱いた札内岳が望める。やがて岩混じりのハイマツ帯となり、ここで始めて頂上を見る。ハイマツを漕ぎ分けると頂上である。

残雪カールを抱いた日高山脈中央部の山を中心に、重畳と連なる日高山脈が南北に全開する。壮年期の山脈だけに多くの鋭角の山容の山々の中にあつて、ポリュームのある最高峰幌尻岳は圧巻である。下山は往路を忠実に戻る。  
(平成18年7月1日歩く)

(旧三石町)はササ原となっており、南日高の山々が望める明るい尾根歩きとなる。手前の小鞍部を登り返すと頂上に飛び出す。中央に2等三角点(点名比内山)の置かれた広いササ原で、南北に長い日高山脈を西側から見ることとなる。北は戸蔭別岳・幌尻岳、中央にベデカリ岳・神威岳、南はアポイ岳、そして襟裳岬にいたる大パノラマが展開する。

下山は往路を忠実に戻る。下山後は新冠温泉「レ・コードの湯」がよい。露天風呂から見る太平洋の落日は登山の疲れを癒してくれるだろう。

(平成18年6月30日歩く)

▲コースタイム▼  
登山口(1時間) 六合目(45分) ピセナイ山(30分) 六合目(40分) 登山口  
△地形図▼

2万5千II 美河・ベラリ山・セタクシ山  
(問い合わせ先)  
静内観光情報センター  
☎0146(42) 1000

静内森林管理署  
☎0146(42) 1615

北海道交通タクシー  
☎0146(42) 1141



# 沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福  
 公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

**近鉄**  
 ▽駅長お薦めフリーハイキング  
 「名勝・大和三山・完全踏破」  
 5月3日(雨天決行(荒天中止))  
 (集合) 大和八木駅9時30分止  
 時「コース」 大和八木駅―耳成山  
 一藤原宮跡―香真山―本薬師寺跡  
 一吹上山―榎原神宮前駅(約14時)  
 健脚向・係員は同行しません。参加  
 自由・無料。大和八木駅074  
 4(22) 23005  
 ▽近鉄万歩ハイキング「曙峰・権  
 峰越えコース」 5月4日(雨天決  
 行(荒天中止)) (集合) 枚岡駅  
 9時30分止10時「コース」 枚岡駅  
 一枚岡神社―時崎―権峰―富雄延駅  
 (約16時) 健脚向。参加自由・無料。  
 近鉄大阪イベント係06(677  
 5) 35666  
 ▽駅長お薦めフリーハイキング  
 「春の飛鳥路とキトラの神秘をも  
 とめて」 5月13日(雨天決行  
 (荒天中止)) (集合) 榎原神宮前駅  
 東改札前9時止11時「コース」 榎  
 原神宮前駅―古宮遺跡―飛鳥資料  
 館―飛鳥坐神社―万葉文化館―酒  
 船石―伝飛鳥板蓋宮跡―蘇我入鹿  
 首塚―榎原神宮前駅(約10時) 一般  
 向・係員は同行しません。参加自  
 由・無料。榎原神宮前駅0744  
 4(22) 2449  
 ▽朝日・五私鉄リレーウォーク  
 「特別編 久米仙人ゆかりの久米  
 寺からキトラ古墳 そして飛鳥の  
 里へ」 5月20日(雨天決行(荒  
 天の場合6月3日(日)に延期)) (集  
 合) 久米寺(榎原神宮前駅中央改  
 札口下車約10分) 10時止「コー  
 ス」 久米寺―於美阿志神社・榎  
 原寺跡―キトラ古墳―文武天皇陵  
 一橋寺―石舞台古墳―岡寺―伝飛  
 鳥板蓋宮跡―飛鳥寺―飛鳥坐神社  
 一飛鳥資料館(約14時) 参加  
 自由・無料(拝観料は別途)。参  
 近鉄大阪イベント係06(677  
 5) 35666  
 ▽駅長お薦めフリーハイキング  
 「初夏の二上山」 6月2日(雨  
 天決行(荒天中止)) (集合) 下田  
 駅9時30分止11時「コース」 下田  
 駅―上文化センター(二上山博  
 物館)―二上山駅―大津皇子の墓  
 一雄岳(葛木上神社)―雄岳―  
 裕泉寺(葛木不動明王)―鳥谷口古  
 墳―富原山神社―牟堂―中將姫  
 の墓―富原寺―高城市相模館(け  
 はや産)―当麻寺(約9時) 健脚  
 向・係員は同行しません。参加自  
 由・無料(拝観料は別途)。大和  
 高田駅0745(52) 2414  
 ▽奈良交通ハイキング「女性に人  
 気のシャクナゲの稲村ヶ岳」 6  
 月4日(雨天中止(中止の場合6  
 月5日(日)に延期)) (集合) 下市口  
 駅8時45分止9時15分「コース」  
 下市口駅(バス) 洞川温泉―五代  
 松鍾乳洞―法力峠―稲村小屋―稲  
 村ヶ岳―洞川温泉(バス) 下市口  
 駅(約14時) 健脚向。参加自由・無  
 料(バス代2560円)。吉野宮  
 業所0747(52) 4101  
 ▽2007金剛生駒紀泉ハイキン  
 グ「二上山から聖徳太子ゆか  
 りの敷幡寺へ」 6月10日(雨天  
 決行(荒天の場合6月17日(日)に延  
 期)) (集合) 上ノ太子駅大阪阿部  
 野橋方面改札前9時止10時「コー  
 ス」 上ノ太子駅―馬の背―二上山  
 (雄岳)―岩屋―万葉の森―(竹  
 内街道)―叡福寺―上ノ太子駅  
 (約13時) 健脚向。参加自由・無料  
 (小学生以下と75歳以上の単独参  
 加はご遠慮下さい)。近鉄大阪イ  
 ベント係06(6775) 3566  
 ▽近鉄万歩ハイキング「羽曳野・  
 藤井寺史跡古墳コースへ」 6月  
 16日(雨天決行(荒天中止)) (集  
 合) 古市駅9時30分止10時「コー  
 ス」 古市駅―白鳥神社―菅田八幡

宮―道明寺天満宮―津堂城山古墳  
 一幸園神社―アイセルシュラホー  
 ル―藤井寺(約13時) 一般向。参  
 加自由・無料。近鉄大阪イベン  
 ト係06(6775) 35666  
 ▽駅長お薦めフリーハイキング  
 「チャレンジ」 矢田寺から松尾  
 寺へ」 6月16日(雨天決行(荒  
 天の場合6月21日(日)に延期)) (集  
 合) 近鉄郡山駅9時30分止11時  
 (コース) 郡山駅―大郡山山市総  
 合公園―矢田寺―松尾寺―平群駅  
 (約12時) 健脚向・係員は同行し  
 ません。参加自由・無料。天理駅0  
 743(62) 0024  
 ▽近鉄万歩ハイキング「あじさい  
 を訪ねて 興法寺からぬかた園地  
 へ」 6月24日(雨天決行(荒天  
 中止)) (集合) 新石切駅9時30分  
 止10時「コース」 新石切駅―石切  
 創開神社―興法寺―大園啓民の森  
 ぬかた園地―あじさい園―枚岡公  
 園―額田駅(約10時) 健脚向。参加  
 自由・無料。近鉄大阪イベント係  
 06(6775) 35666

**京阪電車**  
 ▽京阪ニテファミリアーハイク「天  
 ヲ湖森林公園に新緑をもとめて」  
 5月27日(雨天決行・荒天中止)  
 (集合) 京阪宇治駅9時30分止10  
 時「コース」 宇治駅―朝霧橋―塔  
 の島―宿木ノ古墳―天ヶ瀬公園―  
 天ヶ瀬ダム―天ヶ瀬森林公園(想  
 いの広場)―こもれびの道―自由広  
 場―魚いの広場―志津川パイバ  
 ス出合―第一志津川橋―宇治神社  
 一宇治駅(約10時) 参加費無料。  
 京阪電車ハイキング担当06(6  
 947) 37002  
**叡山電車**  
 ▽叡電フラワーウォーク・カキツ  
 バタ観賞「夜泣時・大田神社」  
 5月9日(雨)・12日(雨天決行・雨  
 天中止) (集合) ニノ瀬駅9時30分  
 止10時「コース」 ニノ瀬駅―夜泣  
 峠―向山―高橋―賀茂神社―大  
 田神社―円通寺通(鞍馬街道)  
 一京都精華大駅(約10時) 参加費  
 無料。叡山電車営業課075(7  
 02) 8111

**山陽電車**  
 ▽山陽ハイキング「垂水・史跡め  
 ぐりハイク」 5月20日(雨天中  
 止(集合) 西舞子駅北(0・5時)  
 大塚山遺跡公園 10時「コース」  
 大塚山遺跡公園―多聞寺―雅祥院  
 一舞子墓園公園―五色塚古墳―霞  
 ヲ丘駅(9時) 家族向。須磨浦遊  
 園ハイキング係078(73) 2520  
 ▽山陽ハイキング「浜宮天神社か  
 ら高砂海浜公園ハイク」 5月27  
 日(雨天中止(集合) 浜の宮駅下  
 車(約10時) 10時「コース」  
 浜の宮公園―松原公園―しおかせ  
 こみち―松原の御井―向島公園―  
 高砂海浜公園―十輪寺―高砂駅  
 (10時) 家族向。須磨浦遊園ハイ  
 キング係078(73) 2520

0 ▽山陽ハイキング「生石神社・鹿  
 嶋神社ハイク」 6月17日(雨天  
 中止(集合) 山陽曾根駅下車(曾  
 根天満宮松原公園) 10時「コー  
 ス」 曾根天満宮―鹿嶋川河畔―生  
 石神社(石の宝殿)―市ノ池公園  
 一鹿嶋神社―時光寺―大塚駅(12  
 時) 一般向。須磨浦遊園ハイキ  
 ング係078(73) 2520  
 ▽山陽ハイキング「ジェームス山・  
 山上遊園地めぐりハイク」 6月  
 24日(雨天中止(集合) 流の茶屋  
 駅下車(城ヶ山公園) 10時「コー  
 ス」 城ヶ山公園―井筒岬跡―ジェー  
 ムス山―ふんすいランド―山上梅  
 林―葛原山―展望閣―芭蕉句碑な  
 ど。須磨浦公園(8時) 一般向。  
 須磨浦遊園ハイキング係078  
 (73) 2520



# せせらぎ

題字・小林玻璃三

昨年11月、鳥取県の三徳山へ登った。三徳寺の聖域なので山頂に立つことは許されず、中腹の断崖に建つ投入堂への参拝が三徳山登山である。

参道入口から投入堂の欄まで標高差は330m、三徳寺本堂裏手の登山事務所を過ぎて宿入橋を渡ると、かずら坂なる急斜面の登りが始まる険しい山道となった。私のような登山者にとっては、厳しい修験の山に來たと実感させられた。

木の根や岩をつかんでの激しい登りで、以前に、転落して大怪我の男性がへりて運ばれたこともあり、よくよく注意するよう念を押された。

それだけに、平等院鳳凰堂・

中尊寺金色堂と肩を並べる、平安時代の貴重な木造建築物の投入堂を目の前にした時の感激は忘れられない。

ここ数年間、投入堂に関する各種資料を10部程集めた。朝日新聞の「風景を歩く」(投入堂に関する平成15年の記事)を読み、今年こそと8月の堂修理終了を待って登山を果たしたのであった。

私は海外旅行が好きで、中国の黄山や泰山へも登っている。今年は何となくしようかと中国関係のガイド本やビデオ全集にて調査していた時、華北にある県空寺なるすごい建物に目を見張らされた。

大同市外から南東70kmにある

恒山(2000m)の切り立った崖にへばりつくように建てられているものである。天空に聳空寺と呼ばれており、英語では「雷の寺」と紹介されている。創建は六世紀という。

前述の投入堂に関しては、慶雲三年(706)に役の行者が法力にて断崖に投げ入れたという伝説が残っているが、県空寺に比すれば実に簡素な感じである。

それはそれで忘れることのない存在なのであるが、できれば県空寺も訪ねてみて比較したい思いに囚われたのであった。

(枚方市 東谷 宏)

天城山を縦走して既に20余年。その伊豆半島を一周する旅に出た。由此、薩埵峠辺りでは待望の富士が姿を見せ、胸が熱くなる。

熱海から南下して熱川温泉では、朝日が伊豆大島の右手から昇る。

南端石廊崎に近づくと、オレンジの花いっぱい野生アロエの群落に南国を実感する。

西伊豆に廻って間もない雲見温泉で、早や富士の頭がのぞく。3日目の土肥温泉の夜明け、はるか御前崎への長い対岸には、ピンクに染った南アルプス連山が夢のようにポツカリと浮んでいた。

朝食後、連勝山高原に上ると、駿河湾を挟んで立つ堂々たる純白の富士に圧倒される。50年前の1月、結婚を終えて赤倉スキーに出発。早朝の信越線田口駅(今の妙高高原駅)から粗末な木箱の馬車が走り出すと、真正面にデーンと立つモルゲンロートに輝やく妙高を見上げた時の驚き、眩しいばかりの神々しさ、凍える寒さを思い出す。

金婚式を迎え、初めと終わりにピンクの神々の祝福を受け、富士にもエルをもらった。今も夫婦で、山歩きできる幸せが、いつまでもと希っている。

(宝塚市 川戸アイ)

三重県の伊賀市(旧阿山郡伊賀町)・柘植町の靈山寺を目指す。靈山寺には多くのお地藏さんが祀られている。

寺の南からの靈山登山道は2万5千地形図にはないが整備された道である。人懐っこい犬が前後しながら先導してくれた。途中にも「六地藏」「さいの河原地蔵」と書かれたお地藏さんが祀られている。

アセビやイヌツゲの群落が続く。樹根を重ねた巨木は見応えがある。尾根を北に向けた所が山頂で一等三角点765・8m、靈山山頂遺構の案内板がある。

ほぼ360度の展望で、西手前に笹ヶ岳、北に鶏冠山・阿星山・飯道山、その奥に三上山、東に錫杖岳と怪ヶ峰が頭をのぞかせ、南に笠取山と青山高原が俯瞰できた。

下山は南からぐるりと廻るつもりがどうしたか、往復コースを戻ってしまった。13時には車に戻ってしまい、時間があるので伊賀市上野に移動し、松尾芭蕉翁記念館等の俳蹟の三施設を巡った。

(向日市 湯浅康夫)

私の友人に山好きな男がいる。ある日突然、富士山に登ってコアを飲もうと言いつい出、危う

く連れて行かれそうになった。先日も輪湯詣に行くと行って山に入り、3日間帰って来なかった男だ。

その男が突然笹ヶ岳に登ろうと言いつい出したので行ってきた。宇奈月温泉から林道を走り、途中で車を置いて登山道に入る。急斜面に出ると眼下に溪谷を走るトロッコ列車が見えた。

山頂付近にはお花畑があり、山頂からは後立山連峰が目の前、梅海新道が日本海に落ち込む様子がよく見えた。

山頂を後にしてお花畑を過ぎたとき、突然左の靴底の前半分が剥がれてバカバカしだした。何とかもってこれ、との願いもむなしく五合目付近で抜けてしまった。

下山の翌日、靴を買いに専門店へ行ってみると、「経年劣化で5年目にはこのようになりましてよ」と言う。底の剥がれた靴の見本が置いてあった。私の靴は修理しながら使った8年目だったので気をつけなければならぬ。

下山後、なぜか宇奈月温泉をパスし隣町の小川温泉へ向かう

た。今回の彼の旅の目的はどうか。今開湯四百年の温泉が主な目的であったようだ。

(熊谷市 山形 明)

1月6日夜から8日、青春18きっぷ3枚を使って、塔ノ岳・丹沢山への田中リーダの富士見山行の例会に参加した。富士山周遊の山へは過去二回登っているが、天候に恵まれなかった。

7日の朝は抜けるような青空、二ノ塔山頂に着くと突然、雪煙りの富士山がくっきり現れた。三ノ塔では富士はさらに近づき、発達した低気圧の影響で風が強

く、吹き飛ばされそうなる。ピークを七つ越えた塔ノ岳では、風が益々強くなり、山全体がゴーゴーとうなりをあげている。塔ノ岳山頂の小屋に宿泊するので、アイゼンを着けて百名山の丹沢山を往復する。三角点を踏んで帰る時はさらに風が強くなり、前を行く人はよろけて立ち止まって足を滑らしている。

何としても無事に山小屋まで帰らなければ、もし事故にでもなれば新ハイの名前が出る。一歩一歩を慎重に進めるしかない。

アイゼンに力をこめ、ストックを持つ手にも力が入る。時折突風におおられるが、重心を低くして耐風姿勢をとる。腰が痛くなり、轟音と強風の怖さでよれよれになって小屋に着いた。小屋は稜線上に建っている。強風が一晩中音を立てて揺さぶり続け、小屋がつぶれるか、と思うほど。

翌朝には風がやみ、雲一つない快晴。塔ノ岳から真正面に富士を見ると、相模湾から昇る朝日を浴びてピンク色に染まっていく。とてもきれいだ。裾野が広くどっしりとしている。体が包み込まれてしまいそうで、しばらく身動きできなかった。富士山と一体になれるように感じ、大きな懐に入れたように心が安らぐ。癒された山行だった。

(枚方市 萩野暢子)

「松阪市史」に載る浅間山を訪ね、冬に四回山に入った。大河内大広の集落では、5名の方に尋ねたが、矢津の山の話しか聞けず、大広には無いとのこと。代わりに若宮に上った。行者祠のある矢津浅間山には男



性しか上れないと聞き、大峰信仰の頭在ぶりに驚いた。

坂内浅間山は三度探しに行つた。「市史」には491mとある。そこで、一度目は、不動院西の谷から山に取り付き、地形図に二つある標高点491のうち、西の方に上つたが、祠はおろかも無し。

二度目は、坂内川右岸で「秋葉山」と標識の立つ山へ。G260mの天辺には、浅間さん・秋葉さん・行者さん・不動さんが祀られており、山岳会の「浅間山」の札があった。しかし、地元の案内では「秋葉山」であり、標高も違う。

納得できず、三度目は、不動院から北東の谷に入り、高みを目指した。鞍部から北の峰に上ると、何と「狼山520m」の札が(イセA氏のもの)。狼山は「市史」によれば、ずっと西の細野峠近くのはずなのだが、不動院の上まで戻り、今度こそはと、真北の尾根を急登する。道は無いが、息を切らして天辺まで上ると、何と今度は「狼山南峰491m」の札が。本当の坂内浅間山は、どれだ

ろう。かつて、いずれかの・491にあった浅間祠が、後世、より里近い秋葉山に移され合祀されているのだろうか。

山中を彷徨しての収穫は、ギボウシランを確認したことだった。(松阪市 森木伸人)

私だけの散歩道は日野川の土手である。国道8号線より上流域で、雪野山の南下方妹背公園まで往復約2時間30分。兩岸はジャリ道・地道・舗装された道、狭くて車はほとんど通らない。樹の跡に雑草が茂っている。

土手は竹林とやぶと刈り込まれた斜面で民家も点在する。途中に大きなパイプが川を渡っていてその上に鉄橋がある。疲れるが、竹林と川の上を渡るのが楽しめる。

秋から冬には、カラスウリ・サネカズラ・ツルウメモドキ・ヒヨドリシヨウゴなどの赤い実が楽しめる。日溜りの春の土手には、オオイスノフグク・ヒメオドリコソウ・ホトケノザなどが大群落をつくって咲き乱れ、スマイレ・タンポポ・梅・桜など、いろいろな花々が楽しめる。

夏から秋は、大きく茂げる雑草のなかにヤブカンゾウ・オニユリ・ヒメジョオン・アキノノゲシ・ツルボなどが咲く。

以前は、8号線より下流にもいろいろな草花が見られたが徐々に消えていく。

特別に変わった花は無いが、いつ歩いても草花が出迎えてくれる。(近江八幡市 若野 明)

(六甲讃歌・懐古篇)  
01年1月3日 天狗岩南尾根  
岩に寝転んで流れ雲を追えば  
新世紀のメロディ降りそそぐ  
01年3月9日 番匠屋煙尾根  
約束をしたに友は来ず独り  
ブルザード止んだ尾根を這う  
02年4月15日 真地獄谷  
谷の流れにきらめく陽が光る  
天から届くラブレターのように  
02年7月25日 記念碑台  
山のお嬢さん一服しましょう  
アイス色したアジサイの下で  
03年3月11日 東お多福山  
虹を送りつづける鉄塔の果てに  
わが銀河鉄道が走り去る  
03年4月26日 地獄谷  
恋人もいないのにの唄口ずさみ

「御前岳・火山」の予定を4月7〜8日に変更した。今年の暖冬は予想以上で、例年の半分も雪は無い。雪の無い御前岳は登頂できないが、行くからには登頂したい。テント泊なら何とかなるが、日帰りはとてもきつく、10〜12時間かかるだろう。(海津市 山田明男)

3月、北陸の永平寺と七尾城跡に行った。  
永平寺を見てから、えちぜん鉄道で福井駅に戻る途中で「明日は雨かな」と思える天候になった。「資料館から雨の中を歩くのはいやだな」と思いつつも、福井駅から特急に乗り、七尾駅には17時に着いた。  
七尾市は能登で一番大きい町だが、次の駅の和倉温泉がよく知られている。  
駅前のタクシーに聞くと、「日は落ちかけているがまだ大丈夫、間に合う」と言う。とにかく行ってもらうことにした。「七尾の城もポツリポツリ歴史ファンが来ます。」  
運転手は城のことをよく知っていて、「上杉謙信の跡じた

梅ながれる谷をさかのぼる  
04年1月3日 逢ヶ山  
春の岬には君が待っているの  
雲をマップにして逢いにゆく  
04年4月1日 有馬連山  
星座の線条がデイトラインか  
さらば越えて来た七つの山よ  
05年2月1日 屏風岩谷  
蓬萊峽のジャングルをかくす  
雪が止むまでテントで眠れ  
05年6月5日 樫ヶ峰  
六甲はどう? 好きにきまってる  
皆でパーベキュー最高だよ  
(吹田市 木村太郎)

「エリア別徹底研究 京都北山を歩く」の当該記事を興味深く読んだ。  
これまで私は、北山にはもう花はほとんど見られないと勝手に思い込んでしま、最近北山を登るような山歩きが続いていたのだが、村田代表の「京都北山の山々を四季を通じて歩いてみませんか」との記事になぜか心動き、仲間といっしょに1年間北山を訪ねてみようと考えている。  
もちろん、第一回目のミニガイドの山は全て歩いてはいるの

だが、なかには過去の例会でみんなについて歩いただけできつちり道を覚えていないコースもあり、今一度地図やネットなどで確認をしながら、机上登山の楽しさも膨らんできた。  
記事では愛宕山に連なる地藏山、明智越、金毘羅山などは、ややコースが短いためバリエーションルートを整けてロングコースを楽しむこととした。もちろん、鞍馬からの天ヶ岳、さらには雪がうれしい杖藜ヶ岳も十分満足できた。  
これからはエリア別徹底研究の記事を楽しみにしつつ、四季を通じて北山を歩いて、植物探索はもちろん、どこかに秘められた何かを求めて歩きたいと思っ

(長岡京市 田中 明)

12月3日、狗留孫山へ忘年山行。38人が集まり、わいわいと懇談できた。  
12月10日、鈴鹿・三池岳へ。宇賀から新たなルートで一廻りした。

12月17日、岩野さんの忘年山行、綿向山嶽の水無山へ32名が

集まった。

12月24日、06年最後の山は「海上の森から、猿投山」だった。

元旦、初詣でに3人で朝熊山へ。1等三角点と天測点を見て伊勢神宮にも参拝した。

1月4日、最初の例会で池田山へ15名で行った。北アルプス・中央・南も一部見られ、間近に見慣れぬ形の伊吹山を眺めた。

1月7〜8日、新ハイ例会でブナオ山に行くが雪。7日、白山自然保護センターのブナオ山観察会でのミニ観察会でカモシカ二頭に出会った。8日、ブナオ山を目指すも中宮発電所の送水管の上までしか行けず、時間切れで帰った。

1月14日、知多半島の1等鍋山と名古屋市の1等高根山へ。いずれも100mに満たない低山だが見晴らしは良かった。

1月21日、愛知県の知生山・仏庫裡・中当城ヶ山を歩いた。いずれも道がわかりにくかった。

1月28日、愛知県最高峰の茶臼山など四山を歩いた。少し雪があり、霧水もきれいだった。

新ハイ例会の5月4〜6日

会員募集

大阪低山跋涉会

大阪府岳連加盟

主に近畿周辺の山々を日帰り楽しんでるグループで、今年で27年目になります。歴史ウォークや山麓ハイクなどの軽ハイキング・初級・中級登山や時には道も無い藪山にも登ります。例会は日曜祝日だけでなく平日山行も開催しています。40〜70歳位までの山と自然が好きなお方ならどなたでも大歓迎。資料請求は葉書で左記へ。

〒536-0006

大阪市城東区野江2の5の19

慶佐次盛一方







**山行計画**  
(5・6月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してある場合は会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認の上申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加費等代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は連絡してください。体調の悪い友、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の関係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。傷害保険特約内容は次の通りです。(株式会社損害保険ジャパンと契約)

死亡・後遺障害保険金額	1000万円
入院保険金	5000円
通院保険金	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・水登はんを目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)  
(往復ハガキを使用)

**山行き申込み書**

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 干

氏名

会員番号  
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL  
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

**山行計画の実施と申し込みについて**

- ① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届を提出しますので、必ず実施日の7日前までに、「往復ハガキ」で申し込んでください。人数によっては事前にバスやタクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかわかりません。緊急時の連絡先、および生年月日も必ずご記入ください。
- ② 返信の案内は、実施日の10日前頃からします。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コースの状況等、何か変更になった場合に再連絡するのが大変だからです。早くから申し込み込まれた方はそれまでお待ちください。
- ③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信をいたします。返信が無い場合は、定員枠に入っていると判断してください。
- ④ グレードは、次のように決めています。
  - (初級向き) 初心者でも安全に歩けるコース (3〜4時間コース)
  - (一般向き) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける標準コース。あまり危険のない山 (5時間コース)
  - (中級向き) かなり経験を要するコース。危険な所はないが距離が長いコース (6〜7時間コース)
  - (やや健脚向き) 距離は中級だが危険な所があり、登り・下りが長くてコース (6〜7時間コース)
  - (健脚向き) 距離が長く、つらい急な登り、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ漕ぎの連続など、ハードなコース (7時間以上)
- ⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(18時以降)の当地の気象情報を見て、返信案内の判断基準により各自で判断してください。(リーダーから連絡はしません)。雨降りの嫌いな方は、雨天・小雨決行の計画には申し込まれないようにお願いします。

		6月	
期日	行先	定員	リーダー
27(例)	京都北山・香嵐池・沢ノ池・穴山・桃山		金谷
23(出)	湖西・大谷山・寒風山		高島
22(例)	大峰・クロモジ尾根・稲村ヶ岳	25	西上
17(例)	鈴鹿・山人山・七人山	*	岩野
16(出)	参詣道伊勢路・三木峠・連神坂峠	22	村田
16(出)	越前・夜叉ヶ池	15	鷺見
16(出)	紀北・荷坂峠・ツツアト峠		稲垣
12(例)	大阪南部・岩湧山	20	田中明
11(例)	台高・野江殿の頭・白倉山・大熊谷頭	*10	田中賢
10(例)	京田辺・甘南備山	30	塚元
10(例)	比良・鶴川左僕・滝山・トビ岩		秦
10(例)	六甲・摩耶山		木村
9(出)	京都北山・滝谷山・大見西尾根		村田
5(例)	生駒・生駒山上		仲谷
3(例)	三重・経ヶ峰・錫杖湖	40	村田
3(例)	鈴鹿・白鹿背山・明神山・高野山	*	岩野
2(出)	飛騨・猪臥山・大雨見山	20	山田
2(出)	奥美濃・白尾山	20	鷺見
2(出)	鈴鹿・高畑山・那須ヶ原山・油日岳		筒井
20(例)	湖西・駒ヶ岳	22	寺井
19(出)	美作・三ヶ上	24	木村
18(例)	若狭・大御影山	*	高島
14(例)	丹沢・塔ノ岳・丹沢山・蛭ヶ岳・檜洞丸	20	山田
14(例)	台高・弥次平峰・馬ノ鞍峰縦走	*10	田中賢
13(例)	比叡・雲立山		金谷
13(例)	鈴鹿・鳥帽子岳・三国岳	40	村田
12(出)	比良・蓬萊山・夫婦滝		秦
12(出)	越前・大佛寺山・火燈山・小倉谷山	23	森脇
10(例)	美濃・伊吹北尾根	20	鷺見
8(例)	加賀・大嵐山	24	木村
8(例)	六甲・アイロード・地獄谷西尾根		仲谷
6(例)	京都北山・核敷ヶ岳	20	田中明
4(例)	台高・迷岳・木鏡谷界隈		筒井

		5月	
期日	行先	定員	リーダー
30(例)	比叡・雲立山		金谷
28(例)	台高・弥次平峰・馬ノ鞍峰縦走	*10	田中賢
26(出)	丹沢・塔ノ岳・丹沢山・蛭ヶ岳・檜洞丸	20	山田
26(出)	若狭・大御影山	*	高島
24(例)	美作・三ヶ上	24	木村
21(例)	湖西・駒ヶ岳	22	寺井
20(例)	鈴鹿・太尾・電ヶ岳	*	岩野
19(出)	南勢・五ヶ所浅間山・馬山	*	稲垣
18(例)	台高・木提山・伊勢辻山	25	西上
14(例)	奥美濃・金草谷・金草岳	*6	田中賢
13(例)	鈴鹿・鳥帽子岳・三国岳	40	村田
13(例)	比良・蓬萊山・夫婦滝		秦
12(出)	越前・大佛寺山・火燈山・小倉谷山	23	森脇
12(出)	美濃・伊吹北尾根	20	鷺見
10(例)	加賀・大嵐山	24	木村
8(例)	六甲・アイロード・地獄谷西尾根		仲谷
8(例)	京都北山・核敷ヶ岳	20	田中明
6(例)	鈴鹿・高取山・猿ヶ岳・高畑	*	岩野
4(例)	台高・迷岳・木鏡谷界隈		筒井

\* ロマイカー山行



鈴鹿遊山31 (台高初夏の蘭遊会  
台高・迷岳と木椈谷界隈)

期日 5月4日(祝)5日(祝)  
1泊(テント)2日  
集合 (4日) 蓮ダム8時00分  
(4日) スマール・迷ノ  
口にダイレクト・迷岳  
唐谷・スマール(テント  
泊)  
(5日) スマール(車)  
高見トンネル東口・木椈  
谷・地蔵谷・伊勢江山  
馬場・木椈谷・高見ト  
ンネル東口(解散)  
費用 交通費等各自、参加費3  
00円  
地図 昭文社「大台ヶ原」  
係 ◎簡井亮治  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行

4日は迷岳の迷い窪を徹底散策し、5日は木椈谷のブナ巨木を巡る(木椈谷界隈は土地に詳しい方に案内予定)。\*5日のみ参加の方は、高見トンネル東口に8時00分に集合ください。雨天中止

鈴鹿を歩く263  
高取山・猿ヶ山・高畑

期日 5月6日(日) 日帰り  
集合 河内線寺院前広場8時30分  
コース 広場→入谷→高取山→猿ヶ山→高畑→広場(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」  
係 ◎岩野 明 ○山田景三  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行

初めてヤマシヤクヤクなどの春の山野草を求め、この山米をのんびり歩きます。雨天中止

タ岳→ナベクロ峠→長谷

林道終点→ゲート→大森キャンプ場→薬師峠→岩屋山→薬師峠→志明院→岩屋橋(バス)北大路駅(解散17時45分頃)からバス代  
費用 約1200円(出町柳駅からバス代)  
地図 昭文社「京都北山」  
申込み ◎田中 明  
HPからメールのみ受付  
<http://hana04.hp.infoseek.co.jp>  
\*定員20名(会費に限り)

新緑の北山、ヤマシヤクヤク、クリソウなどの花を楽しみます。長谷は相当に荒れた谷道です。その積もりでお申し込みください。雨天中止

モンドポイント→地蔵谷

西尾根→神鉄大池駅(解散15時20分頃)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「六甲・摩耶・有馬」  
申込み ◎仲谷礼詞 ○沖 伸  
〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
表から裏へ六甲を縦走します。コパノミンパツジが咲く、地蔵谷西尾根をくだります。雨天中止  
ファミリィハイイク103  
加賀・大嵐山(初級向き)  
期日 5月10日(日) 日帰り  
集合 JR新大阪駅1階正面口7時00分  
コース 新大阪駅(バス)大嵐山園地→百合谷峠→ミスバシウ園→森林浴の森→大嵐山大嵐山園地(バス)新大阪駅(解散)  
費用 約5000円(バス代)  
地図 2万5千円 白峰  
申込み ◎木村太郎  
〒56510854  
吹田市桃山台1の2のB12の209 木村太郎まで

スのりば7時40分  
京都駅(バス)時山キャンプ場→鉄塔→三國岳分岐→鳥帽子→三國岳→鞍掛峠トンネル東口(バス)京都駅(解散18時30分頃)  
費用 約3000円(バス代)  
地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」  
係 ◎村田智俊 ○安倉止勝  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで  
\*定員40名  
大群落のシヤクナゲの開化に合わせて鳥帽子岳へ。午後は三國岳へ縦走して鞍掛峠へくだる。小雨決行

\*定員24名(会費に限り)

白山前衛峰のミズバシヨウを訪ねる。入山禁止の時は越前・取立山に変更します。雨天中止

自然観察山行231  
美濃・伊吹北尾根(一般向き)  
期日 5月12日(日) 日帰り  
集合 JR大垣駅9時00分  
コース 大垣駅(バス)国見峠→国見岳→大笠山→御座峰→静馬ヶ原→笹又→さざれ石公園(バス)大垣駅(解散)  
費用 約4000円(大垣駅からバス代等)  
地図 2万5千円 美東・関ヶ原係 ◎鷺見守康  
申込み 〒50410828  
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名(申込状況により減員あり)  
春の伊吹北尾根フラワートレッキング。小雨決行

経前  
大佛登山・火燈山から小倉谷山  
(一般向き)  
期日 5月12日(日) 13日(日)

1泊2日

集合 (12日) JR京都駅八条口団体バスのりば8時20分  
コース (12日) 京都駅(バス)永泉寺ダム→大佛寺山登山口→虎斑滝分岐→大佛寺跡→大佛寺山(谷掛越)→永平寺ダム(バス)丸岡温泉「たけくらべ」(泊)  
(13日) 宿→火燈山登山口→火燈山→小倉谷山→富士写ヶ岳→大内峠(バス)「たけくらべ」(入浴・バス)京都駅(解散19時頃)  
費用 約23000円(バス・宿泊代等)  
地図 2万5千円 山士・永平寺・丸岡・山中・経前中川係 ◎森崎貞義 ○磯野重治  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員23名(会費に限り)

道元禪師ゆかりの大佛登山へ登り、2日目は火燈山から小倉谷山富士写ヶ岳へ縦走する。白山山系

雨天決行

比良を歩く58  
蓬萊山から夫婦滝(一般向き)  
期日 5月13日(日) 日帰り  
集合 JR志賀駅前バスのりば9時00分(9時02分発「びわ湖パレイ」行きに(乗車))  
コース 志賀駅(バス)びわ湖パレイ前(ゴンドラ)打見山→蓬萊山→滝平→辻谷→夫婦滝→辻谷→木戸峠→クロトノハゲ→天狗杉→志賀駅(解散16時30分頃)\*步行5時間30分  
費用 約2400円(京都からバス代)  
地図 2万5千円「比良山系」昭文社「比良山系」  
申込み ◎秦 康夫  
〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
びわ湖パレイのスイセンが見頃だと思えます。雨天中止

鈴鹿・鳥帽子岳から三國岳  
期日 5月13日(日) 日帰り  
集合 JR京都駅八条口団体バ

スのりば7時40分

京都駅(バス)時山キャンプ場→鉄塔→三國岳分岐→鳥帽子→三國岳→鞍掛峠トンネル東口(バス)京都駅(解散18時30分頃)  
費用 約3000円(バス代)  
地図 昭文社「御在所・雲仙・伊吹」  
係 ◎村田智俊 ○安倉止勝  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで  
\*定員40名  
大群落のシヤクナゲの開化に合わせて鳥帽子岳へ。午後は三國岳へ縦走して鞍掛峠へくだる。小雨決行

奥美濃・金草谷から金草岳  
(健脚向き以上)  
期日 5月14日(明)5月15日(祝)  
前夜発日帰り  
集合 (14日) 近鉄樺太が丘駅東口22時10分/JRR米原駅東口22時30分/宇ヶ平石碑前24時00分(泊)  
コース (15日) 田倉川上流シヤ



平(車・高倉林道経由)  
金草谷合入一金草谷一金  
草岳(往路)一金草谷  
出合(解散)  
費用 交通費各自・保険対象外  
地図 2万5千ニ古木  
申込み ◎山中賢治○伊藤啓久男  
〒51810626  
名振市栲杖が丘6の2の  
18 田中賢治まで  
\*6名程度(会費に限る)  
\*マイカー山行(至若干名  
乗合可能)

金草谷はロープの必要な谷では  
ありませんが、奥美濃特有の激烈  
なやぶ清など、通常の健脚向き  
コースとは一線を画する体力が必  
要となります。参加受け入れ可否  
は係にこ一任ください。沢タビ必  
要。小雨決行

台高 木俣山から伊勢辻山  
(中級向き)  
期日 5月18日(日) 日帰り  
集合 近鉄榎原神宮前駅中央口  
8時05分  
コース 榎原神宮前駅(バス)展  
望休憩所―木俣林道―登  
山口―木俣山―馬場―  
伊勢辻山―三度小俣辻―

大又(バス)榎原神宮前  
駅(解散18時頃)  
費用 約2700円(バス代)  
地図 昭文社「大合ヶ原」  
◎西上利和○南川和佳子  
○木村 豊  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員25名  
昨年、雨天中止したコースのり  
ベンジ山行、小雨決行

三重の山96  
南勢・五ヶ所浅間山と馬山  
(一般向き)  
期日 5月19日(日) 日帰り  
集合 伊勢道玉城インター・コ  
ンビニ駐車場9時00分  
コース コンビニ(車・サニーロー  
ド)五ヶ所・愛洲の館―  
五ヶ所浅間山・愛洲の館  
―馬山・愛洲の館(解散  
15時30分頃)  
費用 1500円  
地図 2万5千ニ五ヶ所浦  
◎稲垣逸夫  
申込み 〒51910311  
鈴鹿市大久保町2065  
稲垣逸夫まで

展望の山31  
丹沢・塔ノ岳から丹沢山・蛭ヶ  
岳・檜洞丸縦走 (一般向き)  
期日 5月26日(土) 27日(日)  
1泊2日  
集合 ◎26日 名古屋地下鉄東  
山線上狂駅6時45分(J  
R長島駅6時10分)  
コース ◎26日 上社駅(車)秦  
野中井インター(車)や  
びつ峠―塔ノ岳―丹沢山  
(泊)  
◎27日 丹沢山―蛭ヶ岳  
―檜洞丸―西丹沢(車・  
入浴)大井松田インター  
(車)上社駅(解散)  
費用 約20000円(車・宿  
泊・入浴代・参加費等)  
地図 昭文社「大合ヶ原」  
◎山中賢治  
申込み 〒50310535  
海津市南濃町松山624の19  
山田明男まで  
\*定員20名(車はレンタ  
カーを使用)  
昨年は大倉尾根から丹沢山を往  
復しましたが、今年は塔ノ岳から  
縦走。シロヤシオが咲いていれば  
よいですね。雨天決行(コース変  
更あり)

\*マイカー山行  
標高1784の五ヶ所浅間山  
198・9の馬山、共に低山な  
がら展望抜群。雨天決行  
鈴鹿を歩く264  
太尾・竜ヶ岳(やや健脚向き)  
期日 5月20日(日) 日帰り  
集合 国道421号線石神峠西  
白谷峠取付広場8時30分  
コース 広場―白谷峠―太尾長池  
―白谷峠―白谷頭ガレ  
場―竜ヶ岳西斜面トラバ  
ース―大井谷―源流―ク  
ラー電ヶ岳―広場(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・雲仙・  
伊吹」  
◎岩野 明 ○山田景三  
◎後藤康幸  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行

台高 北殿川源流大黒北尾根か  
ら弥次平峰・馬ノ鞍峰縦走  
(健脚向き)  
期日 5月28日(明後) 29日(火)  
前夜発日帰り  
集合 ◎28日 近鉄榎原駅前21  
時10分/大迫ダムサイト  
22時30分  
コース ◎28日 集合地(車)明  
神出合(テント泊)  
◎29日 明神出合―北殿  
林道終点―大黒北尾根―  
弥次平峰―馬ノ鞍峰―カ  
クシ平―明神出合(解散)  
費用 交通費各自  
地図 ◎田中賢治○岡平くみ子  
申込み 〒51810626  
名振市栲杖が丘6の2の  
18 田中賢治まで  
\*マイカー山行  
\*定員10名(4名まで乗  
合可能。希望者はその  
旨明記ください)  
北殿川を起点に台高中央部の樹  
林の山を巡ります。ヒル・マムシ  
に要注意! 小雨決行

静かなブナ林のコースです。駒  
ヶ岳山頂から東側は展望が良い。  
雨天中止

平白ふれあいハイク63  
湖西・駒ヶ岳(一般向き)  
期日 5月21日(日) 日帰り  
集合 JR京都駅八条口団体バ  
スのりば7時15分  
コース 京都駅(バス)無ノ畑―  
池原山―P744―駒ヶ  
岳―西谷―木地山(バス  
京都駅(解散)7時30分頃  
費用 約3000円(バス代)  
地図 昭文社「京都北山」  
◎寺井恒夫  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員22名

フアミリーハイク104  
美作・三ヶ上(初級向き)  
期日 5月24日(日) 日帰り  
集合 JR新大阪駅1階正面口  
7時30分  
コース 新大阪駅(バス)上斎原  
村役場―寺ヶ原―放牧場  
跡―三ヶ上―村役場(バ  
ス)上斎原温泉(バス)  
新大阪駅(解散)

台高 北殿川源流大黒北尾根か  
ら弥次平峰・馬ノ鞍峰縦走  
(健脚向き)  
期日 5月30日(日) 日帰り  
集合 京都駅本駅観光案内所前  
9時15分(JR比叡山坂  
本駅8時58分着で)  
コース 坂本駅―日吉大社―日吉  
東照宮―美立山東尾根―  
蓬萊峯(滝)滝―美立山―  
紀貫之墓(荘園)―ケ―  
ブル延暦寺駅―無動寺  
(明王堂)―無道寺谷道  
―平小倉林道―京阪松の  
馬場駅(解散15時頃)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「京都北山」  
◎金谷 昭  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
開発の進んだ比較山でも、まだ  
まだ静かな山が楽しめます。あま  
り知られてない鎌ヶ滝、蓬萊峯に  
も立ち寄ります。雨天中止

費用 約4500円(バス代)  
地図 2万5千ニ上斎原  
係 ◎木村太郎  
申込み 〒56510854  
吹田市桃山台1の2のB  
12の209 木村太郎まで  
\*定員24名(会費に限る)  
アカモノの白い花、ヤマツツ  
ジの赤い花、役行者像が鎮座す  
る花の多い霊峰に登る。  
雨天中止

若狭の山・大御影山(一般向き)  
期日 5月26日(日) 日帰り  
集合 美浜町役場9時00分  
コース 谷―大御影山―ハゲノ谷  
―溪流の里(解散)  
費用 交通費各自  
地図 2万5千ニ三方・熊川  
係 ◎高島伸浩  
申込み 〒61010121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行

昨年紅葉の季節に歩き、「新緑  
の頃にも」とのリクエストにお応  
えし、初夏の季節にも登ってみま  
す。雨天決行

台高 北殿川源流大黒北尾根か  
ら弥次平峰・馬ノ鞍峰縦走  
(健脚向き)  
期日 5月28日(明後) 29日(火)  
前夜発日帰り  
集合 ◎28日 近鉄榎原駅前21  
時10分/大迫ダムサイト  
22時30分  
コース ◎28日 集合地(車)明  
神出合(テント泊)  
◎29日 明神出合―北殿  
林道終点―大黒北尾根―  
弥次平峰―馬ノ鞍峰―カ  
クシ平―明神出合(解散)  
費用 交通費各自  
地図 ◎田中賢治○岡平くみ子  
申込み 〒51810626  
名振市栲杖が丘6の2の  
18 田中賢治まで  
\*マイカー山行  
\*定員10名(4名まで乗  
合可能。希望者はその  
旨明記ください)  
北殿川を起点に台高中央部の樹  
林の山を巡ります。ヒル・マムシ  
に要注意! 小雨決行

昨年紅葉の季節に歩き、「新緑  
の頃にも」とのリクエストにお応  
えし、初夏の季節にも登ってみま  
す。雨天決行

台高 北殿川源流大黒北尾根か  
ら弥次平峰・馬ノ鞍峰縦走  
(健脚向き)  
期日 5月28日(明後) 29日(火)  
前夜発日帰り  
集合 ◎28日 近鉄榎原駅前21  
時10分/大迫ダムサイト  
22時30分  
コース ◎28日 集合地(車)明  
神出合(テント泊)  
◎29日 明神出合―北殿  
林道終点―大黒北尾根―  
弥次平峰―馬ノ鞍峰―カ  
クシ平―明神出合(解散)  
費用 交通費各自  
地図 ◎田中賢治○岡平くみ子  
申込み 〒51810626  
名振市栲杖が丘6の2の  
18 田中賢治まで  
\*マイカー山行  
\*定員10名(4名まで乗  
合可能。希望者はその  
旨明記ください)  
北殿川を起点に台高中央部の樹  
林の山を巡ります。ヒル・マムシ  
に要注意! 小雨決行

昨年紅葉の季節に歩き、「新緑  
の頃にも」とのリクエストにお応  
えし、初夏の季節にも登ってみま  
す。雨天決行

台高 北殿川源流大黒北尾根か  
ら弥次平峰・馬ノ鞍峰縦走  
(健脚向き)  
期日 5月28日(明後) 29日(火)  
前夜発日帰り  
集合 ◎28日 近鉄榎原駅前21  
時10分/大迫ダムサイト  
22時30分  
コース ◎28日 集合地(車)明  
神出合(テント泊)  
◎29日 明神出合―北殿  
林道終点―大黒北尾根―  
弥次平峰―馬ノ鞍峰―カ  
クシ平―明神出合(解散)  
費用 交通費各自  
地図 ◎田中賢治○岡平くみ子  
申込み 〒51810626  
名振市栲杖が丘6の2の  
18 田中賢治まで  
\*マイカー山行  
\*定員10名(4名まで乗  
合可能。希望者はその  
旨明記ください)  
北殿川を起点に台高中央部の樹  
林の山を巡ります。ヒル・マムシ  
に要注意! 小雨決行

昨年紅葉の季節に歩き、「新緑  
の頃にも」とのリクエストにお応  
えし、初夏の季節にも登ってみま  
す。雨天決行



コース 関道の駅(車) 鈴鹿峠

(車デポ) 高畑山 那須ヶ原山 油日岳 柘植駅(電車) 関駅(車) 向取(解散)

費用 交通費各自・参加費300円  
地図 関文社「御在所・雲梯・伊吹」  
係 ◎高井克浩  
申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10

期日 6月2日(出) 日帰り  
集合 JR岐阜駅7時00分  
コース 岐阜駅(バス) 白尾スキー場駐車場(バス) 終点 白尾山(バス) リフト終点 駐車場(バス) 岐阜駅(解散)

費用 約4000円(岐阜駅からバス代等)  
地図 2万5千 那留・大鷲 ◎鷺見守康

自然観察山行232  
奥美濃・白尾山(一般向き)  
期日 6月2日(出) 日帰り  
集合 JR岐阜駅7時00分  
コース 岐阜駅(バス) 白尾スキー場駐車場(バス) リフト終点 白尾山(バス) リフト終点 駐車場(バス) 岐阜駅(解散)

費用 約4000円(岐阜駅からバス代等)  
地図 2万5千 那留・大鷲 ◎鷺見守康

申込み 〒50410828 各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで

\*定員20名(申込状況により減員あり)  
かつてのやぶ山を訪ねます。集合時間が早くなります。小雨決行  
展望の山32  
飛騨・猪臥山と大南見山  
期日 6月2日(出) 3日(回) 1泊2日  
集合 (2日) JR西岐阜駅8時00分  
コース (2日) 西岐阜駅(車) 清見インター(車) 登山口(車) 入浴 上室の民宿(泊)

登山口(車) 入浴 上室の民宿(泊)  
(3日) 民宿(車) 京都大学附属天文台への林道 大南見山(1等点) (往復) 林道(車) 各務原インター(車) 西岐阜駅(解散)

費用 約17000円(車・宿泊代等)  
地図 2万5千 船津・猪臥山・飛騨古川

野谷峠 小野谷口(バス) 出町橋駅(解散18時頃)  
費用 約1600円(出町橋駅からバス代)  
地図 昭文社「京都北山」  
係 ◎村田智俊 ◎安倉止勝 ◎長比裕美  
申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

無雪期に大見尾根を歩くのは初めて。やぶはあるのか? 楽しんでみです(本誌55ページ参照)。雨天中止  
ファミリィハイク105  
六甲・摩耶山(一般向き)  
期日 6月10日(回) 日帰り  
集合 阪急王子公園駅9時40分  
コース 王子公園駅 摩耶ヶ丘 ルナ 天上寺跡 摩耶山 梅屋台 桜谷道 トエン イタコロシ市ヶ原 新神戸駅(解散)

費用 約8000円(梅田駅から) 2万5千 神戸首飾  
地図 ◎木村太郎  
申込み 〒56510854 吹田市桃山台1の2のB 12の209 木村太郎まで

申込み 〒50310535 海津市南瀬町松山6の19 山田明男まで

\*定員20名(車はレンタカーを使用)  
竹の子(ネマガリタケ)採りを目的に、干支の山と一等三角点の山を目指す。竹の子採りをする方は、熊避けの鈴を持参ください。雨天決行  
鈴鹿を歩く263  
白鹿青山・明神山・高野山  
期日 6月3日(回) 日帰り  
集合 国道421号岐阜東近江市水原寺支所8時30分  
コース 水原寺 P6221 P8521 白鹿青山 明神山 高野山 水原寺(解散)

費用 交通費各自  
地図 昭文社「御在所・雲梯・伊吹」  
係 ◎岩野 明 ◎山田登三 ◎後藤康幸  
申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行

西六甲の主峰八州嶺から1千ワドルの景に酔い、アジサイの季節に水辺の道をたどる。雨天中止  
比良を歩く59  
鶴川左股から滝山・トビ岩(一般向き)  
期日 6月10日(回) 日帰り  
集合 JR北小松駅9時00分  
コース 北小松駅 鶴川出合 (鶴川左股) 滝山 オトシへの分岐 扇の間 トビ岩 北小松ヒル 北小松駅(解散16時頃)  
\*歩行5時間30分  
費用 約13000円(京都から) 2万5千 北小松  
地図 昭文社「比良山系」  
係 ◎秦 康夫  
申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

水量が多い場合、徒渉にやや難渋する所があります。天候にややればトビ岩からの眺めは絶景。雨天中止  
地図 関道山行81  
期日 6月10日(回) 日帰り  
集合 JR京田辺駅9時30分  
\*近鉄新田辺駅より徒歩10分  
コース 京田辺駅 一休寺 新小學校前 登山口 駐車場 大津駅 2等三角点 バス停 京田辺駅(解散) 大津駅 京田辺駅(解散)

費用 約12000円(大阪から) 2万5千 田辺 枚方  
地図 ◎塚元一彦 ◎中村 登  
申込み 〒53610008 大阪市城東区園田4の14の9の901 塚元一彦まで  
\*定員30人  
新ハイキング関西支部と合同 南山城の小々な山ですが、頂上からの眺めは抜群。梅雨に入る前にのんびり歩いて、地形図とコンパスワークの勉強をしましょう。シルバード型コンパスを持参ください。初心者歓迎。雨天中止

台高・野江校の頭から白雲山 大熊谷頭縦走 (健脚向き)  
期日 6月11日(明後) 12日(火) 前夜発日帰り  
集合 (11日) 近鉄橋原駅前21時10分 連タムサイト22時30分

永源寺から日本コバへ続く尾根を突き上げ、P852から白鹿青山、明神山、高野山と巡ります。覚悟は覚悟の横を歩く秘湯のルートです。雨天中止

三重・経ヶ峰から錫杖湖へ (一般向き)  
期日 6月3日(回) 日帰り  
集合 近鉄大和八木駅北口広場8時00分  
コース 大和八木駅(バス) 仲之郷菅原神社前 林道終点 山出道分岐点 経ヶ峰 滝屋小屋 笹子川林道(バス) 錫杖湖(バス) 天理駅(解散18時頃)

費用 約3000円(バス代)  
地図 5万 津西部  
係 ◎村田智俊 ◎安倉止勝 ◎長比裕美  
申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで  
\*定員40名  
伊勢湾から清見山原・鈴鹿の山々まで360度の大パノラマが展開する経ヶ峰。下山は錫杖湖を目指す。小雨決行

伊勢湾から清見山原・鈴鹿の山々まで360度の大パノラマが展開する経ヶ峰。下山は錫杖湖を目指す。小雨決行

伊勢湾から清見山原・鈴鹿の山々まで360度の大パノラマが展開する経ヶ峰。下山は錫杖湖を目指す。小雨決行

伊勢湾から清見山原・鈴鹿の山々まで360度の大パノラマが展開する経ヶ峰。下山は錫杖湖を目指す。小雨決行

伊勢湾から清見山原・鈴鹿の山々まで360度の大パノラマが展開する経ヶ峰。下山は錫杖湖を目指す。小雨決行

火曜ハイク33

生駒・生駒山上(初級向き)  
期日 6月5日(火) 日帰り  
集合 近鉄石切駅10時00分  
コース 石切駅 興法寺 生駒山 (スカイランドいこま) 一枚岡公園 枚岡神社 一枚岡駅(解散14時30分頃)

費用 交通費各自  
地図 2万5千 生駒山  
係 ◎渋谷弘司 ◎沖 伸  
申込み 〒61010121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

石切駅から興法寺への参道を登ります。山上公園の中に1等三角点があり、大阪市内の展望がすばらしい。雨天中止

やぶ濃き山行⑩  
京都北山  
花背峠から滝谷山・大見尾根 (中級向き)

期日 6月9日(出) 日帰り  
集合 京阪出町橋駅7時50分  
京都バス「広河原行き」に乗り

コース 出町橋駅(バス) 花背峠 大見尾根 滝谷山 大見西尾根 P877 小



コース (11日) 蓮ダムサイト (テント泊)

費用 約2500円(難波からタクシー・バス代等)

地図 2万5千:岩崩山

係 田中明

申込み H.P.からメールのみ受付

http://hana04.jp infoseek.co.jp

\*定員20名

薄ピンクの可憐なイナモリソウ

を初めて目にすれば感動間違いなし

し。開花期に合えば多数のサユリも楽しめますが...

雨天中止

樹林をのんびり歩きます

ブナの新緑を求め、セラビの

大峰 クロモジ尾根から稲村ヶ岳

駅(解散17時頃)

費用 約2500円(難波からタクシー・バス代等)

地図 2万5千:岩崩山

係 田中明

申込み H.P.からメールのみ受付

http://hana04.jp infoseek.co.jp

\*定員20名

薄ピンクの可憐なイナモリソウ

を初めて目にすれば感動間違いなし

し。開花期に合えば多数のサユリも楽しめますが...

雨天中止

樹林をのんびり歩きます

ブナの新緑を求め、セラビの

大峰 クロモジ尾根から稲村ヶ岳

熊野古道伊勢路の二コースを1日でまとめて歩きます(一部タクシー使用)。雨天決行

自然観察山行233

期日 6月16日(出) 日帰り

集合 JR大垣駅9時00分

コース 大垣駅(バス)池ノ又林

道終点(池ノ又ノ滝)夜叉ヶ池(バス)大垣駅(解散)

費用 約4000円(大垣駅からバス代等)

地図 2万5千:美濃広瀬・美濃川上・広野

係 鷺見守康

申込み 〒504-0828

各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで

\*定員15名(申込状況により減員あり)

初夏の夜叉ヶ池を訪ねます。雨天決行

紀伊山地の参詣道を歩く14

期日 6月16日(出)17日(泊)2泊

集合 (16日) 近鉄大和八木駅

コース 北口広場8時00分

(16日) 大和八木駅(バス)三木里三木峠(バス)

大峠(羽後峠)直田飛鳥神社(ホテル尾鷲シーサイドビュー) (泊)

(17日) 宿(船で貴田湾内・棚ヶ崎遊覧)宿(浦母峠)曾根次郎坂・太郎坂(太郎坂茶屋)二木島峠(蓬野坂峠)新鹿(バス)天理駅(解散17時頃)

費用 約19000円(八木駅からバス・宿泊代等)

地図 当日詳細図配布

係 村田智俊 ○安倉止勝

申込み 〒610-0121

城隍市寺田大群10の10 村田智俊まで

\*定員22名(会員に限る)

熊野灘を眺めながら海岸沿いの山々の峰を越え、三木里から新鹿まで歩く。宿のサービスで、大型漁船を早朝から運行(約1時間)し、昔の、海の上道であった棚ヶ崎の柱状地層の大絶壁などを遊

覽させてくれるそうで、これも楽しみです。雨天決行

鈴鹿を歩く266

山入山・七人山(一般向き)

期日 6月17日(出) 日帰り

集合 武平峠西広場8時30分

コース 武平峠―郡界尾根―沢峠―イイナのコーバ―入寄りのコーバ―七人山―沢谷―武平峠(解散)

費用 交通費各自

地図 昭文社『御在所・雲仙・伊吹』

コース 標原神宮前駅(バス)登山口(クロモジ尾根)大日岳(レット)稲村ヶ岳

費用 約2900円(バス代)

地図 昭文社『大峰山脈』

係 西上利和 ○前川和佳子

申込み 〒610-0121

城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

\*定員25名

この時期なら大峰小塚とワチガインウに会えるかも。小雨決行

湖西の山

期日 6月23日(出) 日帰り

集合 JRマキノ駅9時30分

コース マキノ(車)石庭―大谷山―寒風山―緑池―石庭(解散)

費用 交通費各自

地図 2万5千:海津

係 高島伸浩

申込み 〒610-0121

城隍市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

\*定員25名

この時期なら大峰小塚とワチガインウに会えるかも。小雨決行

湖西の山

期日 6月23日(出) 日帰り

期日 10月28日(出)11月4日(泊)

集合 ○27日夜 関西空港23時00分

コース 関空(バス)乗り継ぎ

カトマンズ(泊)アンナプルナ山群展望ハイク

(ダンブス・ロッジ泊)アンナプルナナウス・ヒウンチェリ(展望ハイク)

(マジガウン・ロッジ泊)マチャブチャレ展望ハイク(ポカラ・ホテル泊)

||チトワンへ移動(ロッジ泊) ||チトワン国立公園(カトマンズ泊) ||カトマンズ・パンコク(関西空港) (解散5時30分)

費用 約31万円

申込み 問い合わせ

〒914-0076

敦賀市元町14-29

高島伸浩まで

0770(23)2443

アンナプルナ山群やマチャブチャレ展望のポカチ付きらくらくハイク。ポカラ市内観光や世界遺産の動物王国「チトワン」・野生動物見学サファリ」など盛りだくさんのお楽しみ海外山行です。



# 歩き遍路の独り言

— あなたも歩ける四国遍路みち 1200キロ —

A5判・176頁 定価1200円(税込)

後藤 典重 著



私は「歩き遍路」を十八年五月に終えて、歩いた遍路旅の喜怒哀楽など数多い思い出を日記風にまとめました。歩かなければわからない四国の素晴らしさ、地元の人々との関わりを通じた体験・体得を多くの方々にお伝えできればと思い、出版しました。

四国には、人との会話、心のふれあいなど、今忘れられている心暖まる貴重な何かが残っており、豊かな心の旅になりました。

- 第1回 おへんろを知る歩行の苦悩旅 (第1～23番)
- 第2回 土佐人の心に触れた喜びの旅 (第24～36番)
- 第3回 猛暑を体験し、克服した努力の旅 (第37～40番)
- 第4回 紅葉を楽しみ、歩行を見直す旅 (第41～59番)
- 第5回 早春に芽吹きを求めた触れ合い旅 (第60～83番)
- 第6回 新緑と花の美しい結願・感激の旅 (第84～88番と高野山)

その他、歩くための参考になる四国遍路の歴史・コースタイム(距離・時間・歩数等)・宿泊先一覧(住所・電話)など必要な資料を掲載。

「遍路とは」「お接待とは」何か?と疑問に思う方、また四国遍路に興味のある方、そして「歩き遍路」を実行したい方は、是非お読みください。四国遍路を発心されるよう念願しています。

●振替でのご注文は送料当社負担  
振替00130-9-146915

**新ハイキング社**

〒114-0023 東京都北区滝野川7-5-5 Tel/Fax 03-3915-8110

## 山行報告

(1・2月号)  
新ハイキングクラブ関西

恒例の初歩き  
西播・雲田富士(辛煮会)

1月4日(休) 晴れ  
(集合) JR高野駅9:30→40  
登山口9:55→10:05 雲田富士  
10:30→40三角点11:20→鳥岩  
11:35→登山口12:00(辛煮会)  
14:10→高野駅14:30(解散)  
豊かな里と瀬戸内に出会い、暖かな日溜まりでおいしい辛煮を楽しんだ。

(参加者) 小山 輝 宮西和子  
石田哲二 布施清美 田中三恵子  
栗橋哲子 岡田 昇 岡田恵美子  
金谷 昭 島田孝子 野里マツ代  
大和 紘 松尾麗子 友田美保子  
馬龍忠男 小林豊子 後藤哲也子  
兼田幸子 中島 隆 船本裕巳子  
小田朝子 楠原良彦 市井ユリエ  
渡辺一雅 小林博子 前田幸子  
塚元一彦 中川節子 岩城豊子  
松本忠雄 青木一雄 光川一美子  
山口和則 山口

◎須磨岡 輯 (計35名)

薬師峠から棧敷ヶ岳  
(京都北山歩き1-1)  
1月4日(休) 晴れ

(集合) 京阪出町柳駅8:00→10  
(バス) 岩屋橋9:08→30 志明  
院9:50→10:00 薬師峠10:20  
→30→都ながめの岩11:30→鉄塔  
11:40→棧敷ヶ岳11:50(昼食)  
12:40→ナベクロ峠上の鉄塔広場  
13:00→10→棧敷ヶ岳13:45→55  
→西谷分岐15:00→西谷林道→岩  
屋橋15:45→17:00(バス・車内  
解散) 出町柳駅18:00

山頂にうっすらと残雪があるだけ、道中に雪は無く快適な登山ができた。都ながめの岩付近は東南方向が伐採されていて、京都市街が大きく広がっていた。時間に余裕があったのでナベクロ峠の鉄塔まで往復した。帰路は西谷林道、バス時間待ちの間、料理店の東屋で焚き火を囲んで1時間余、談話に花が咲いた。

(参加者) 小奥大直 道平まわみ  
傍田治美 傍田昌子 水見真砂子  
三井紘一 吉本博暢 吉本巳代子  
橋本裕子 岡崎智子 渡部和美  
高橋善治 志水明美 藤野つるみ

宮野哲郎 春名孝子 伊東ナナ子  
辻 陽子 山崎義治 山崎多恵子  
川上久堅 蓮井洋子 萩野暢子  
吉野栄子 山根弘美 後藤純子  
村井寿和 楠部和代 岩本彩子  
中尾博子 多賀周二 多賀久子  
井上恭子 山藤勝美 山藤 隆  
◎真比裕美 ◎村田智俊(計37名)

丹沢・丹沢山と塔ノ岳  
(花巡り山行36・富士見山行③)  
1月6日(休)→8日(休)  
前後発1泊2日

6日(集合) JR大垣駅23:19発「ムーンライトながら」乗車  
7日 くもり(電車) JR小田原駅5:51→6:02(電車) 秦野駅6:26→35(バス) 霧毛7:00→ヤビツ峠7:20→三ノ塔10:00(昼食) 12:50→塔ノ岳13:40→55→丹沢山15:05→17→塔ノ岳16:12(尊仏山荘泊)  
8日 晴れ 山荘7:00→金冷山8:25→40→後沢乗越9:25→35→水場9:50→55→二俣10:25→30→大倉11:30(昼食) 12:40(バス) 小田急沢沢駅12:55(電車) 京橋駅21:50(車中解散)  
低気圧が大暴れし、塔ノ岳から

丹沢山への2時間の往復にはてぞずったが、翌朝は日の出に染まる曙色の富士山に感動し、鍋割山からも目の前の大きな富士山に見とれた。

(参加者) 細野欽也 前田喜久子  
小松志信 山根弘美 萩野暢子  
中川光郎 大西裕郎 片岡志賀子  
◎堀江房盛 ◎田中 明(計19名)

白山北方・ブナオ山と中宮山  
(展望の山26・新年山行)  
1月7日(休)→8日(休) 1泊2日

8日 雪(集合) JR関ヶ原駅7:50→JR木之本駅8:35(車) 一里野温泉11:30(車) ブナオ山観察舎12:00(昼食) 13:00→観察・ミニ観察亭 観察舎14:00→30(車) 宿9:45(泊)  
8日 雪 宿9:45→中宮発電所10:30→送水亭上部アール11:30→45→送水亭下部12:00 宿12:45(昼食) 13:50(車) JR米原駅17:30(車) JR大垣駅18:30(解散)

4～5日の予定を変更したが、大雪と強風になり、7日はブナオ山観察舎だけにして、ミニ観察会では附近にカモシカを見た。8日も大雪でブナオ山取付点の送水亭



を上った所で引き返した。

(参加者) 朝倉松雄 佐古田文字  
林 正義 高原芳彦 武藤由美子  
佐藤文枝 山形 明 森 美香子  
◎山田明男

(7日のみ) 山田妙子 小林一世  
伊藤重英子 生越重英子  
長坂佐知子 山野志保江 (計15名)

高取山・猿ヶ山・高畑

(鈴鹿を歩く255)

1月7日(日) 雪のちくもり  
(集合) 河内観音院広場8・25  
入谷10・15 高取山10・50 猿ヶ  
山手前鞍部11・50 (昼食) 12・15  
猿ヶ山12・30 高畑13・30 河  
内中村13・40 寺院広場14・00  
(解散)

全国大荒れ予報のなかでの雪山  
登山となり、降りしきる風雪で昼  
食時は悪戦苦闘したが、その後は  
穏やかになった。猿ヶ山・高畑の  
頂上部は広大で、カルスト台地特  
有のカレンフェルトが点在し、銀  
世界と相まって鈴鹿らしい情景を  
存分に堪能した。再度歩いてみた  
い衝動に駆られた。

(参加者) 服部 典 北村 稔  
稲津謙治 吉村 昭 岩本彩子  
磯部 純 栗本敏夫 奥野太一郎

武村千鶴 神野孝允 網木美恵子  
谷 守 一 芝義雄 一 芝美知子  
榎田勝利 ○後藤康幸  
◎山田景三 ◎岩野 明 (計18名)

駿馬から天ヶ岳

(京都北山歩き118)

1月7日(日) ◎村田智俊  
\*強風・猛吹雪との予報で中止し  
ました。

美作・那岐山

1月8日(日) 晴れ  
(集合) JR西明石駅7・30 (バ  
ス) 駐車場9・30 45 山道入口  
10・15 大神岩11・02 那岐山三  
角点11・40 遊覧小屋11・45 (昼  
食) 12・40 那岐山最高点12・50  
一善提寺コース分岐13・03 五合  
目13・30 P1010 13・50  
コース入口 駐車場15・00 (バス  
湯郷温泉15・30 (入浴) 16・30  
(バス) 西明石駅19・00 (解散)

強風の名残が報道されるなか、  
気をモミながらの出発。岡山県に  
入るとすっきり良い天気。雪を頂  
いた那岐山が眩しい。トレースの  
ある雪道を夏山ベースで登った。  
P1010へは膝トラッセルの急  
登であった。

池田 茂 ○岡平くみ子

◎田中賢治 (計14名)

醍醐寺から岩間寺

(北山ちよっと歩き85)

1月17日(日) 雨のちくもり  
(集合) 醍醐三三院9・25 女人  
堂9・35 準祇堂10・30 開山堂  
10・55 (昼食) 11・30 黒出12・  
00 清浄宮12・50 13・10 奥宮  
神社13・45 14・00 岩間山頂上  
14・15 1 岩間寺14・25 15・00  
(バス) JR右山駅15・30 (解散)

参加申込みが多かったが雨模様  
でキャンセルが多かった。小雨の  
なかを上醍醐表参道を登り、十一  
番札所に着く頃に天候は回復した。  
旧道礼道をたどり、開花し始めた  
梅林の笠取集落を経て奥宮神社、  
そして岩間山頂上から岩間寺に詣  
でた。1月例祭の寺から一同、甘  
酒接待を受けた。

(参加者) 沖 伸 君塚節子

木村 登 栗崎 隆 富田孝子  
岩本彩子 本間 隆 本間孝子  
武村千鶴 加藤浩二 宮路ちへ子  
野村 潔 上野保美 南 智恵子  
森 和久 細野敦也 平田輝美  
中村英雄 櫻島康一 河内正治  
呉山隆三 大園のり 吉田輝子

(参加者) 栗栖崇吉 池田美恵子  
馬籠忠男 山本武臣 山本令子  
竹内正子 森 瑞代 首藤育子  
西 茂子 岩崎健司 西田俊治  
西居俊弥 松村雅子 ○狩野東彦  
◎岡田 昇 ◎古賀慶一 (計16名)

京都北山・半国高山

(火曜ハイク28)

1月9日(火) くもりのち晴れ  
(集合) 小野郷バス停9・30 落  
葉神社9・50 林道終点10・20  
35 岩合峠11・15 20 半国高山  
11・45 (昼食) 12・30 供御飯峠  
13・40 作業小屋13・50 14・30  
小野郷14・40 (解散)

直前に全国的な大荒れの目が続  
いたが、北山は影響も少なく、例  
年より少ない積雪での例会となっ  
た。この山で悩まされる背丈ほど  
のササやぶは枯れて見通しよく、  
天気にも恵まれて純白の絨毯の上  
での昼食。下り道での愛宕山系の  
大展望に満足しながらの山行であっ  
た。

(参加者) 柳川常雄 木村 豊  
崎山悦子 宮西和子 若林文夫  
栗栖君子 志水明美 松尾麗子  
須藤浩子 堀内預智 大林 進  
渡部和美 岩佐 修 岩本彩子

谷 守 石原君子 友田美保子  
白鳥忠子 松本忠雄 光川二美子  
中川光郎 本家流子 中嶋日出男  
栗西孝子 ◎金谷 昭 (計34名)

◎金谷 昭 (計34名)

比較 伊香立越から水井山  
(平日ふれあいハイク61)

1月18日(日) 晴れ

(集合) 京都市下鉄国際会館駅8・  
50 (バス) 新田9・22 35 伊香  
立越10・05 大尾山11・30 林道  
11・45 (昼食) 12・30 小野山13・  
10 仰木峠13・30 水井山14・15  
横高山14・40 横川越15・00 一  
登山口バス停16・00 (解散)

1月なのに防寒着も手袋も要ら  
ない暖かな日だった。ただ、全く  
雪が無いのが残念で、少しでもあ  
れば満点だったが……。

(参加者) 木本恭子 水見真砂子

大和 紘 藤 照司 神 美奈子  
岩本彩子 塚本中次 都築由美子  
植木敏子 本間 隆 野末あや子  
木内福文 加藤浩二 船本裕巳子  
秋光哲也 小栗大直 伊東ナナ子  
川上久堅 上田裕子 成川みさお  
萩野暢子 渡部和美 小坂さゆり  
志水明美 後藤純子 山盛加奈子  
妹尾正一 吉野栄子 和田直樹

川上久堅 鈴木昭一 塚本忠次  
岩村春子 本間 隆 上田久子  
後藤純子 奥田則夫 大園加代子  
武村千鶴 中尾博子 今村あやの  
和田直樹 山口和則 野末あや子  
和川節子 米山善子 佐々木孝子  
長尾一合 石原君子 小坂さゆり  
橋下公一 大東 哲 西 悦子  
青木一雄 ○村井寿和  
◎山縣勝美 ○沖 伸  
◎仲谷礼司 (計43名)

藤原岳と御池岳 (鈴鹿遊山29)

1月11日(日) 12日(日) 1泊2日  
(11日) くもり (集合) 藤原大  
目戸登山口駐車場11・00 山頂遊  
覧小屋14・00 (テント準備・観望  
16・00 (展望丘散策) 17・00 (日  
12日) くもり 遊覧小屋6・00  
1 無名峰7・00 天狗尾10・30  
頭9・20 30 木和田尾10・30 一  
藤原簡易パーキング(車) 大目戸  
駐車場12・00 (解散)

雪質も良くて遊覧小屋まで楽に  
行けた。樹氷が花咲き、明日への  
期待に胸が躍る。12日は、樹氷の  
なかを登られるままに歩き、リン  
グワンディングを体験した。時間  
は早いですが、頭陀ノ頭から木和田尾  
を下りた。

中尾博子 岡崎知子 石原君子  
大東 哲 米山善子 ◎寺井恒夫  
(計35名)

飯高・局ヶ岳 (三重の山92)

1月20日(日) 晴れ

(集合) 道の駅「飯高駅」9・30  
(車) 山荘「無醉庵」9・45 10・  
00 1局ヶ岳神社10・05 10 第三  
登山口10・45 1局ヶ岳12・25 (昼  
食) 13・15 第一登山口14・30 一  
局ヶ岳神社14・40 (解散)

急登の連続で足が引きつりそう  
だったが、頂上からの大パノラマ  
に疲れもふっとんだ。解散後、有  
志で飯高の湯で足腰回りの凝りをほ  
ぐし、無醉庵で新年会。第二次解  
散は翌日の朝食後。それぞれ自主  
山行。

(参加者) 大西規子 大西新郎  
山形 明 高原芳彦 岡本美千子  
鳥居信吾 筒井克治 森 美香子  
平 龍一 平 幸子 石田真由美  
永沼鉄治 細野敦也 亀井悦子  
川村政和 林崎 功 ◎稲垣逸夫  
(計17名)

樹氷の綿向山

1月21日(日) くもり  
(鈴鹿を歩く256)

(参加者) 鈴木 浩 鈴木友子  
山形 明 井沢重正 梶 真知子  
真島 和 真島知恵 梶川軍治  
◎筒井克治 (計9名)

曾爾・紅ヶ岳 (西南尾根か)

1月16日(火) くもり時々晴れ  
(集合) 三交バス観ノ木橋10・45  
50 滝川林道西尾根折付点11・  
10 1 紅ヶ岳12・15 (昼食) 三國ヶ  
岳往復) 13・50 1 北西尾根一タク  
ラ谷林道14・35 (車組解散) 1 中  
山峠15・00 1 三交布生バス停15・  
45 (バス) 名張駅16・25 (解散)

滝川林道脇の植林帯を急登する  
と、岩のゴロゴロしたシカの足跡  
が錯綜する。二次林帯となり、岩場  
に突き当たった所で右上へ横断す  
ると、頂上へ続く尾根になる、と  
いう紅ヶ岳頂上までの最短コース  
とにかく早く着く。頂上で鍋を囲  
んで新年会。下りは北西尾根をと  
り、基部でマイカー組は解散。パ  
ス組は北へ伊賀往還の中山峠を越  
え、雨がポツポツ降り始める頃、  
布生のバス停にたどりついた。

(参加者) 大村俊子 佐古田文字

飯田二郎 山縣勝美 梶 真知子  
真島知恵 梶原泰彦 奥出八重子  
山形 明 山口敏明 辻 陽子



(集合) 鷺王ダム広場8・20(重)  
 熊野8・30一三ヶヶ9・50一水  
 無原根11・00一鶴向山11・10一北  
 峰雪原11・20(集合)12・20一ブ  
 ナの木平12・50一塩の道峰14・10  
 一滝山谷14・40一熊野15・00(解  
 散)  
 久し振りに文三ハゲから登る。  
 樹氷を期待したが暖冬で残念。頂  
 上部のブナ原生林・珍形木、ブナ  
 の木平の厳しい雪原で春の芽吹き  
 に備えた力強い生命力に心を惹か  
 れた。昼食タイムは暖かく、白く  
 輝く御嶽・白山等の大パノラマを  
 楽しんだ。塩の道峰から熊野まで  
 37名がしっかりとトレースを残し  
 て下山した(山田記)。

(参加者) 稲津謙治 小林 桂  
 岩本彩子 小林 修 武村十鶴  
 呉比恰美 萩野暢子 櫻田勝利  
 有兼 登 宮野哲郎 南 智恵子  
 原 光一 原 幸子 中澤與司博  
 大西節郎 白木良弘 白木やす子  
 岡崎知子 北村 稔 奥野太一郎  
 柴田明美 山内玄次 伊藤賢久男  
 森村 守 網木美恵子  
 村田紀生 鶴岡真吉 鶴岡美恵子  
 高橋静治 一芝義雄 今井みよ子  
 谷 守 伊東弘隆 ○後藤康幸  
 ○山田景三 ○岩野 明(計37名)

若狭の山  
 金ヶ崎宮・天筒山  
 1月27日(日) 雨  
 (集合) J.R.教育駅10・00一金ヶ  
 崎宮11・00一天筒山休憩所12・00  
 (昼食)13・15一池見湿地14・  
 00一教育駅14・50(解散)  
 教育の町、戦国武将勢揃いの山  
 「金ヶ崎宮」、教育市民憩いの山  
 「天筒山」をたっぷり味わっても  
 らった。頂上の休憩所ではリター  
 が正月気分で大八「春の海」を演  
 奏。かまぼこの試食や教育の海産  
 物のお土産もたっぷり買っていた  
 だいた。

(参加者) 木村 豊 木本恭子  
 堀江房麿 白木良弘 白木やす子  
 繁田広美 竹内正子 船本裕巳子  
 神野孝允 谷 守 萩野美紀恵  
 岩本彩子 山根弘美 光川二美子  
 緒方由子 亀井悦子 武藤由美子  
 石原君子 中川節子 山形 明  
 巻田 晃 ○高島伸浩(計22名)  
 六甲・紅葉谷から六甲最高峰  
 1月28日(日) 晴れ  
 (集合) 神鉄有馬温泉駅8・30一  
 百開池・似落池9・40一紅葉谷コ  
 ー ス合流10・05一極楽茶屋10・45  
 一六甲山最高峰11・25(集合)12・

25一白水尾根入口12・45一白水山  
 13・15一水場14・10一舟坂橋  
 14・52一15・35(バス)宝塚駅16・  
 00(解散)  
 暖冬で期待の水湯は無かった。  
 しかし、前夜の雨が滝から上部に  
 見事な雪景色をつくり、感激した  
 最高峰ではぜんざいも食べ、白水  
 尾根を下山した。  
 (参加者) 馬籠忠男 堀原香織  
 森 瑞代 首藤育子 岩鶴健司  
 柳川常雄 山高義治 山高多恵子  
 須藤淳子 崎山悦子 村田はる江  
 竹内正子 大西節郎 前田喜久子  
 稲津謙治 和田純子 松村穂子  
 林 武保 ○岡田 昇  
 ◎古賀慶二(計20名)  
 スノーハイイク  
 美濃・貝月山  
 (自然観察山行227)  
 2月3日(日) 晴れ  
 (集合) J.R.大垣駅9・00(バス)  
 揖斐高原スキー場10・30一40一林  
 道一ふれあい山の森公園一登山口11・  
 30一40一貝月山12・35(集合)13・  
 30一1日越峰一ふれあいの森公園一  
 林道一揖斐高原スキー場15・30一  
 40(バス)池田温泉16・45(入浴  
 17・20(バス)大垣駅18・00(解

散)  
 まさに暖冬。例年に比べれば半  
 分にも満たない積雪量、フッシュ  
 が出て歩きづらいうもあつ。し  
 かし、雪の少なさと3月を思わせ  
 る穏やかな日和に恵まれ、全員が  
 登頂し、冬晴れの美しい雪山を堪  
 能した。  
 (参加者) 伊藤 直 萩野美紀恵  
 栗栖崇吉 栗栖君子 中澤與司博  
 内田康夫 木村富子 武藤由美子  
 島居信吾 西田俊治 森 美香子  
 堀江房麿 牧 和夫 山形 明  
 狩野東彦 ○鷺見守康(計16名)  
 電ヶ岳から静ヶ岳  
 2月3日(日) 晴れ  
 (集合) 宇賀溪谷合流8・00一小  
 峠9・20一電ヶ岳11・00一セツピ  
 親賀11・10一大井谷乗越12・00  
 (集合)13・00一静ヶ岳13・40一  
 大井谷乗越14・00一遠足尾根一落  
 合橋駐車場16・00一17・00(解散)  
 白竜社から小峠、電ヶ岳、セツピ  
 ライトから。湖木の竜山頂への  
 最短距離、雪が多ければ雪崩の果  
 となる斜面も邪魔な雑木で安全な  
 登りである。小雪でお目当ての電  
 セツピも可愛らしい作り、お昼も

ゆったりの陽たまり。腹こなしに  
 空身で静山頂へ散策した。帰りは  
 遠足尾根を重心に帰っての遠足帰  
 りであった。  
 (参加者) 吉村 昭 高原芳彦  
 鈴木 浩 鈴木友子 梶 真知子  
 村田紀生 吉田峰子 南 智恵子  
 伊東弘隆 堀川軍治 高田三枝子  
 真島 和 真島知恵 岡平くみ子  
 堀 寿江 佐藤文枝 伊藤喜久男  
 中井昭二 山野克美 古野美恵子  
 加藤龍夫 山田 猛 前田信明  
 ◎高井克治(計24名)

御所平(鈴鹿を歩く257)  
 2月4日(日) 晴れ  
 (集合) 黒滝集落田村谷林道入口  
 広場8・30一小太郎谷8・45一源  
 頭10・30一水無山11・00一御所平  
 11・25(集合)12・25一ヨコネ13・  
 00一田村谷林道14・00一広場15・  
 00(解散)  
 小太郎谷源頭から残雪を踏んで  
 グミの木平、水無、御所平へと快  
 適に歩く。鈴鹿の主峰がアルプス  
 のごとく映え、豪華な展望を前に  
 最高の食事を楽しんだ。ヨコネか  
 らは眺望に別れを惜みつつ一気  
 に田村谷林道に下りた。  
 (参加者) 服部 晃 稲津謙治

武村十鶴 宮野哲郎 金谷 昭  
 鈴木 浩 鈴木友子 奥野太一郎  
 大西節郎 白木良弘 白木やす子  
 村田紀生 森村 守 網木美恵子  
 岩本彩子 北村 稔 石田真由美  
 永戸鉄治 一芝義雄 一芝美知子  
 萩野暢子 栗岡克子 今井みよ子  
 櫻田勝利 伊東弘隆 ○後藤康幸  
 ○山田景三 ○岩野 明(計28名)

牛松山から明智越  
 (京都市北山歩き119)  
 2月4日(日) くもりのち晴れ  
 (集合) J.R.園田駅8・30一35一  
 保津牛松山参道口9・05一15一金  
 比羅神社10・30一牛松山一南点10・  
 40一北尾根一愛宕谷下り口11・10  
 一愛宕谷林道上の鉄塔広場11・40  
 (集合)12・30一池畔12・40一神  
 明峰への尾根分岐13・15 明智越  
 の水尾分岐鉄塔下13・40一14・00  
 一明智越一鳥居側登山口一貴船神  
 社15・10一馬堀駅15・45(解散)  
 全く雪の無い牛松山へ。北尾根  
 をくぐって愛宕谷林道の大池を見  
 た。巡拝路を伝って神明峰からの  
 尾根に登り、明智越に出て朝登った  
 下山した。明智越から出て朝登った  
 牛松山が雄大に見えた。帰路は馬  
 堀駅へ出て解散した。

(参加者) 平塚節子 馬籠忠男  
 堀内預智 和田和子 繁田広美  
 蓮井洋子 植木敏子 塚本中次  
 有兼 登 須藤淳子 秋光哲也  
 木内範文 近藤 恭 大岡加代子  
 傍田治美 傍田昌子 伊東ナナ子  
 辻 陽子 吉本博暢 吉本巳代子  
 小栗大直 山高義治 山高多恵子  
 岡崎知子 和田純子 都築由美子  
 岩佐 修 林 信男 野末あや子  
 巻田 晃 若林文夫 小坂さゆり  
 和田直樹 中川節子 崎山悦子  
 山田幸子 渡部和美 佐藤嘉彦  
 加藤浩二 岩村春子 志水明美  
 小池一郎 山根弘美 松上美代子  
 小杉薫明 妹尾一正 小原きぬ子  
 中村肇美 小玉嘉彦 成川みさお  
 中川光郎 鎌山幸雄 中嶋日出男  
 上田裕子 村井寿和 打越千勝  
 ◎呉比恰美 ◎村田智俊(計28名)

愛宕山シリーズ14  
 砥石谷・社務所から中尾根  
 2月6日(日) 晴れ (火曜ハイイク29)  
 (集合) 清滝バス停9・15一梨の  
 木大神10・20一30一砥石谷一社  
 務所12・00(集合)12・50一水尾  
 分岐13・25一ツツジ尾根一峠14・  
 00一中尾根一J.R.保津駅15・40

(解散)  
 この頃は大雪なのに、雪も無く  
 風も無く16度と絶好の山日和に恵  
 まれる。あまり歩かれない砥石谷  
 の急登をクリアして山頂で昼食。  
 下りに使う中尾根が落葉の積もっ  
 た柔らかい道で気持ちがいい。笑  
 顔で終わった山行だった。  
 (参加者) 下郡正年 木村 豊  
 塚本忠次 栗栖君子 大林 進  
 長尾一令 船越利明 野末あや子  
 松井明忠 西條良彦 野々山明美  
 渡部和美 仲山節子 平田輝美  
 本間繁子 中川節子 川上久堅  
 和田直樹 小川晴美 中澤ちず子  
 本間昭恵 岡田里子 村上陽子  
 岩本彩子 武村十鶴 金谷 昭  
 青木一雄 大和 絃 佐々木幸子  
 後藤純子 加藤元彦 菅 キヤウ  
 中村英雄 今泉 勲 瀬戸内伸子  
 谷 守 石原君子 猪狩美枝子  
 市野博文 夏山香子 今村あやの  
 竹田善英 櫻島康一 林 弘毅  
 細野欽也 渡辺早月 ○村井寿和  
 ○沖 伸 ○船本裕巳子  
 ◎仲谷礼司(計50名)  
 鈴鹿・奥ノ細谷から清水頭  
 2月6日(日) くもりのち晴れ  
 (集合) 東近江市水源寺支所9・



20 (車) フジキリ林道分岐9・40 (電車) 9・55 奥ノ畑谷山合11・15 奥ノ畑谷12・50 (昼食) 13・15 清水頭13・22 大峠14・30 1 ツルベ谷山合15・20 フジキリ林道分岐16・40 (解散) フジキリ谷沿いの道はほとんどラッセルがない。奥ノ畑谷へ入ると広々とした雪原を行く。奥ノ畑谷への最後の登りは夏道はとらず、右手の尾根へ。新雪があればナダレの心配がある要注意の斜面だが、今日は雪が安定している。南西尾根へ出れば、南側は雪がなく春の気分。清水頭からやぶの出た林道を大峠へ。ツルベ谷道は雪が残っていたが、鞍向山からの踏み跡が残り、歩きやすかった。林道歩きが長いのが難点のコースだが、鈴鹿らしからぬ広々とした雪原と鈴鹿西面の大展望が楽しめた。

美濃・天狗山南西尾根 (自然観察山行228) 2月10日(日) くもり (集合) J R 大垣駅9・00 (バス) 坂内川赤い吊橋10・05 登山口10・10 P799 12・00 (昼食) 13・00 登山口15・00 赤い吊橋15・05 (バス) 親芝 池田温泉16・15 (入浴) 17・00 (バス) 大垣駅17・20 (解散) スノーハイキングの予定であったが、積雪はほとんどなく、急登に嘆きP799に到着してやっと雪を見た。天狗山はなお遠く、時間切れを宣言して撤退。下山は時間にならぶゆとりができて、休憩を重ねてくだった。

前夜の寒波で期待の雪が電ヶ岳道からあり、滝谷で何とか雪遊びができた。倒木だらけの沢筋歩きや急登のアップダウン、水尾岐れからの西コースも急な下りで、私の山行としては初の健脚向きの山行となった。

(バス) 富田林駅16・30 (解散) 2月とは思えない陽気で、登りでは皆さん少し汗ばんでいた。お菊山からは開空の青い海、遠くには淡路の山々が微かに見え、早春の穏やかな歩きを満喫した。

所感展望はまずまず。八合目辺りのヒメシカラが見事だった。

2月17日(日) 晴れ 1泊2日 (集合) 近鉄大和八木駅8・00 (バス) 荷坂トンネル入口旧道分岐11・00 荷坂峠11・10 沖見草11・30 (昼食) 12・15 紀伊長島側登り口12・40 50 一里塚13・10 国道42号線道の駅「マンボウ」13・30 14・10 (バス) 有久寺温泉14・40 (泊) (18日) 晴れ 有久寺温泉8・30 (バス) 梅ヶ谷谷筋古橋9・00 高野橋ツツラト峠登り口9・30 1 ツツラト峠9・50 10 上の山ノ神10・25 1 ツツラト峠伊長島側登り口10・45 1 下の山ノ神10・55 1 ツツラト花広場11・00 (昼食) 11・50 1 志志川松橋12・15 (バス) 前山郵便局前12・25 奥村墳

2月17日(日) 晴れ 2月18日(日) 晴れ (集合) 甲頭倉登り口広場8・20 (車) 今知8・40 汗まき峠9・16 35 1 反折岐14・10 25 1 雲石山15・10 20 1 水尾岐れ15・45 1 西コース大岩16・10 1 中尾根16・55 1 J R 保津駅17・05 (解散) 前夜の寒波で期待の雪が電ヶ岳道からあり、滝谷で何とか雪遊びができた。倒木だらけの沢筋歩きや急登のアップダウン、水尾岐れからの西コースも急な下りで、私の山行としては初の健脚向きの山行となった。

2月17日(日) 晴れ (集合) 近鉄富田林駅9・00 30 (バス) 近鉄ノ池10・30 1 林道 大山11・55 (昼食) 12・30 1 殿尾山12・55 1 お菊山三角点13・25 1 お菊山14・00 1 4等三角点 1 尾根分岐14・50 1 青少年の森15・20 30 1 おさる岩11・00 1 雲石山11・55 (昼食) 13・00 1 南麓岳14・45 1 笹峠15・40 1 今知15・50 (解散) 前日の雨で登りの道はドロドロで滑り、泥だらけになる。山頂部と西南尾根も雪はほとんど消え、北斜面に少し残るだけ。風も強くガスで展望は無し。しかし、セツブンソウとフクジュソウの早春の花を愛でることができた。



山形 明 神野孝允 南 智恵子  
小杉 桂 谷 守 森 美香子  
岩本彩子 石原君子 光川 二美子  
村井寿和 國近正男 竹越富実江  
◎高島伸浩 (計15名)

白山・日照岳  
2月25日(日) 晴れ  
(集合) JR西岐阜駅7:00(車)  
荏川9:15(車) 神尾橋先駐車地  
9:25-1400(地点)11:00-  
P1645の先12:45(昼食)13:  
15-日照岳13:55-14:05(駐車  
地)16:15(車) 荏川のドライブ  
イン16:30-55(解散・車) 西岐阜  
駅21:35

雪は少ないが最初から最後まで  
あり、山は絶好の状態。全員登頂  
できて展望も良かった。しかし、  
帰りの高速道が大渋滞、4時間遅  
れでぎりぎり関西からの人が帰れ  
た。

(参加者) 朝倉俊雄 長坂佐知子  
島崎信吾 高野芳彦 武藤由美子  
山形 明 緒方由子 伊藤恵美子  
竹内正子 大西節郎 北村つねみ  
堀 寿江 山田妙子 佐古田文字  
◎山田明男 (計15名)

湖北・虚子山(南西尾根から)

**新ハイキングクラブ関西  
入会の案内**

当会は雑誌「新ハイキング関西  
の山」(隔月刊・年6号発行)の  
定期購読者を中心にしたハイキン  
グの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイ  
ドなどで、関西のハイキングコー  
スや山の情報を発信しています。  
山の知識を深め、健康な身体をつ  
くり、自然のなかを歩く喜びをと  
もに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和  
25年発足以来、東京を中心に55年  
間余、好評のうちに活動していま  
す。関西は平成3年秋発足で16年  
目に入りますが、すでに多数の会  
員で活動しています。

会員は当会の山行例会に優先し  
て参加できます。この山行例会を  
通じて楽しい山歩きを、多くの仲  
間たちと味わいませんか。

そして、各目で切符を買い茶代を  
払ひ、宿泊料もすべてワリカンで  
す。

会員には「新ハイキング関西の  
山」を毎月お届けします。  
四季の自然に触れながら山を歩

2月26日(月) 7日(火)  
前後発日帰り

(26日)(集合) JR米原駅22:  
30(道の駅「伊吹の里」にて泊)  
(27日) 国見林道並支線分岐駐  
車地7:56-P153(北東)8:  
25-P116311:05-江美後線  
11:29-虎ノ山11:44(昼食)13:  
31-南西尾根經由-国見林道駐車  
地15:00(車組解散)(車) 米原  
駅16:00(解散)

国見林道並支線分岐からササ  
やぶに覆われた仕事道を伝い、全  
く雪が無い尾根にのる。さもあら  
うかと準備したナタと鋸が大活躍。  
1000(付近)でようやく雪が統  
まです。江美後線へ出て雪量は  
例年に比べるべくもなく、やぶが  
露出。おかげで、国見スキー  
場が閉鎖されて雑音が聞こえず、  
山頂では静かな時を過ごせた。蛇  
や鋸をふるっていただいた方々は  
翌日、足ならぬ利き腕が筋肉通に  
なったことでしょう。

(参加者) 大村俊子 佐古田文字  
山藤勝美 井沢正正 伊藤喜久男  
小林 修 堀 寿江 梶 真知子  
山形 明 山口敬明  
◎岡平くみ子 ◎田中哲治 (計12名)

京都東山・大文字山から長等山  
(北山ちよと歩き86)

(集合) 京都地下鉄鞍上駅9:00  
/日向大神宮9:15-20-伊勢神  
宮通所9:30-七福恵安苑9:  
50-大文字山三角点10:58-11:  
10-南社11:35-航空保安施設管  
理道路12:00(昼食)12:50-  
三井寺分岐13:20-長等山13:30  
-早尾神社14:20(解散)

天候回復が遅れ、午前中は小雨  
であったが幸い風は無かった。期  
待した展望は得られなかった。大  
勢の参加者にもかかわらず予定通り  
早尾神社に全員無事に下り立つこ  
とができた。

(参加者) 下都正年 渡辺寿美江  
馬龍忠男 栗橋君子 須藤信子  
本家洗子 大林 進 船越利明  
平田輝美 中村静香 南 智恵子  
武村千鶴 大園のり 加藤元彦  
和田 晃 宮本真幸 上野保美  
和田純子 松尾麗子 野村 潔  
河内正治 宮崎紀正 鶴飼美恵子  
小林博子 小林 桂 原 みとえ  
岩城豊子 宮西和子 野里マツ代  
後藤純子 酒見洋子 中嶋日出男  
市野博文 木村 豊 山盛加奈子  
金森節子 和田真樹 小島ワジ子

小栗大直 森本幹雄 中上紀代子  
夏山春子 堀江房麿 戸田サエミ  
松本忠雄 榎 照司 榎 美栄子  
兼田幸子 小田潤子 佐々木幸子  
志木明美 中尾博子 友田美保子  
中村英雄 平 幸子 光川二美子  
田中順子 今泉 勲 今村あやの  
中川光郎 小川晴美 伊東ナオ子  
村井秀和 清 紀嘉 岩本いすゞ  
渡部和美 崎山悦子 宮路ちへ子  
星野正弘 岡崎知子 小野しげ子  
長沢佑美 岡崎知子 松上美代子  
妹尾正一 舟岡 武 風見瑠子  
白島忠子 岡田里子 武田元可  
渡辺早月 今村貞子 本間黎子  
◎本間 隆 ◎沖 伸  
◎岩本彩子 ◎石原君子  
◎青木一雄 ◎仲谷礼司  
◎金谷 昭 (計90名)

(1・2月の参加 延821名)

き、若々しい心と健康をいつまで  
も持続するのはすばらしいことで  
す。これから始めてみたい人、す  
でにベテランの人みなさんご入  
会いただけます。

入会金 5000円(ラッペン共  
年会費 30000円(送料共)

入会の申し込み(随時)はこの  
雑誌に挿入の振替用紙をご利用く  
ださい。氏名(ふりがな)及び第  
何号からの送本かを忘れずに記  
入ください。

なお、定期購読をご希望される  
方も会員になっていただきますと、  
毎号確実にお手元に届きますので  
便利です。

切手530円分をお送りになれ  
ば、「新ハイキング関西の山」最  
新号を1冊送ります。

○山行リーダー募集  
リーダーは2ヶ月に1〜2回程  
度の山行例会を計画・実施してい  
ただきます。

無償の奉仕ですが、やりがいも  
あり、楽しいものです。経験のある  
方や、やってみたいと思われ  
方は、新ハイキング関西までご連  
絡ください。マニュアル「リーダー  
必携」をご参考に送ります。

**訂正とお詫び**

93号(隔巻) 51ページ下段6行  
目「下坂・バス停」は「坂下・バス  
停」が正しい(現在、江若バスが  
坂下集落内を通過する)。  
93号(隔巻) 51ページ下段1行  
目「展望は期待できない」とある  
が、最近東側の樹が切り開かれた  
ので展望が良くなっている(3月  
21日の例会で知った)。

93号(隔巻) 79ページ中段終わ  
りから7行目「伊勢道」は「伊勢  
道路」が正しい、「伊勢道路」

は伊勢から志摩へ通じる県道32号  
線(伊勢磯部線)のことで、「伊  
勢自動車道」ではない。

93号(隔巻) 91ページ下の計画  
表の1行目、及び95ページ三段2  
行目の「木原山」はいずれも「大  
原山」が正しい。

93号(隔巻) 94ページ下段13行  
目「京身峠」は「京身峠」が正し  
い。  
93号(隔巻) 95ページ二段8行  
目「鈴鹿を歩く20-1」は「鈴鹿  
を歩く26-1」が正しい。

93号(隔巻) 97ページ下段終わ  
りから5行目「あまごの里」は  
「イワナの里」が正しい。  
(編集室)

書店でお求めになりたい方へ  
前もって毎月ほしいと「購読  
予約」をさせていただきますと、どこの書  
店でもお買い求めいただけます。  
「関西の山」は隔月刊の20  
日頃(隔月刊)の発売